

●ガンダムの研究・解説書



MS大図鑑

- 1.一年戦争編
 - 2.グリプス戦争編
 - 3.アクシズ戦争編
 - 4.MS開発戦争編
 - 5.C・バビロニア
建国戦争編
 - 6.テラース紛争編(上)
 - 7.テラース紛争編(下)
- 各巻¥700～¥800

◀キャラクター
大図鑑ⅠⅡ
.....各巻¥780

▼メカニック大図鑑
.....¥800



◀戦略戦術大図鑑
.....¥880

好評発売中

表紙イラスト/開田裕治

裏表紙 /原画:たけばしんご セルワーク:甲斐政俊

ENTERTAINMENT BIBLE.52

機動戦士ガンダム

MS大図鑑

【PART.8 SPECIALガンダム大鑑】



ENTERTAINMENT BIBLE

機動戦士ガンダム

MS大図鑑

【PART.8 SPECIALガンダム大鑑】



【Mobile Suit GUNDAM】【MSV】【MS-X】

【Mobile Suit GUNDAM 0080 ～war in the pocket～】

【Mobile Suit GUNDAM 0083 ～STARDUST MEMORY～】

【MS GENERATION】【Mobile Suit Z GUNDAM】【Mobile Suit GUNDAM ZZ】

【Z-MSV】【ZZ-MSV】【GANDAM SENTINEL】【DOUBLE FAKE】

【Mobile Suit GUNDAM ～Char's Counter Attack～】【C.C.A. MSV】

【Mobile Suit GUNDAM F90】【Mobile Suit GUNDAM F91】【SILHOUTTE FORMULA】

定価880円

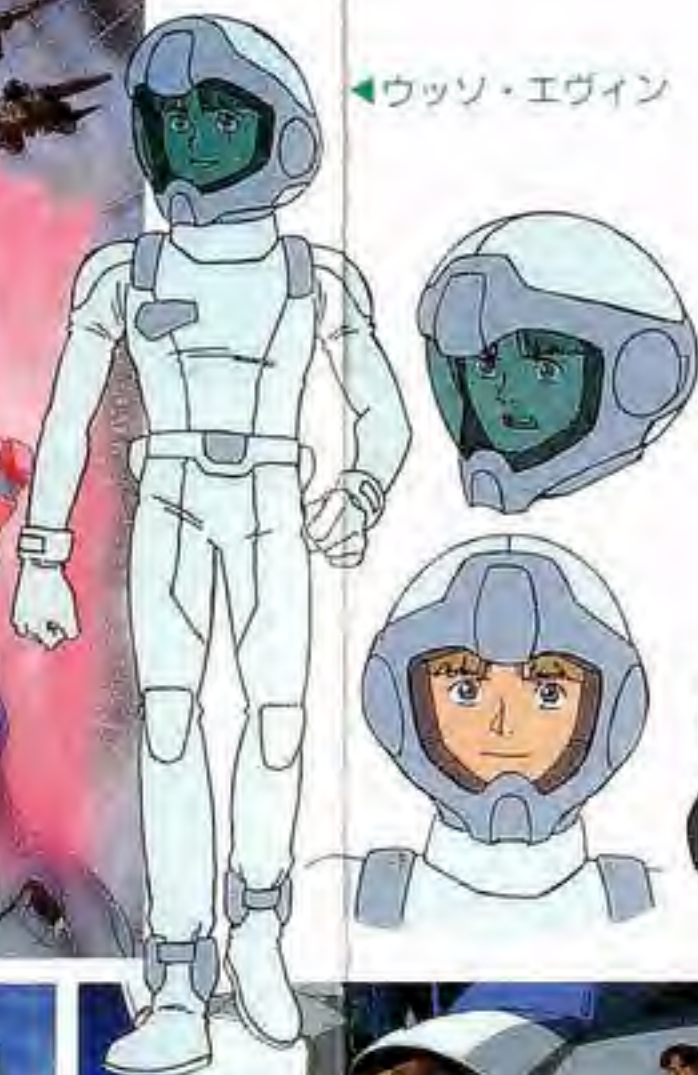
(本体854円)

ENTERTAINMENT BIBLE SERIES

- | | |
|----------------------------------|------|
| 1:MS大図鑑①～一年戦争編～ | ¥700 |
| ②:MS大図鑑②～グリプス戦争編～ | ¥721 |
| 3:MS大図鑑③～アクシズ戦争編～ | ¥720 |
| 4:SDガンダム公式カタログ① | ¥680 |
| 6:スタジオぬえメカニックデザインブック①
～機動兵器編～ | ¥800 |
| 8:オーラバトラー大図鑑 | ¥780 |
| 9:スタジオぬえメカニックデザインブック②
～宇宙戦艦編～ | ¥800 |
| 10:サンダーバード大図鑑① | ¥850 |
| 11:サンダーバード大図鑑② | ¥850 |
| 12:SDガンダム公式カタログ② | ¥680 |
| 13:レイズナー大図鑑 | ¥780 |
| 14:SD戦国伝プラモデル公式ガイドブック | ¥680 |
| 15:エルガイム大図鑑 | ¥780 |
| 16:アートミック大図鑑① | ¥850 |
| 17:パトレイバー大図鑑① | ¥780 |
| 18:ザブングル大図鑑 | ¥780 |
| 19:アートミック大図鑑② | ¥850 |
| 20:ガンダムプラモ攻略作戦 | ¥780 |
| 21:バイファム大図鑑 | ¥780 |
| 22:宇宙戦艦ヤマトメカニック大図鑑① | ¥780 |
| 23:パトレイバー大図鑑① | ¥780 |
| 24:最新ウルトラマン大図鑑 | ¥850 |
| 25:MS大図鑑④～MS開発戦争編～ | ¥780 |
| 26:宇宙戦艦ヤマトメカニック大図鑑② | ¥780 |
| 27:マクロス大図鑑 | ¥780 |
| 28:永井豪ワールド 悪魔辞典 | ¥850 |
| 29:機動戦士ガンダムキャラクター大図鑑① | ¥780 |
| 30:パトレイバー大図鑑③ | ¥780 |
| 31:仮面ライダー大図鑑① | ¥880 |
| 32:仮面ライダー大図鑑② | ¥880 |
| 33:機動戦士ガンダムキャラクター大図鑑② | ¥780 |
| 34:仮面ライダー大図鑑③ | ¥880 |
| 35:MS大図鑑⑤～バビロニア建国戦争編～ | ¥800 |
| 36:SDガンダム公式カタログ③ | ¥800 |
| 37:機動戦士ガンダムメカニック大図鑑 | ¥800 |
| 38:ヴィルガスト大図鑑① | ¥800 |
| 39:機動戦士ガンダム戦略戦術大図鑑 | ¥880 |
| 40:ヴィルガスト大図鑑② | ¥800 |
| 41:最新ゴジラ大図鑑 増補改訂版 | ¥880 |
| ④2:MS大図鑑⑥～デラース紛争編(上)～ | ¥800 |
| 43:仮面ライダー大図鑑④ | ¥880 |
| 44:仮面ライダー大図鑑⑤ | ¥880 |
| 45:タイムボカン大図鑑⑤ | ¥800 |
| 46:MS大図鑑⑦～デラース紛争編(下)～ | ¥800 |
| 47:仮面ライダー大図鑑⑥ | ¥880 |
| 48:スーパーロボット大図鑑①～鉄の城編～ | ¥880 |
| 49:仮面ライダー大図鑑⑦ | ¥980 |
| 50:超最新ゴジラ大図鑑 | ¥880 |



◀ ウッソ・エヴィン



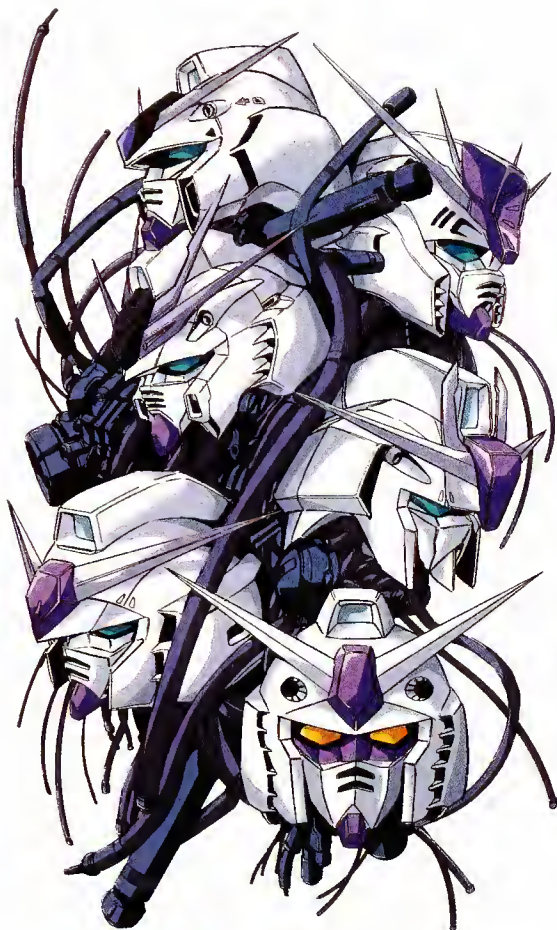
◀ ブイガンダム



Vガンダム登場

新世代ガンダム出撃!!

V GUNDAM

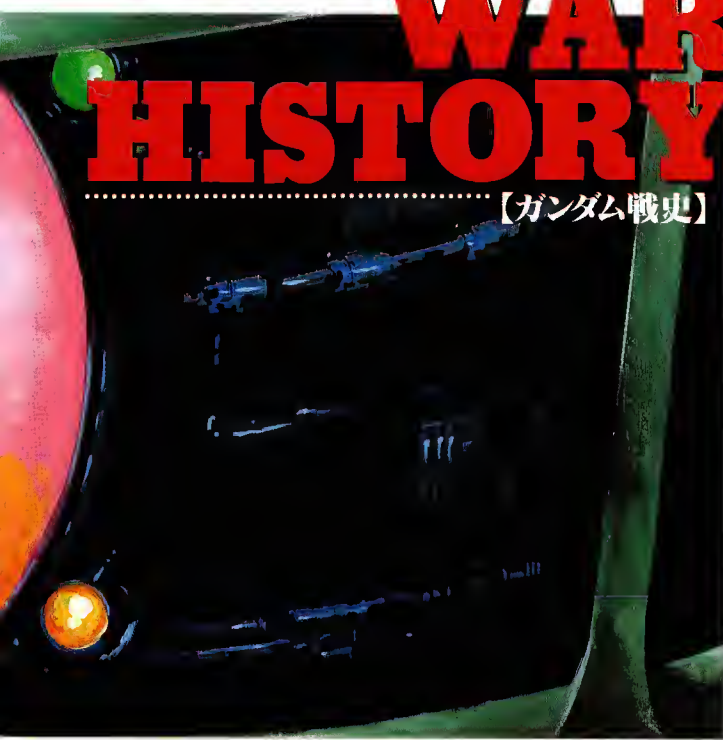


機動戦士ガンダム
MS大図鑑PART.8
SPECIAL
【ガンダム大鑑】

Illustrated by Yasuhiro Moriki

GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】



1、誕生

U.C.0079

力を求めていた。それもジオン公国軍の主力兵器、MSに対抗する力を。

宇宙世紀0079。地球連邦はサイド3に本拠をおくジオン公国軍との戦闘状況に陥っていた。それも、ジオン側の一方的な宣戦布告に始まるものであり、戦況は連邦にとってあまりにも不利な状況であった。スペースコロニーの投下が始まる奇襲、そしてリーダー探査や通信もままならないミノフスキー粒子下における有視界戦闘用に開発された有人機動兵器MSの威力に圧倒されたのだ。MSは宇宙空間での機動性、及び攻撃力、防衛力において、連邦軍の在

【SPECIAL ガンダム大鑑】

この時期、初の宇宙大戦とともに、その後の戦場の主力となる兵器MSが誕生した。そして、ガンダムという名前はMSの代名詞になる。

イラスト／武半慎吾



来兵器を凌駕する戦闘力を有している。いわばミノフスキー粒子下における切り札とも言える兵器であった。これに対して連邦は、ジオン軍の主力MS、ザクの解析を果たすと同時に自軍の戦力の一環として活用することを決定。MSの開発とその運用のための新造宇宙艦の建造を目的としたV作戦を発動させる。それに基づき試作開発されたのがRX78ガンダムである。戦争にMS対MSという新たな局面を加えたこの機体は連邦軍が初めて実戦投入したMSでもある。パイロットの不備を補う学習型コンピュータやMS初のビーム兵器を搭載しており、その搭乗者アムロ・レイの特異性ももたず、瞬く間にジオン軍にとっての脅威となった。

GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】



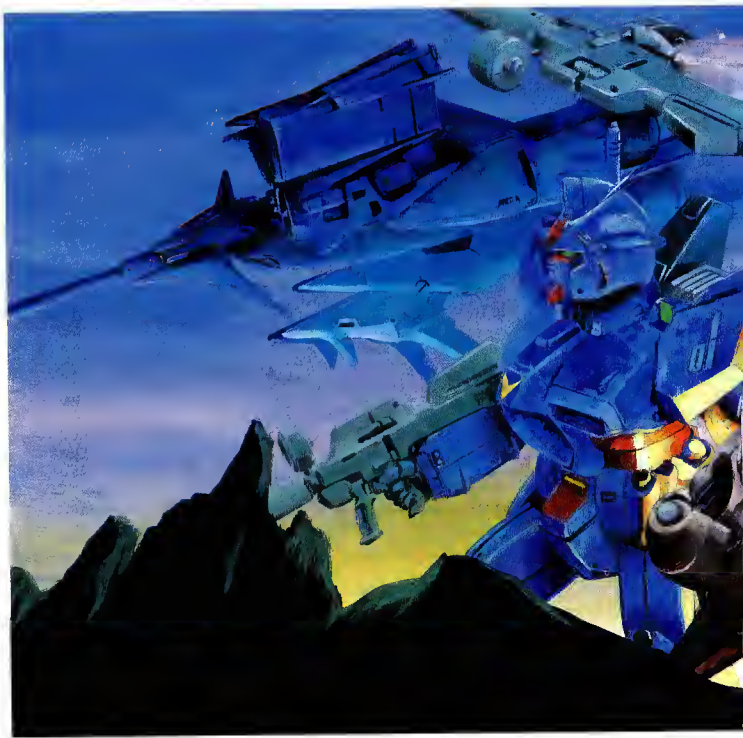
2、変転

U.C.0080~0083

一年戦争の末期、ジオン軍は従来の構想とは異なった兵器体系を展開し始める。ニュータイプ専用機……公国内のフラナガン機関で新たな戦力として研究されていたニュータイプに適合した機体である。一年戦争の主戦場に、これに匹敵する連邦軍の機動兵器が登場したという記録はない。だが、連邦軍もこれに対抗する兵器を開発していたのだ。ニュータイプの能力を有すると思われるRX78の搭乗者アムロ・レイ専用機に設計変更されたガンダムがあったのだ。RX78NT1。通称アレックスと呼ばれる機体である。サイド6を経てアム

宇宙世紀0080～0083

この時期、次代の主力機を目指して、何体もの機体が開発される。だが、実際に正式に採用された機体は少ない。



ロ・レイへ手渡されるはずであった。だが、その途中でジオン独立部隊との交戦状態に陥り、機体は破壊される。時に、月面のグラナダにおいて連邦と公国軍の間に終戦協定が結ばれた頃のことである。

そして迎えた戦後。連邦は公国軍のMS研究資料及び技術者を手中に収め、MS技術の遅れを取り戻す。同時に、新たな主力兵器を模索する時代に入る。その際、戦略を盛り込んだMSの開発が極秘裏に提案されていた。それがガンダムGPシリーズである。

RX78の正統後継機を目指したGP01、戦略核を有するGP02A、MAとしての可能性を探ったGP03の3系統（不確定情報では4系統）の試作機が存在したが、どれも量産されるに至らなかった。5

GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】



3、飛躍

U.C.0087~0088

宇宙世紀0085年。連邦軍はジオン残党狩り部隊テイターズの兵器として、新たな機体構造を持つMSを開発した。RX-178ガンダムMk II。ムーバブルフレームを搭載したMSである。この機体の誕生が新たな戦争の火種をもたらした。連邦を牛耳らんとするテイターズに反旗を翻した反連邦組織エウーゴがこの機体を奪取。自軍の戦力に加えたのである。以来、主にガンダム型のMSはアナハイム・エレクトロニクス社で開発されることとなり、この時代、ガンダム型はエウーゴの主戦力ともなった。

それは新たな波がMSの設

宇宙世紀0087-0088

この時期、変形機構が導入され、
これより前の時代に輪をかけて、
さまざまな形態の機体が現われている。



計思想に訪れても変わらなかった。TMS。可変機構を持つMSである。エウーゴ及びアナハイム社は、同組織の象徴となる高性能MS開発計画「Zプロジェクト」にこのコンセプトを導入。ムーバブルフレームを利用した変形機構を持つガンダムを完成させる。それがMSZ006Zガンダム。エウーゴ内のニュータイプの意見が反映されたというその機体は、大気圏突入能力を持つウェイブライダーに変換することができた。

また、後に組織の最高機種として開発されたMSZ010ZZガンダムは、MA並のハイメガキャノンを持ち戦艦並みの戦力を持つとともに、バイオセンサーを採用し、ニュータイプ対応MSとして進化している。

GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】



4、混沌

U.C.0090~0123

ティターンズとエウーゴの戦い、地球圏へと侵入してきたネオジオンを標榜するアクシズとの戦いの後、連邦は、通常兵器の配備も、開発も凍結する。小規模なテロ以外の脅威はないと判断したのだ。それに対応するべく編成されたのが外郭新興部隊ロンド・ベルである。だが、その戦力はあまりにも非力であった。そのMS部隊々長アムロ・レイは、ネオ・ジオンの再来そしてその主力となるであろうニュータイプ部隊を想定。専用機としてサイコミュ搭載のZガンダムを完成させる。フィンファンネルを持つその機体は20メートル級のMS

宇宙世紀0090～0123

この時期、変形型はなりをひそめたが、機体が大きくなり過ぎ整備などの問題が生じていた。以降、機体の小型化が始まる。



が主流であった時代に最強を
標榜しうる機体であった。

だが、この機体を最後に、
MSの開発は冬の時代を迎える。
連邦は疲弊していたのだ。
だが、軍は新たな主力兵器を
必要としていた。そのために
「性能を落とすことなく調達
容易な小型MSを開発する」
というプランをとる。その要
望により海軍戦略研究所が新
たなMSを開発した。Fシリ
ーズのガンダムである。F9
0タイプの量産機は、兵装を
試験するための試験機でもあ
る。そしてその中にはニュー
タイプ実験機として開発され
たものがある。そのF90系
の集大成とも言えるのがF9
1である。新型兵器ウェスバ
ーを搭載したF91は、当時
のMSの限界性能を達成すべ
く開発された機体でもあった。9

GUNDAM 【ガンダム戦史】WAR HISTORY



5、鳴動

U.C.0123~

求めるものはない。目指すものはない。宇宙世紀0120年代。小型MS開発競争で海軍戦略研究所に敗れたアナハイムエレクトロニクス社は、非合法な手段を用いて入手した海軍戦略研究所のF計画の技術を基に新たな計画に着手する。シルエットフォーミュラプロジェクト。すなわち、アナハイム社のFシリーズガンダムを開発する計画であった。アナハイム社は連邦軍の次期主力兵器の開発製造から外されることを懸念していた。同時に、ガンダムを造り続けて来たという自負があったのだ。RXF91シルエットガンダム。形式番号に従来のガ

宇宙世紀0123-

この時期、主力機は15メートルサイズになっている。だが、他の機体に決定的な差をつけるための機能を求めて、模索が始まった。



ンダムに記されていたRXの文字が冠されているのもそのためである。また、RXF91は基本データを盗用しているため、機体バランスなどはF91にかなり近い。

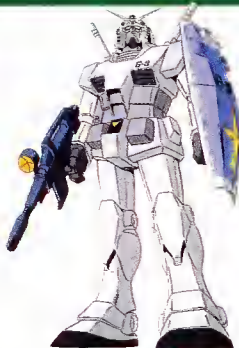
この機体はサイド3と月の中間に位置するゼブラゾーンでの運用試験中にクロスボーン・バンガード所属のダーク・ターガー隊の攻撃を受けて大破。回収された機体は徹底的な改修を受け、海軍戦略研究所がF91に搭載する予定の新装備ヴェスパーをいち早く搭載。RXF91Aシルエットガンダム改へと進化を遂げる。それに前後して、シークレットフォーミュラでえた技術を従来ガンダム系MSに導入したRX99ネオガンダムが完成。MSは新たな局面を迎え始める。

RX-78-2
ガンダム



- ①汎用多目的型試作MS
- ②地球連邦軍
- ③機動戦士ガンダム
- ④アムロ・レイ

RX-78-3
G-3ガンダム



- ①汎用多目的型試作MS
- ②地球連邦軍
- ③MSV
- ④—

RX-78-1
プロトタイプガンダム



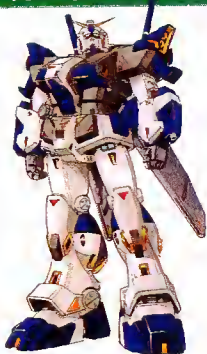
- ①汎用多目的型試作MS
- ②地球連邦軍
- ③MSV
- ④—

FA-78-1
フルアーマーガンダム



- ①汎用増加装甲装備型試作MS
- ②地球連邦軍
- ③MSV
- ④—

RX-78-5
ガンダム5号機



- ①宇宙用多目的型試作MS
- ②地球連邦軍
- ③MSV
- ④—

RX-78-4
ガンダム4号機



- ①宇宙用多目的型試作MS
- ②地球連邦軍
- ③MSV
- ④—

RX-78-7
ガンダム7号機



- ①宇宙用多目的型試作MS
- ②地球連邦軍
- ③MSV
- ④—

RX-78-6
ガンダム6号機



- ①宇宙用砲撃型試作MS
- ②地球連邦軍
- ③MSV
- ④—

RX-79-G1
水中型ガンダム



- ①水陸両用多目的型試作MS
- ②地球連邦軍
- ③MSV
- ④—

FA-78-3
フルアーマーガンダム7号機



- ①宇宙用増加装甲装備型試作MS
- ②地球連邦軍
- ③MSV
- ④—

FHA-78-3 重装フルアーマーガンダム



- ①宇宙用増加装甲装備型試作MS
- ②地球連邦軍
- ③MSV
- ④—

PF-78-1 パーフェクトガンダム



- ①—
- ②—
- ③—
- ④—

FA-78-2 ヘビーガンダム



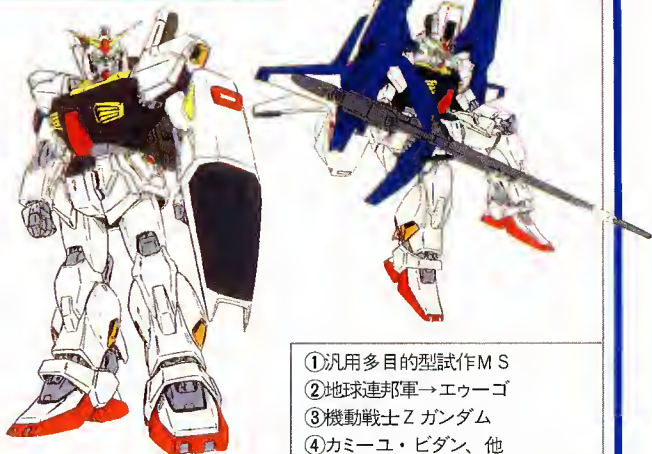
- ①汎用多目的型試作重MS
- ②地球連邦軍
- ③MSV
- ④—

MSZ-006
Zガンダム



- ①汎用攻撃型可変試作MS
- ②エウゴ
- ③機動戦士Zガンダム
- ④カミーユ・ビダン

RX-178
ガンダムMkII



- ①汎用多目的型試作MS
- ②地球連邦軍→エウゴ
- ③機動戦士Zガンダム
- ④カミーユ・ビダン、他

MSZ-008

ΖⅡ



- ①宇宙用攻撃型可変試作M S
- ②エウーゴ
- ③Ζ—M S V
- ④—

MSZ-006x1, x2, x3

プロトΖガンダム



- ①汎用攻撃型試作M S
- ②エウーゴ
- ③Ζ—M S V
- ④—

FA-178

フルアーマーガンダムMkⅡ



- ①汎用増加装甲装備型試作M S
- ②エウーゴ
- ③Ζ—M S V
- ④—

MSZ-007

量産型Ζガンダム



- ①汎用攻撃型量産M S
- ②エウーゴ
- ③Ζ—M S V
- ④—

MRX-009
サイコガンダム



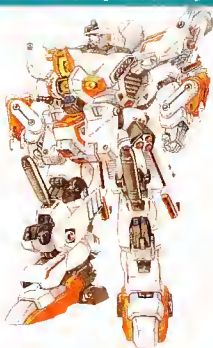
- ①汎用攻撃型可変試作MA（NT専用）
- ②ティターンズ
- ③機動戦士Zガンダム
- ④フォウ・ムラサメ

MRX-010
サイコガンダムMKⅡ



- ①汎用攻撃型可変試作MA（NT専用）
- ②ティターンズ
- ③機動戦士Zガンダム
- ④ロザミア・バダム、他

MRX-011
量産型サイコガンダム



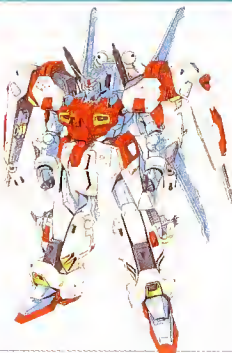
- ①汎用攻撃型可変量産MA（NT専用）
- ②ティターンズ
- ③Z—MSV
- ④—

MRX-07
プロトタイプサイコガンダム



- ①汎用攻撃型試作MA
- ②ティターンズ
- ③Z—MSV
- ④—

FA-007GⅢ
フルアーマーガンダムMK—Ⅲ



- ①汎用増加装甲装備型試作MS
- ②エウーゴ
- ③Z—MSV
- ④—

MSF-007
ガンダムMK—Ⅲ

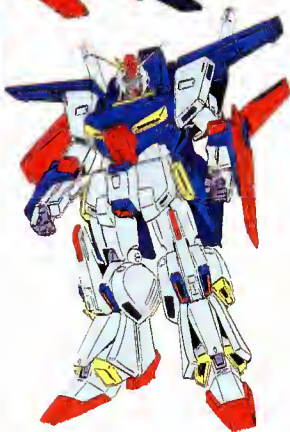


- ①汎用攻撃型試作MS
- ②エウーゴ
- ③Z—MSV
- ④—

MSZ-010
ZZガンダム



FA-010S
フルアーマーZZガンダム



- ①汎用増加装甲装備型可変試作重
MS ②エウーゴ
③機動戦士ガンダムZZ
④ジュード・アーシタ

- ①汎用攻撃型可変試作重MS
②エウーゴ
③機動戦士ガンダムZZ
④ジュード・アーシタ

MSZ-013
量産型ZZガンダム

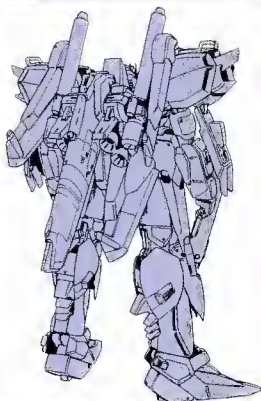


- ①汎用攻撃型量産重MS
- ②エウゴ
- ③ZZ-MSV
- ④—

MSZ-009
プロトタイプZZガンダム

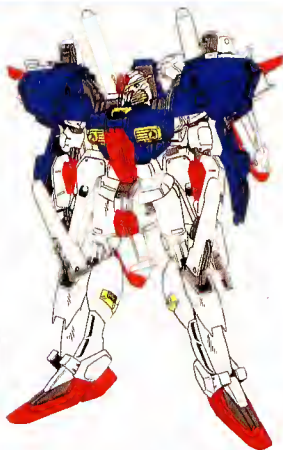


- ①汎用攻撃型可変試作MS
- ②エウゴ
- ③ZZ-MSV
- ④—

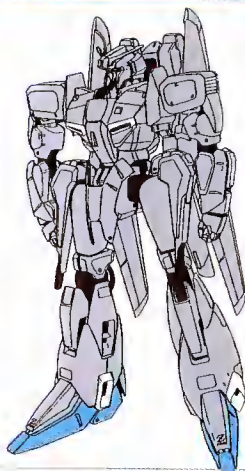
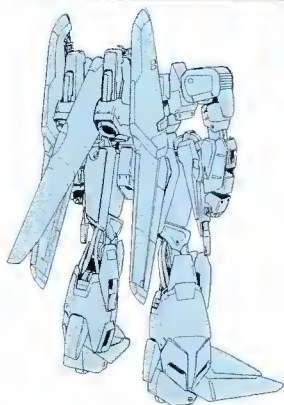


- ①汎用多目的型可変試作MS
- ②地球連邦軍
- ③ガンダムセンチネル
- ④リョウ・ルーツ

MSA-0011
Sガンダム

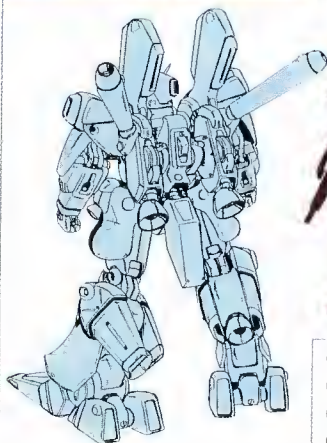


MSZ-006C1
Ζプラス



- ①汎用攻撃型量産可変MS
- ②地球連邦軍
- ③ガンダムセンチネル
- ④テックス・ウェスト、他

ORX-013
ガンダム Mk-V



- ①汎用攻撃型試作重MS
- ②ニューディサイズ
- ③ガンダムセンチネル
- ④ブレイブ・コード



RX-93
レガンダム



- ①汎用攻撃型試作MS (NT専用)
- ②ロンド・ベル (地球連邦軍)
- ③逆襲のシャア
- ④アムロ・レイ

RGZ-91
リ・ガズィ



- ①汎用攻撃型試作MS
- ②ロンド・ベル (地球連邦軍)
- ③逆襲のシャア
- ④ケーラ・スウ

FA-93HWS
レガンダムHWS装備型



- ①汎用増加装甲装備型試作MS (NT専用) ②地球連邦軍
③CCA-MSV
④—

RX-94
量産型レガンダム



- ①汎用攻撃型試作MS
②地球連邦軍
③CCA-MSV
④—

R6Z-91B
リ・ガズィカスタム



- ①汎用攻撃型試作MS (特殊仕様)
②地球連邦軍
③CCA-MSV
④—

RX-93
レガンダムDFE装備型



- ①汎用攻撃型試作MS (NT専用)
②地球連邦軍
③CCA-MSV
④—

ガンダムF90A



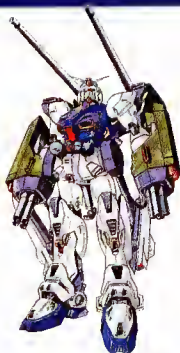
- ① F 90長距離侵攻仕様
- ② 地球連邦軍
- ③ F 90
- ④ デフ・スタリオン

ガンダムF90



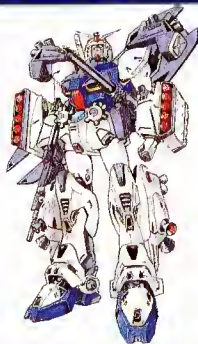
- ① 汎用多目的型試作M S
- ② 地球連邦軍 ③ F 90
- ④ デフ・スタリオン、シド・アンバー

ガンダムF90S



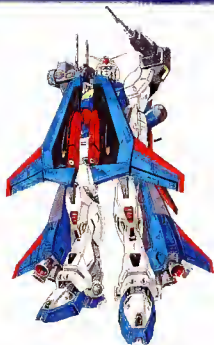
- ① F 90長距離支援仕様
- ② 地球連邦軍
- ③ F 90
- ④ デフ・スタリオン

ガンダムF90D



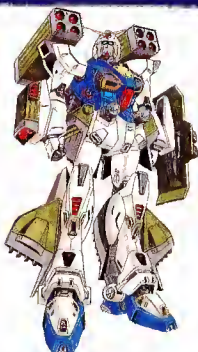
- ① F 90接近戦仕様
- ② 地球連邦軍
- ③ F 90
- ④ デフ・スタリオン

ガンダムF90P



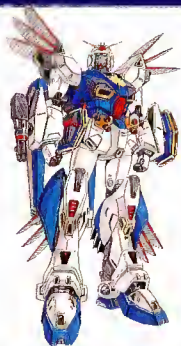
- ① F 90大気圏突入仕様
- ②地球連邦軍
- ③ F 90
- ④ ベルフ・スクレッド、他

ガンダムF90H



- ① F 90砂漠戦用浮上走行仕様
- ②地球連邦軍
- ③ F 90
- ④ —

ガンダムF90V



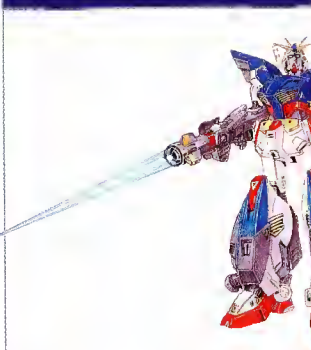
- ① F 90新型火器試験仕様
- ②地球連邦軍
- ③ F 90
- ④ ベルフ・スクレッド、他

ガンダムF90M



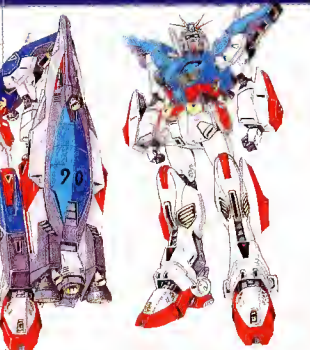
- ① F 90水中戦仕様
- ②地球連邦軍
- ③ F 90
- ④ —

ガンダムF 90 II



- ① F 90 II 迎撃仕様
- ② 地球連邦軍
- ③ F 90
- ④ —

ガンダムF 90 II



- ① F 90 汎用多目的型試作MS
- ② 地球連邦軍
- ③ F 90
- ④ —

OMS-90R ガンダムF 90 火星独立ジオン軍仕様

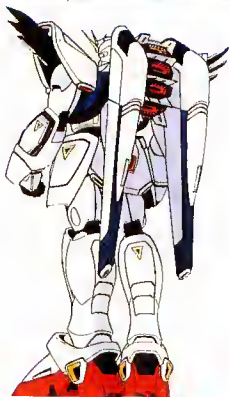


- ① 汎用多目的型試作MS
- ② 火星独立ジオン軍
- ③ F 90
- ④ —

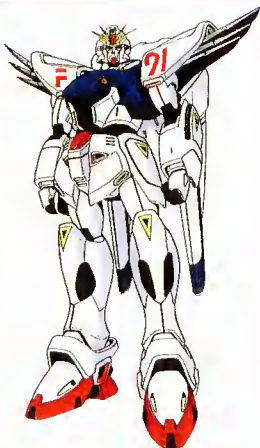
ガンダムF 90 II L



- ① F 90 II 長射程仕様
- ② 地球連邦軍
- ③ F 90
- ④ —



ガンダムF91



- ①汎用多目的型試作MS
- ②地球連邦軍
- ③F91
- ④シーブック・アノー

RXF-91A

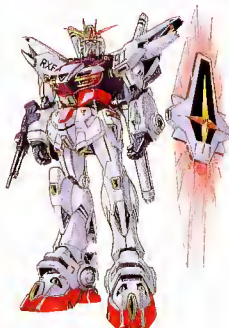
シルエットガンダム改



- ①汎用多目的型試作MS
- ②地球連邦軍
- ③シルエットフォーミュラ
- ④トキオ・ランドール、他

RXF-91

シルエットガンダム



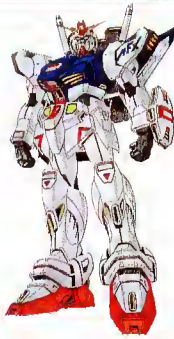
- ①汎用多目的型試作MS
- ②地球連邦軍
- ③シルエットフォーミュラ
- ④トキオ・ランドール

F90MY
クラスターガンダム



- ①汎用多目的型試作MS
- ②地球連邦軍
- ③シルエットフォーミュラ
- ④ウォルフ・ライル

RX-99
ネオガンダム



- ①汎用多目的型試作MS
- ②地球連邦軍
- ③シルエットフォーミュラ
- ④トキオ・ランドール

RX-78NT1-FA
フルアーマーガンダムアレックス



- ①汎用増加装甲装備型試作MS
- ②地球連邦軍
- ③ポケットの中の戦争
- ④クリスティーナ・マッケンジー

RX-78NT1
ガンダムアレックス



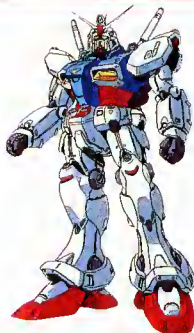
- ①汎用多目的型試作MS（NT専用）
- ②地球連邦軍
- ③ポケットの中の戦争
- ④クリスティーナ・マッケンジー

RX-78GP02A
ガンダム試作2号機



- ①汎用戦略型試作M S
- ②地球連邦軍→デラーズフリート
- ③スターダストメモリー
- ④アナベル・ガトー

RX-78GP01
ガンダム試作1号機



- ①汎用多目的型試作M S
- ②地球連邦軍
- ③スターダストメモリー
- ④コウ・ウラキ

RX-78GP03S
ガンダム試作3号機ステイメン



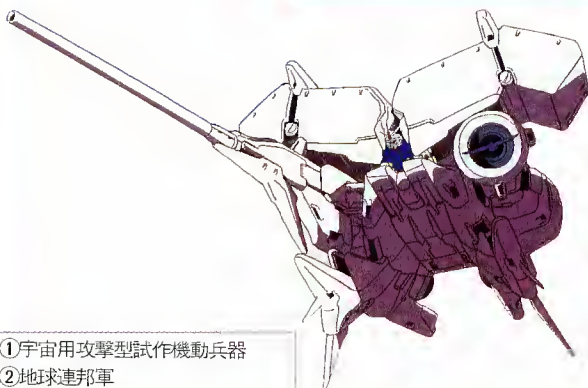
- ①汎用多目的型試作M S
- ②地球連邦軍
- ③スターダストメモリー
- ④コウ・ウラキ

RX-78GP01-Fb
ガンダム試作1号機フルバーニアン



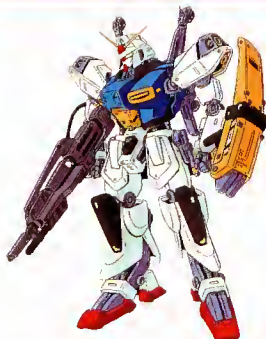
- ①宇宙用多目的型試作M S
- ②地球連邦軍
- ③スターダストメモリー
- ④コウ・ウラキ

RX-78GP03 ガンダム試作3号機



- ①宇宙用攻撃型試作機動兵器
- ②地球連邦軍
- ③スターダストメモリー
- ④コウ・ウラキ

MWS-1905G-2 〇ガンダムセカンド



- ①汎用カスタムメイドワーカー
- ②地球連邦軍（モノトーン・マウス社所有）
- ③ダブルフェイク
- ④ダリー・ニエル・ガンズ

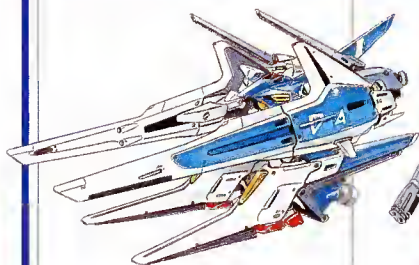
MWS-1905IG 〇ガンダムファースト



- ①汎用作業型試作MS（私家版）
- ②モノトーン・マウス社所有
- ③ダブルフェイク
- ④ダリー・ニエル・ガンズ

RGX-D4

Dガンダムフォース&Dクルーサー



- ①汎用試験型試作MS
- ②地球連邦軍
- ③ダブルフェイク
- ④ダリー・ニエル・ガンズ

RGX-D3

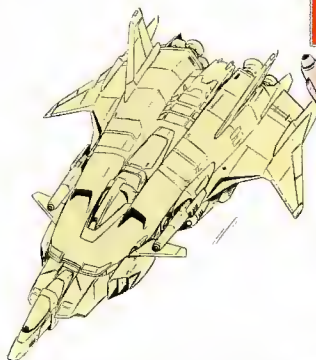
Dガンダムサード



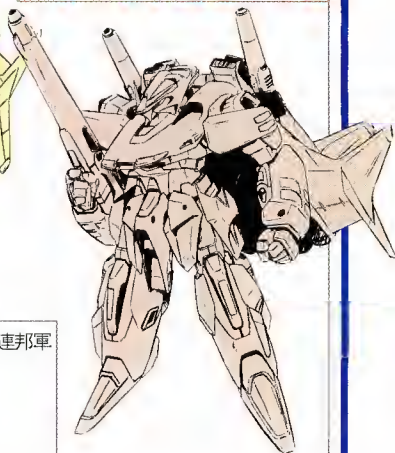
- ①汎用試験型試作MS
- ②地球連邦軍
- ③ダブルフェイク
- ④ダリー・ニエル・ガンズ

RX-78E

ガンダムGT-FOUR



- ①空中戦闘用可変試作MS ②地球連邦軍
- ③MSジェネレーション
- ④ジェームス・A・アーノルド
チャールズ・S・サインツ
アリーナ・W・ミサキ





Illustrated by Shingo Takeba



ガンダム開発史

GUNDAM Development History

連邦軍におけるMSの開発と『ガンダム』は同時に存在していた。MSの系譜は大きく二つに分けることもできるが、一年戦争以後のMSはガンダムを抜きに語ることはできない。ガンダムは常に時代の力を取り込み、また、新たな時代を創り出してきた。

『ガンダム』は宇宙世紀においてどのような役割を担ってきたのか。



ガンダム開発史

GUNDAM Development History

U.C.0078~0120

■ガンダム誕生

一年戦争をへて、宇宙世紀の兵器体系は一変した。MSの登場によって、この時代の戦略、戦術の概念は根底から覆された。ことに、MSに関して技術的に立ち遅れていた連邦軍を勝利に導いたガンダムは、MS開発に携わる技術者たちに高く評価された。実質的に一年戦争の勝敗を決したのは連邦軍の生産能力なのだが、それらの量産型MSが高い能力を発揮し得たのもプロトタイプであるガンダムが高性能だったゆえである。ガンダムの名はMSの一方の代名詞となり、宇宙世紀に永く受け継がれてゆくことになる。

ルウム戦役以降、ジオ公国製MSであるザクの捕獲によって急速に具体化した連邦軍製MSの開発は、実際には

それ以前から始まっていた。

公国に人型の新兵器が存在するという漠然とした情報を入手した連邦軍の諜報機関は、軍事利用が可能な人型兵器という曖昧な仮定に基づいて對抗兵器の開発を決定した。当時でも人型と呼べる程度の機動機器は存在していたが、兵器としての転用が可能な大きさや性能を持ったものなど実用化の見込はないと思われていた。しかし連邦軍は、T・Y・ミノフスキー博士の亡命により、公国製MSの存在を知り、さほどの期間を置かず、MSの威力を目の当たりにすることになる。

■ルナチタニウム

RX-78 ガンダムが初めて採用した新素材。基本的な設計案や構造材の選定、調達

は始まっており、マニピュレ

ーターなどの基礎技術や小型核融合炉の研究は充分に実用可能なレベルに到達していた。ことに連邦は月に産出するチタニウムを相当量確保しており、融合炉の隔壁をはじめ装甲材などの資材調達は順調に進んだ。ガンダムが高性能たりにえたのは、このルナチタニウム合金を潤沢に使用できたことが要因のひとつだといっても過言ではない。連邦軍側の研究によって生み出されたチタニウム使用のMS用合金は、軽量で各種耐性が高く、かつ堅牢だった。この素材によって、ガンダムの性能は非常に高く設定することができたのだ。この超高張力合金は、後に基本的な組成や加工法を含めてガンダリウムと呼ばれるようになり、高性能MSの建造には欠かすことのできな

GUNDAM Development History

いものとなる。

■小型核融合炉

MSのエネルギー源となる小型核融合炉の開発は、放射線の封じ込めや炉心の安定稼働など、小型化でかなりの障害を伴った。公国では核融合技術そのものが国家的に優遇されており、逆にMSの開発を決定させたのもその技術の蓄積があったからだといわれる。連邦軍の手持ちの技術は宇宙艦艇規模の大規模大容量高出力のものばかりであったため、MSの開発は民間の技術協力がなければ不可能だった。逆に、そのことによってジェネレーターなどは各社の技術が持ち寄りで構成され、機体各所に分散配置されているものもあり、メインテナンスや部品換装を簡便化している。

■V作戦

連邦軍は、ジオン公国との戦争によって疲弊した戦力の建て直しを目的として、おもに宇宙艦艇建造計画を目的としたピンソン計画と、新兵器開発を目的としたV作戦を発動させた。V作戦は、おもにMSの開発と運用を実現するためのものだったが、航空戦力の増強を目的としたコア・ファイター構想が平行して進行したこともあって、航空／

宇宙兼用の熱核ジェット・ロケットエンジン搭載の可変戦闘機をMSコクピットとして採用することが決定した。運用データとパイロットの生還を確保する手段として期待されたからでもあるが、これは技術的な問題はともかくMSの運用データが皆無に等しい連邦軍の苦肉の策でもあった。

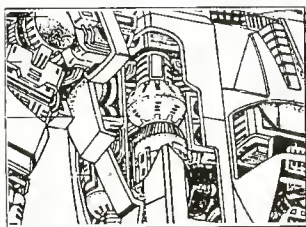
■ビームライフル

ジオンのザクと比較すれば急造の連邦軍製MSが、~~以て~~勝るとはいえ、互角に闘うことができたのは、単純に考えれば武装が強力だったからだ。MSに小型化が困難なビーム兵器を搭載することは不可能と思われていたが、連邦軍の技術陣はエネルギーCAPを産み出し携帯を可能とした。ガンダムは、ルナチタニウムとあわせ、投入当時、すでに最強の盾と矛を手に入れていることになる。

■教育型コンピュータ

公国の軍部は、連邦のMSの開発ペースがここまで急速だったとは考えておらず、緒戦においては対MS戦闘そのものを戦略、戦術に組み込んではいなかった。ガンダムが一年戦争の終結まで第一線で闘い続けられたのも、武装や

装甲が高性能だったことはもとより、機体が戦闘ごとにそのデータを蓄積し学習する能力をもっており、公国が有効な対MSの手段を講じる前に経験を重ねていくことができたためだともいえるだろう。一度の実戦は数百回のシミュレーションに勝る。新技術の集合体であるはずのMSも、実際には運用するパイロット次第だと証明したことになる。



RX-78ガンダムの融合炉

■ガンダム開発計画

一年戦争は終結したが、地球圏には依然として不穏な空気が流れていた。表立って反旗を翻す勢力は陰を潜めていたものの、連邦政府に反発する人々は多かった。当時の課題として、連邦軍は威信を回復する必要があった。また、公国のように武装蜂起する勢力が現れた場合を想定すれば、一年戦争で疲弊し弱体化した戦力を建て直す必要があった。連邦軍の上層部では、ガンダムやホワイトベースそのものを、戦力として高く評価していたわけではなかったが、スケープゴートとして編成した割には画期的な戦績を残したことは認めざるをえなかった。また、MSの開発を推進する上で、ガンダムの名を使わない手はない。さらに、ジオン

公国との戦争でとりあえずの勝利は収めたものの、MSという新兵器が開発された以上、その戦闘能力は最低限のものとして考えなければならず、その時点で考え得る最強の兵器を開発する必要がある。大艦巨砲主義に溺れていた連邦軍が一年戦争の緒戦で被った損害は教訓として活かされなければならぬ。ガンダム開発計画は、これらの連邦軍再建計画の一環として、極秘裏に推進されることになった。それは公国系の技術者や施設をも導入して行われた。この時期に建造されたGPシリーズは、最強の機動兵器を創ることを目的とし、ジオンと連邦の技術を融合させ、また整理を行う位置付けもされていた。これらの機体は諸般の事情で公にされることはなかつ

たが、基礎設計や技術的には第一世代MSのものでありながら、性能的には第二世代MSに匹敵するものをもっていた。MSが次世代に進化するための基本的な技術の蓄積はこの時期に行われており、一方でアナハイム・エレクトロニクス(以下A・E)と連邦軍の関係を強固なものとした。実質的にこれらの機体を建造した生産能力はもとより、軍と軍需産業にありがちな機密の共有が、癒着ともいえるほどの緊密な関係を成立させてしまったのだ。この事件に前後して連邦軍製のMSの供給企業が整理されていくことになるが、連邦軍自体のMS生産能力も温存され、ニタ研などを始めとして実験的な機体の製造や基礎戦力となるMSの量産配備は軍内部で行われ

ていた。実際、問題となるほどの寡占状態が発生するのは0090年代前後である。

■ムーバブルフレーム

ジオン系のMSの基本的な構造は、装甲の分割整備が容易なセミ・モノコックが多く、連邦系のMSは軽量化と内部容積の確保に有利なモノコック構造が多く採用されていたが、高性能化と運用効率の問題からするとどちらも決定的なものではなかった。一年戦争末期においては、MSクラスのビーム兵器の普及からビーム・バリアなどの特殊装備を施さない限り有効な防衛装置が存在しないことが判明し、その後、一般のMSは最低限の耐弾処理が施される程度のものが主流となった。一年戦争終結からグリプス戦争の間に開発されたムーバブルフレ

ームはその時流に沿ったもので、機体のユニット化と故障発生率の低下を目指したものである。この構造は堅牢で可動に優れ、採用以前のMSとは一線を画す。そのためザクから始まった第一期MSの第二世代を象徴する構造として位置付けられている。この構造を初めて採用したのがガンダムMk-IIで、その運動性能は画期的なものだった。

■イジェクションポッド

ムーバブルフレームの採用とともに第二世代MSの特徴として捉えられているのがイジェクションポッドである。既存のMSの多くは脱出装置を持たず、被弾、破損した場合パイロットの生還率が異常に低かった。この傾向はビーム兵器の普及とともに顕著となり、改善策が模索されるこ

ととなった。

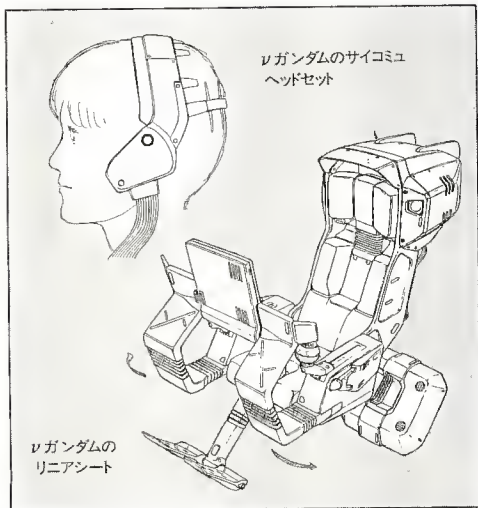
ガンダムに採用されているコア・ブロックシステムは非常に高価で量産MSに採用することは不可能に近かったが、一年戦争末期からコクピット構造そのものの見直しが始まり、公国系の機体のユニット化や、連邦系の脱出用イジェクションポッドと兼用のコクピットブロックなど、多様な方法が検討された。一年戦争終結後は居住性や操作性の見直しも始まり、外部からの衝撃を吸収し、ベルトが不用となったリニアシートや、全方位の目視が可能な全天周囲モニターが開発された。

■マグネットコーティング

一年戦争後期にガンダムに施された処理で、機体の駆動系に使用されるフィールドモーターの稼働ロスを軽減する

効果がある。公国軍が投入してきたNT専用機と交戦する際にパイロットが感じたレスポンスの格差を改善するためには施された。この手法はムーバブルフレーム採用の時期に

も活用され、基本的な各種アクチューターの性能向上はもとより、TMS（トランスフォーマブルモビルスーツ）の実用化に大きく貢献することになる。



νガンダムのサイコミュ
ヘッドセット

νガンダムの
リニアシート

■サイコミュ

サイド6のフラナガン機関が開発したサイコ・コミュニケーションシステムの略称。基本的に無線による誘導が不可能であるミノフスキー粒子散布下における戦闘空域での無線誘導を可能とするシステム。公国軍が確立したものでニュータイプと呼ばれる宇宙時代に対応した新たな能力を持つパイロットでなければ操作することができない。この装置は、ビットやファンネルと呼ばれる攻撃端末を遠隔で操作でき、しかも離れた複数の敵の攻撃が可能で、また、搭載した機体のレスポンスを向上させることができる。通常の遠隔操作の情報伝達方法と違い、知覚や思惟の相互通信システムとも呼ぶべきものだが、開発された当初はパ

イロットに与える負担が大きく、ガンダムタイプのMSに積極的に採用されるのはZガンダムまで持ち越されることになる。

■パイオセンサ

サイコミュは、MS(MA)などの機動兵器のマン・マシン・インターフェイスとしては理想的な機能を持っている反面、パイロットに対する負担が大きいうという致命的な欠点があった。そのため、サイコミュの周辺の技術は連邦軍によって隠蔽されており、民間の企業が公に開発することとは不可能で、軍需産業といえども容易に入手することはできない。最高度の軍事機密として扱われていた。しかし、それらの開発に従事した技術者などを完璧に追跡することは難しく、また連邦軍が運営

するニタ研などの施設から情報が漏洩することもあり、画期的な機体制御システムとしてのサイコミュの概念や基本的な機能そのものは、かなり広く知られるところとなっていた。あるいは連邦軍が意図的にリークした情報かも知れないが、A・Eを始めとしていくつかの民間企業にもサイコミュの概念そのものは流出していた。0080年代後半のA・Eは、連邦内部で対立するエウ・ゴとティターンズ双方に兵器を供給しており、その際、NT能力をもつと思われるパイロットに供与する機体にはパイオセンサと呼ばれる準サイコミュ装置を秘密裏に組み込んでいた。パイオセンサは、リフレクタービットやインコムなどといった、武装としての簡易サイコ

ミュとは異なり、あくまでも機体のコントロールシステムの補助を行う機能をもつ種類のものとしてZガンダムやZガンダムに装備されていた。これらの機体のパイロットはいずれも高いNT能力を持っていたといわれ、ことにティターンズやネオ・ジオンのNT専用兵器との対戦において機体スペック以上の能力を発揮したという。ただし、この機能はパイロットが意図して発動させたものではなく、制御機器としての技術の確立も行われずじまいだった。

■Zプロジェクト

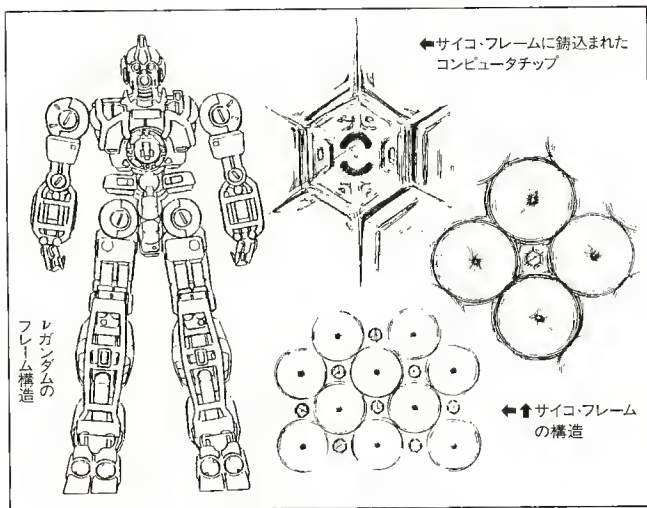
この計画は、エウ・ゴが発動させた新兵器の開発を目的とした計画で、多くの高性能MSを輩出している。ZガンダムやZガンダムもこの計画に基づいて開発されたもの

で、複数のプロジェクトが同時に進行しており、短期間のうちに実に多種多様なMSが産み出された。ことに、Zガンダムに採用されたムーバブルフレームの基本構造は、コビーが容易なうえに、他のあらゆる構造とは比較にならない強度を持たせることが可能となる。この時期に多く開発されたTMSは、MSが基本的にもつていた汎用性をさらに推し進め、機体構造そのものを変形させることで機体の機能や目的を変更し、複数の任務に迅速に対応することができる。これは既存のMSをはるかに凌駕する機能であり、便宜上第三世代MSに分類されている。

■ガンダリウムγ(ガンマ)

ルナチタニウム系の新素材で、ZガンダムやZZガンダ

ムに採用されていた。開発したのはアステロイド・ベルトに逃亡した旧ジオン勢力のアクシズで、シャアが地球圏の情勢を探るため連邦軍に潜入する際持ち込んだもの。ガンダムに採用されたルナチタニウム合金をガンダリウムαとして、ガンダリウムβを経て開発されたもので、ガンダリウムβの特性をさらに向上させている。この素材の登場があれば、Zプロジェクトによる数々のMSは完成することにはなかったといわれるほどのスペックをもち、後の高性能MSのほとんどに採用されている。逆に、この合金技術のスピノフによって、ガンダリウムβレベルの装甲は通常のチタニウム/セラミック複合材で賄えるようになった。



■サイコ・フレーム

ガンダムに採用された新素材で、サイコミュ機能を持つLSIクラスのコンピュータチップを金属粒子レベルで鑄込んだMS用のフレーム。

MSにサイコミュを搭載する場合のスペースを大幅に削減し、回路や構造のとりまわしを高効率高密度に行うことができる。この素材の生成技術は、ネオ・ジオンのMSを生産しているA・Eのグラナダ工場と、連邦軍ロンド・ベル隊の新型MSを開発しているフォン・ブラウン工場の技術格差を是正するために意図的にリークされたという。この素材をコクピット周辺や機体各所に分散配置することで、ガンダムのサイコミュシステムや機体そのもののレスポンスは飛躍的に向上した。こ

の技術は、サイコミュ機能以外のチップを鑄込む方法としても転用され、後のMCA構造などMSの小型化に寄与している。

■F（フォーミュラ）計画

01000年代、連邦軍は高性能で調達容易なMSの開発を決定した。軍の諮問機関であるサナリイはMSの小型化を提言し、MS開発の流れは新たな局面を迎えた。MSはF計画によってもう一度基本から再構成されたことになり、MSの世代分けも白紙の状態に戻ったことになる。すなわち、MSは小型化によって、規格そのものが変更されたのだ。技術的な問題からいっても、モノコックやセミモノコック、ムーバブルフレームといった基本構造そのものがF計画以降のMSには当てはめ

にくく、既存の世代分類の手法は成立しなくなった。仮にガンダム前後までのMSを第一期のMS群とすれば、F90以降のMSは第二期のMSだといえる。現在までの武装や周辺技術の進化から考えると、機体の小型化はそれほど重要なファクターとは思われにくい。単純に考えても、ジェネレータの出力効率がほぼ同程度で全長が最大7m縮小された場合、その重量出力比はケタが違ふことは明白だろう。軍備費の削減を目的として始まったMSの小型化は、結果的にはMSそのものを変革してしまっただけだ。

■SFP

A・Eは、MSの小型化推進に積極的でなかったため、次期主力MSの開発に先だって行われた新型機の開発コン

ペティションでサナリイに敗れた。そこでA・Eは、サナリイのF計画の機密を奪取するために非合法活動も含む新型MSの開発計画を発動させた。それが、このSFP(Si-Pouette Formula Project)である。一年戦争以降のMS、ことに、連邦製MSの象徴でもあるガンダムタイプの開発で遅れをとったA・Eは、汚名を挽回するべく、すべての技術を投入してこのプロジェクトを推進した。基本的にはサナリイ製の超高性能機であるF91のデータを手し、RXF91が完成した時点で当初の目的は達成されたが、次期主力MSは、この機体を凌駕する性能を獲得していなければならない。F91の特徴であるビームシールドとウェスバーの技術導入に成功したA・

Eは、それらのさらなる強化を目的としてAFX-9000を開発した。この機体は、各種武装を充実させていることを始めとして、MS開発の要諦である、確実なデータ蓄積で実績のあるコア・ファイター（コア・ブロックシステム）の導入によって、データとパイロットの生還率を高め、次期主力MSの開発ベースとしての機能を充実させた。

■パイオ・コンピュータ

MSの性能として、A・E製のRXF91は、サナリイ製のF91に匹敵する能力を獲得した。しかし、機体管制や各種制御装置を統合して管理するメインコンピュータの開発に関しては、基本的に従来の手法に頼っていた。あくまでも機体のスペックを模倣しただけだったのだ。サナリイ製

のF91に搭載されたパイオコンピュータは、容量や処理速度は無論、高性能ではあるが、いわゆる演算装置というよりも、戦闘を「体験する」という表現が適切な傾向を持っている。F91は、搭乗するパイロットがニータタイプ並みの能力を持つていなければ発動しない最大稼働モードが設定されているが、通常のパイロットではその機能は封印されたままで、いわば通常は手加減した性能しか発揮していないことになる。この判定を行うためにもっとも適切なのがパイオコンピュータであり、いわゆる機械的に曖昧さを捏造する処理傾向の設定ではなく、記憶や感情を積極的に機体操作に取り込む方法を想定した結果、搭載が決定されたのだ。ユニットを構成する素

子を構造的に人間の脳に似せただけでなく、実質的に人間が持つ記憶や感情の領域まで踏み込んだ判断を行えるように設定されているのだ。ガンダム以来、通常のMSに搭載されるコンピュータが、多種多様な戦闘パターンを習得していたのに対して、パイオコンピュータはセンサー系の情報をパイロットに直接伝達することも可能とした。センサーの情報がモニター上に表示されるのではなく、機体が「感じた」ことをパイロットも認識することができたのだ。これらの機能は、それまでに開発されたサイコミュとは別の方向性が示されたことを意味する。

MSに搭載される様々な機能は、小型高性能化が達成されたのと時期を同じくして変

革をはじめた。MSという存在は、基本的なスケールが縮小されたというだけでなく、新たな段階にステップアップしたということができるだろう。ただし、実際には第一期、四世代分のMSと混在するという状況は、それぞれの棲み分けを成立させるか、どちらかが駆逐されるまで続くことになるはずだと考えられる。第二期のMS群の真価が問われるのはこれからだということができる。

M.S.S. (MS用語事典)

アナハイム・エレクトロニクス・タキム発動機

アナハイム・エレクトロニクス
[Anaheim Electronics]

地球に本社を持ち月を拠点とし、MSや宇宙艦艇から家電製品まで生産している巨大企業。特に一年戦争後、ジオニック社を吸収合併したことでMS生産に関しては最大手。エーピン社 [Aine] メガ粒子砲などに使用するレーザー発振制御機器の開発メーカー。おもに宇宙艦艇の主砲規模の大出力砲に使用するパーツを生産している。

エム・イー・ペー [MIP]

一年戦争当時、ジオン公国

においてジオニック社と新型兵器開発を競作した。宇宙高機動機の技術に勝れている。オーガスタ研究所

[Augusta Laboratory]

北米オーガスタにある連邦軍のニュータイプ研究所。MSの開発能力も持っており、ギャプランやガンダムMK-Vを生み出した。

キリマンジャロ研究所

[Kilimanjaro Laboratory]

南アフリカのキリマンジャロにある連邦軍のニュータイプ研究所。サイコ・ガンダムMK-IIの追跡試験などを行

っていた。

グラナダ工場 [Granada Mill]

月の裏側にあるアナハイム・エレクトロニクスの工場。かつてジオン公国のMS生産を行っていた施設を連邦軍が接収した後、アナハイムに移管された。ジオン系技術者が多く働いている。

サナリイ [Strategic Naval Research Institute]

海軍戦略研究所の略称。U.C. 0000年代にF計画 [フォーミュラプロジェクト] を推進する連邦軍の諮問機関で、MSの小型化を提言、開発した。

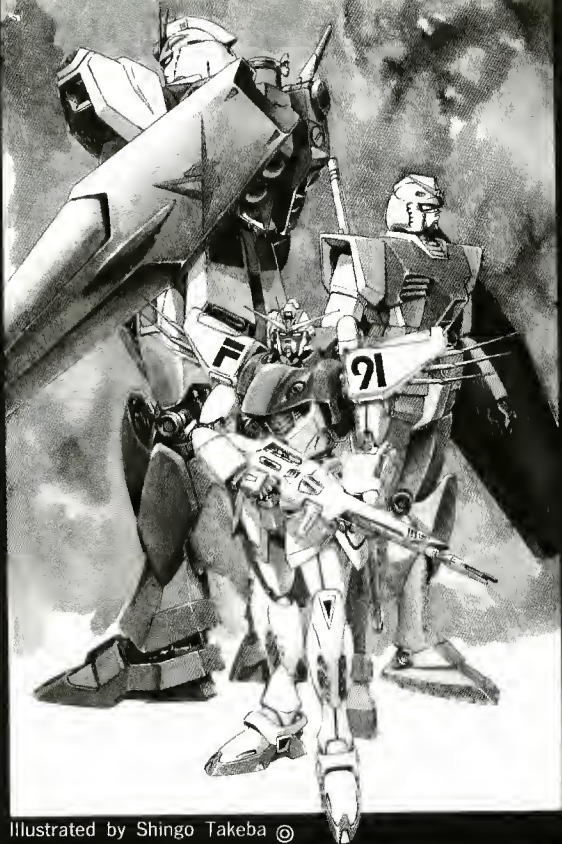
ジオニック社 [Zionic]

実質的にMSという兵器そのものを開発したメーカー。ジオン公国におけるMS製造の最大手。一年戦争後はアナハイム・エレクトロニクスに

吸収合併された。

タキム発動機 [Takimu Motor]

船舶や車両、航空機のエンジンなどを生産していたメーカーで、核融合炉の開発部門も傘下に擁している。一年戦争時に連邦軍の依託によってMSに使用する各種アクチュエーターからジェネレーター、ビーム発振機などを開発し、その後の連邦製MSの内装や部品を多数設計、生産している。



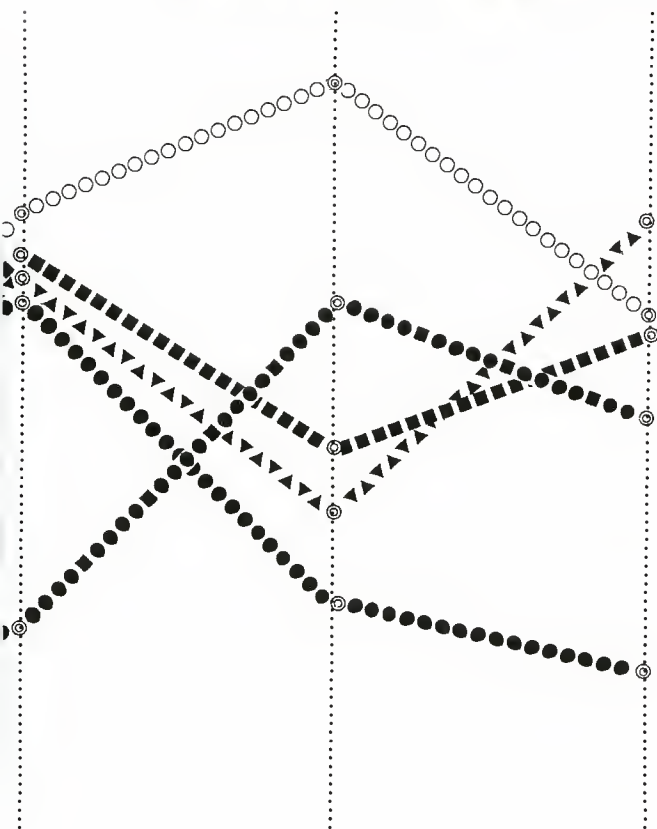
Illustrated by Shingo Takeba ©

ガンダム性能比較

An Ability-comparation of GUNDAM

ガンダムは連邦軍の主力MSのベースとして開発され続けてきた。一年戦争におけるガンダムの功績は、すなわち時代の趨勢を決定する力を意味していた。宇宙世紀のMS周辺の技術者は、ガンダムを目標とし、ガンダムを越えるべく研鑽を続けていた。ガンダムは誕生から半世紀を経て、どのような進化を遂げたのだろうか。

歴代ガンダム性能チャート

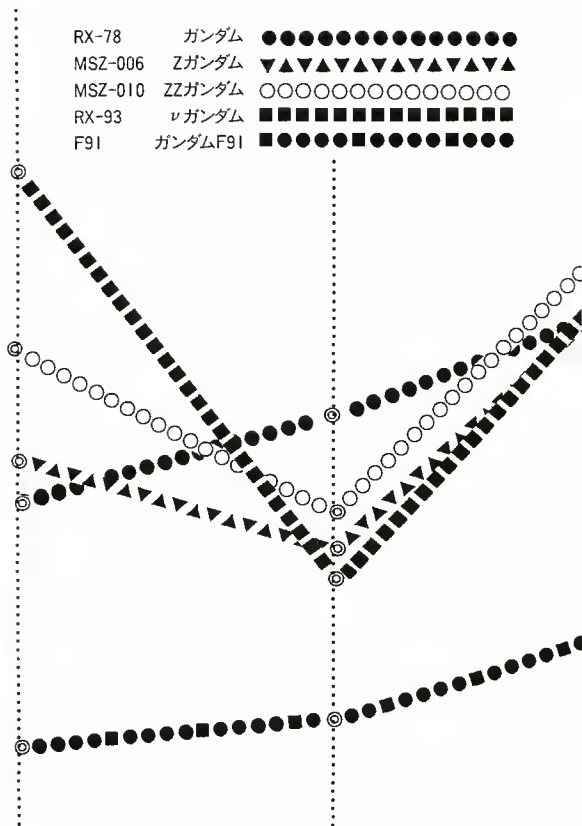


全備重量

ジェネレータ出力

スラスター総推力

Famous Successive GUNDAM Specification chart



全長(頭頂高)

本体重量

この表はあくまでも目安ですが、各項目の比率はカタログスペックを参考にしています。

M S

【MS用語事典】

ツィマッド社・ラビアンローズ

ツィマッド社 [ZIMMAD]

ジオン公国におけるジオニックス社の競合企業。サブフライトシステムなどMSの周辺兵装に実績があり、ドム系MSの開発メーカーでもある。一年戦争後はジオン共和国の兵器開発、整備を行っていた。ニタ研 [New Type Laboratory]

各地に点在する連邦軍のニュータイプ研究所の略称。グリプス抗争に前後してとも活発に活動した。一年戦争後からフラナガン機関やジオン系MSの技術者を多数雇用し、人工的に疑似MS能力を付与され

た強化人間や専用MSの開発などを推進していた。フォン・ブラウン工場

【Von Braun Mill】

一年戦争当時、おもにザク系MS量産を行った施設をアナハイムが買収した大規模なMS開発、製造プラント。連邦軍が使用する量産型MSのほとんどを生産している。

ブッホ・エアロダイナミクス社 [Buhlo Aero Dynamics]

ブッホ・コンツェルン傘下の航空、航空機の開発メーカー。MS開発も手がけており、生産規模はアナハイム・エレ

クトロニクスほどではないが、高性能の機体を生産することで定評がある。

フラナガン機関

【Frangan Institution】

ジオン公国の囑託で、一年戦争に前後してニュータイプの研究のため設立された。サイド6を拠点とし、ニュータイプが戦闘中に発する感応波の解析から、ミノフスキー粒子散布下における通信システムともいえるサイココミュ [サイコ・コミュニケーションシステム] 技術を開発した。マツム・ソニック

【Matsumu Sonic】

MSに使用する映像、音響機器の製造を手がける家電、オーディオ、ビジュアル製品のメーカー。一年戦争当時、連邦軍製MSに使用するモニターや通信装置を製造していた。

ムラサメ研究所

【Murasame Laboratory】

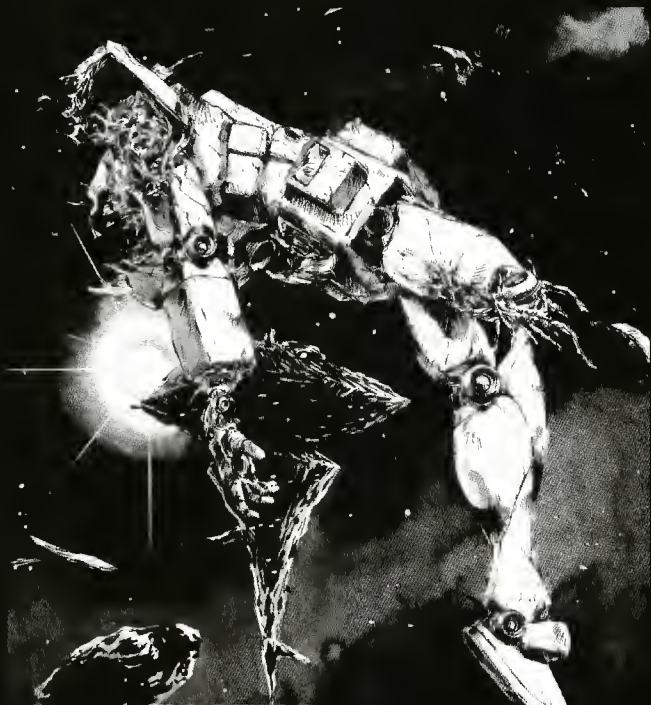
日本にある連邦軍のニュータイプ研究所。機体に搭乗しなくても機体を管制することができるとサイコ・コントロール・システムを開発し、サイコ・ガンダムなどを建造した。ヤシマ重工

【Yasima Heavy Industries】

日本に本社を置く国際企業。戦艦クラスの宇宙艦の建造やドックの建設から、スペースグライダーやリニアカーの生産なども行っている。ラビアン・ローズ

【Rahiane Rose】

アナハイム・エレクトロニクスが擁するドック艦。戦艦クラスの宇宙艦艇のメインテナンスからMSの長期トリアルを行える規模の施設を持っている。



Illustrated by Shingo Takeba

©

ガンダム オフィシャル レポート

GUNDAM Official Report

宇宙世紀における歴史の転換期において、ガンダムは常に大きな役割を担ってきた。時代のターニングポイントは、常にガンダムの名を冠したMSによって動かされてきたといっても過言ではない。それらは実質的に歴史の表面に登場しないことも多かったが、宇宙世紀の底流には、常にガンダムの姿があったともいえる。

©

歴史

History

U.C.0079~0123

■宇宙世紀の戦争状況

宇宙世紀は波瀾にみちた時代である。人類が宇宙に居住するという事象としての環境の激変はもとより、幾度かの戦争を通して、人類が絶滅するの、さほどの手間がかからないことが明らかになったからだ。人類は、U.C.0079年に勃発した一年戦争のごく初期の段階で全人類の約半数を殺戮した。この事実に戦慄した戦争当事者である公国と連邦の首脳部は、人類の絶滅だけは回避できるよう、大規模殺傷兵器の使用限定などを始めとする南極条約を締結した。この条約の存在は、決定的な戦略の展開を困難にし、戦況を膠着状態に陥らせるものだったが、結果的にはそれ以降の戦略戦術を拘束する効力も発揮した。南極条約はあ

くまでも戦時条約ではあるが、戦争状態が発生した場合の尊守事項の基本として、また戦争当事者間の暗黙の了解事項として定着していった。無論、戦況が逼迫してくると使用が規制されているはずの兵器が投入される事例もかなりあつ

たが、大枠ではそれなりに尊重されていたと見るべきだろう。戦闘の主力がMSに移行していったのも、基本的にはこの条約の枠内で戦略、戦術を展開するための手段だったからだ。



第1期第1〜3世代MSに相当する歴代ガンダム

History

年・月・日	事柄
1957・10・04	人類初の人工衛星、打ち上げ成功（ソ連）
1961・04・17	有人人工衛星成功（ソ連）
1969・07・20	アポロ11号、月面着陸成功（アメリカ）
1969	G・K・オニール博士ら、スペースコロニー構想を発表
1990～	世界各地で局地戦、地域紛争多発。
1999	地球連邦政府樹立。人類宇宙移民計画発表
2005	太陽発電衛星第1号機の打ち上げに成功
2009	地球連邦軍設立
2026	木星エネルギー船団、月軌道上より発進
2045	第1号コロニーの建造開始
U・C 0001	宇宙移民開始をもって宇宙世紀に移行。地球総人口90億突破
0027	初の月面恒久都市、フォンブラウン市完成
0040	総人口の40%（約50億人）宇宙への移民を完了
0045	小惑星ユノー（ルナツー）月軌道に定着。サイド3にミノフスキー物理学会設立
0050	総人口は110億、うち90億が宇宙に移民
0055	シャルンホルスト・プッホ、プッホ・ジャンク・インク創業
0058	ジオン・ズム・ダイクン、サイド3独立宣言。ジオン共和国樹立、国防隊発足
0059	サイド3に対し連邦政府による経済圧力
0060	連邦軍、60年代軍備増強計画発動（特に宇宙艦隊の統制）ルナツー軍事基地化
0062	ジオン国防隊、国軍へ昇格
0068	ジオン・ズム・ダイクン死亡（暗殺の可能性あり）次期首相はデギン・ソド・ザビ。シャルンホルスト・プッホ、旧欧州の名家ロナ家の名を購入
0069・08・15	ジオン公国宣言。公主にデギン・ソド・ザビ。ザビ家独裁体制のため、ジオン派は追放。ミノフスキー粒子存在の実証に成功
0070・03	公国軍、ミノフスキー粒子散布による電波妨害などの特殊効果へミノフスキー効果へ確証実験に成功
0070・05	公国軍、メガ粒子砲を完成
09	連邦軍、70年代軍備増強計画によるサラミス、マゼラン級の新型宇宙艦艇就役
12	サイド7建設のため、ルナツーを月軌道の反対側へ移動
0071	ジオン公国軍兵器開発局、ミノフスキー粒子散布下における新型兵器の開発に着手。ミノフスキー物理学応用による小型核融合炉の1号機完成
0072	ジオン公国、アステロイドベルトに小惑星基地アクシズを建設
0073	公国軍、新型兵器1号機完成。MS-01の形式番号とモビルスーツ（MS）という呼称を与えられる
0074・02	公国軍、ミノフスキー型核融合炉搭載のMS-05ザクⅠの試作型ロールアウト
0075・05	公国軍、MS-05ザクⅠの実戦型ロールアウト
07	公国軍、ムサイ級軽巡洋艦の一番艦就役
0076	公国軍、地球進攻作戦を前提とした局地戦用MSの開発に着手
0078・01	公国軍、サクの強化型、MS-06ザクⅡの量産開始
05	サイド7第1号コロニー、未完成ながら移民開始
10	ジオン公国、国家総動員令発令
0079・01・03	一年戦争勃発。ジオン公国、地球連邦政府に対し独立を宣言。宣戦布告と同時にサイド1、2、4へ奇襲敢行。NBC兵器無差別投入。コロニーの落下により、大規模な気象変動を惹起。（1/3～1/10までの戦間を一週間戦争と呼ぶ。この期間の戦闘で総人口の25%に相当する30億人が死亡）
01・11	サイド6中立宣言
01・15	ルウム戦役。連邦軍宇宙艦隊敗北。公国軍は艦隊司令のレビル將軍を捕虜とする
01・31	南極条約締結
02・07	公国軍、地球進攻作戦開始。北米、中米、東アジア、ヨーロッパの各都市に衛星軌道上から直接降下部隊を送り込む（2～3月の期間に公国軍は全大陸の3分の2を勢力下に置くが、両軍ともに戦力衰退。戦局は膠着状態に陥る）
03	公国軍、占領地域の施設を使い戦力を増強
04	連邦軍、新型MSと専用強襲母艦の開発・建造を目的としたV作戦及び喪失した宇宙艦艇の量産を主目的としたピンソン計画を同時に発動させる
05	宇宙要塞ソロモン完成
06	公国軍、宇宙要塞ア・バオア・クー、ソロモン、月面基地グラナダを結んだ本土防衛ライン完成。フラナガン機関設立
07	連邦軍、ビーム兵器の小型化に成功。連邦軍の新造艦ホワイトベース（WB）進軍。RX-78ガンダム試作第1号機、ロールアウト
08	連邦軍型試作MS、サイド7で最終テスト開始。北米オーガスタ連邦軍基地においてRX-78NT1開発開始
09・18	公国軍特務部隊サイド7強襲。コロニー内部で史上初のMS同士の戦闘。WB、破壊を免れたMSを収容し南米のジャブロー基地に向け出航
10	連邦軍の各工場でのMSの量産開始。公国軍、対抗のため新型機を次々に実戦配備。フラナガン機関、サイココミュニケーションシステムの試作機を開発
10・04	ニューヨーク市において地球攻撃軍司令官ガルマ・ザビ戦死
10・06	ギレン・ザビ、全地球規模の大演説を展開
11・07	連邦軍、オデッサ作戦始動。3日間の戦いの末、連邦軍の勝利に終わる。これによって地球上のミリタリーバランスは一変する（連邦軍、11月後半から量産型MS、RGM-79ジムの実戦配備を開始）
11・30	公国軍、連邦軍総司令部ジャブロー攻撃失敗。公国軍地上戦力の瓦解が始まる
12・14	連邦軍、星1号作戦発動
12・05	連邦軍、アフリカ、北米で公国軍掃討戦を展開
12・21	公国軍特務部隊、連邦軍北極基地襲撃
12・24	ソロモン攻略作戦開始。公国軍敗退。宇宙攻撃軍司令官ドズル・ザビ中將戦死
12・30	デギン・ソド・レー・システムにより死亡。連邦軍、レビル艦隊を喪失
12・31	ア・バオア・クー攻防戦。要塞内において、ギレン・ザビ総帥、キシリア・ザビ少將とともに戦死。エギーユ・デラーズ大佐、配下の艦隊を率いて戦域を離脱。ア・バオア・

■ガンダムの登場

連邦軍がガンダムを投入することによって、MSによる戦闘が戦況を左右するという傾向はさらに強くなった。逆に言えば、史上初めてMSと闘ったMSはガンダムだったのだ。ガンダムの開発は、当初から対MS戦を想定して行われており、MS同士の戦闘という時代の趨勢を決定的なものとした機体でもあった。

■ガンダムの系譜

UC0083年当時、連邦軍再建計画の一環として立案されたガンダム開発計画が、実質的にデラース・フリートの決起と星の屑作戦の遂行を促し、RX-78GP02Aの強奪以降の一連の事件が結果として、ティターンズの成立を後押ししたことになる。

UC0087年には、エウ

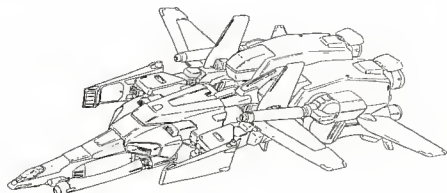
ーゴによるガンダムMk-II強奪がグリプス戦争の直接的なきっかけとなり、連邦軍の内部抗争を一気に武力闘争へとエスカレートさせた。そして、Zガンダムの投入によってエウーゴとティターンズの力関係は大きく変化し、また、MS単独の再突入および突入中の戦闘が可能となったことで、MSの戦闘領域は一挙に拡大することになった。この時期の状況は混迷を極めており、エウーゴ、ティターンズ、アクシズによる三つどもえの抗争劇は宇宙世紀の諸問題を改めて浮き彫りにしたばかりでなく、MSの開発競争にも拍車をかけ、加速度的な恐竜的進化が促された。

0087年に始まり、0089年に終結したグリプス戦争から第一次ネオ・ジオン抗

争にいたる地球圏の覇権をめぐる闘いで勝利をおさめたのも、ZガンダムやZZガンダムなど「ガンダム」の名を冠したMSであり、ことに当時最強の兵器であるはずのサイコミュ搭載のMS群を多数撃破していることから、ガンダムの神話はさらに確固としたものになった。本来はパイロットの資質に帰せられるべき評価も、ガンダムの名のもとに収斂していったのだ。

その後も、ガンダムと呼ばれる機体は、常にその時代の主力MSの開発ベースとしての高性能機であり、戦闘に投入された場合も、戦況を大きく変える契機となることが多かった。逆に、それにまつわる逸話は伝説と化して浸透し、ガンダムの名は、いわば都市神話のように人々に語り継が

れるという側面も持っていた。軍の関係者はもとより、各種の反抗組織、民間の企業や一部の好事家などが、手持ちの機器に好んで命名したりするということもあったという。



第1期第3～4世代MSに位置するZZガンダム

年・月・日

事柄

0080・01・01	クー陥落。連邦軍の勝利に終わる 一年戦争終結。月面のグラナダにおいて地球連邦軍とジオン共和国の間に終戦協定締結 [一年戦争(ジオン独立戦争)] 終結
01~03	デラース、アクシズ行きを拒む公国軍残党を糾合。艦隊再編成 デラース中将、艦隊を暗礁空域に移動。監留基地「灰の園」の設営開始。以後、対外的な活動を一時休止
06	アフリカ戦線の旧公国軍、武装解除(あくまで連邦軍の公式発表。実際には潜伏、ゲリラ化した部隊は相当数に上る)
0081・03・14	ブッホ・コンツェルン。利益の公共還元として職業訓練校を設立
03・28	公国軍残党。小惑星基地アクシズに到着
05・05	ドズル・ザビ夫人(ゼナ) アクシズで病死
08・15	デラース・フリート、「ジオン公国国憲節」を機にゲリラ活動開始
09・17	アナベル・ガトー、デラース・フリートに復帰。少佐に昇進 デラース・フリート、アナハイムとの接触活発化
10・13	連邦軍再建計画が連邦議会で可決
10・20	連邦軍再建計画の一環としてジョン・コーウェン中将管理下、アナハイム・エレクトロニクス(以下AE)で「ガンダム開発計画」がスタートする
11	デラース・フリート、アクシズとの共闘を確認
0082・04	連邦軍。極秘裡にニュータイプ研究機関設立
05	第一次コロニー再生計画実施。サイド4(旧称)からサイド3へ修復可能なコロニーの移送開始
12	デラース・フリート。「灰の園」内の工場プラントでMSの開発開始
0083・01	デラース・フリート、「ガンダム開発計画」察知。AEに工作員を潜入させる
03	デラース中将、連邦勢力の安定化を懸念し一大反抗作戦を立案。反連邦勢力との関係強化
05	デラース・フリート、MS-21Cの生産を開始
07・30	「星の屑」作戦計画立案
08・09	アクシズの指導者マハラジャ、カーン死亡
08・11	ハマーン、カーン(当時16歳)ミネバ、ザビの摂政に就任。デラース・フリートの方針を容認。支援確約
09	アクシズ、新合金「ガンダリウム・ガンマ」の開発に成功。シーマ艦隊、ガトー少佐との軋轢でデラース・フリートへの参画ならず
09・18	AEのフォン・ブラウン工場でRX-78GP02 A ロールアウト
09・29	同工場でRX-78GP01及びFb(フルバーニアン)用換装部品ロールアウト
10・04	同工場でRX-78GP03ロールアウト
10・07	アルビオン、AEのフォン・ブラウン工場でGP01、GP02 Aを受領。重力下試験のためオーストラリアの連邦軍トリントン基地へ向け出航
10・09	ガトー少佐、アフリカに降下。地上の公国軍残党と合流
10・13	15:00 アルビオン、トリントン基地に到着。「星の屑」作戦発動。ガトー少佐行動開始。 21:00~ Mk.82核弾頭ごとGP02 Aを奪取 21:46 連邦軍の残存MS小隊がGP02 Aの追撃開始
10・14	未明 ガトー少佐、GP02 A積載のコムサイで脱出を計るもGP01によって阻止される。 早朝 バニング小隊、海岸線で交戦。P02 AはU-801に回収されアフリカ方面に脱出 10:51 ジャブローのコーウェン中将からアルビオンのエイバー・シナプス艦長にGP02 A奪還命令が下る。アルビオン、アフリカへ出航
10・16	アルビオン、アフリカへ到着。ジオン基地の探索開始
10・23	09:14 ガトー少佐、及びGP02 A、公国残党のキンバライド基地に到着。 正午~ AE技術員ニック・オービルのスパイ行為発覚。コアファイターでアルビオンを脱出。 13:15 キンバライド基地司令ビッター少将欺瞞陽動作戦開始。 14:01 ガトー少佐及びGP02 AはHLVで軌道上へ脱出。 14:27 キンバライド基地降伏。 14:30 デラース・フリートのムサイ艦隊旗艦ペール・ギュント、HLVを回収。連邦軍第一地球軌道艦隊のサラミス部隊と交戦の後行方不明
10・25	シーマ艦隊、デラース・フリートに参加
10・28	アナハイムの大型ドック艦ラビアンローズ。GP03のトライアルを開始
10・31	09:23 ペール・ギュント、暗礁宙域秘匿航路を航行中にシーマ艦隊のリリー・マルレーンとニアミス 10:37 ペール・ギュント、暗礁宙域「灰の園」に帰還。 10:51 アルビオン、二隻のサラミスと合流。暗礁宙域探索開始 12:19 リリー・マルレーン、暗礁空域でアルビオン艦隊を迎撃。重力下装備のままのGP01大破 12:30 デラース宣言。地球全域にデラース・フリートの宣戦布告放送
11・01	第二次コロニー再生計画実施。サイド1からサイド3へ修復可能なコロニーの移送開始
11・02	16:00 アルビオン隊、月面都市フォン・ブラウンに到着。GP01は修理とFbタイプの換装のためAEの工場へ搬入 08:09 アナハイムの資源搬入港にデラース・フリートの偽装連絡艦が入港 10:06 AEのリバマ実験場でGP01-Fbトライアル開始 20:55 MA-06ヴァル、ヴァロの襲撃に対応してアルビオン緊急発進 21:18 GP01-Fb、ヴァル、ヴァロを撃破。 21:40 アルビオン月引力圏を脱離。ソロモン海に向かう 07:00 ガトー艦隊ソロモン海作戦域に向け「灰の園」を出航。 航行中のアルビオン、デラース・フリートの小部隊と遭遇し砲撃戦を展開
11・07	ガトー艦隊、ソロモン海作戦域に到着。待機
11・08	14:52 連邦軍艦隊バーミンガムがシーマ艦隊と交戦。アルビオン、救援のためバニング小隊を出動させる。 15:16 シーマ艦隊担当作戦区域へ移動。 15:27 バニング大尉戦死。 アルファ・A・バートは大尉に、コウ・ウラキは中尉に戦時昇進
11・10	00:00 デラース・フリート旗艦グワデン。艦隊を率いて「灰の園」を出航 02:23 アクシズ先遣隊、地球圏に帰還

■MSの再生とガンダム

ザクからガンダムをへて進化していった第一期のMSは、ガンダムの完成をもってひとつの到達点に達した。シャアの反乱以降、連邦軍内部での新型機開発は行われていたものの、これ以上スペックのインフレーションを続けることが得策かどうかという問題も持ち上がった。無論、ガンダムを越えるスペックの機体も開発されていたが、実際に建造されたかどうかは定かではない。その後、戦乱の激減によってMSの開発は鈍化していった。AE（アナハイム・エレクトロニクス）は、MS生産に関して事実上競合対象を持たなかったこともあり、積極的な高性能MSの開発を必要としなかった。そしてMSは、UC0100

年に前後して「小型化」という大きな転換期を迎える。

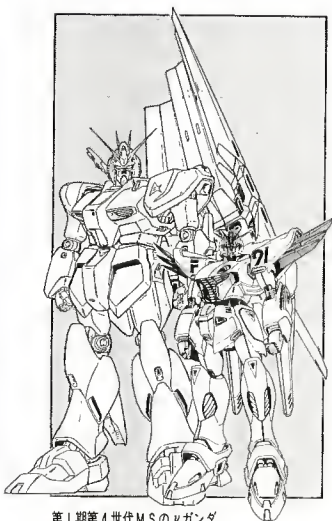
■Fナンバーのガンダム

MSの開発はサナリイの参入によって活性化された。MSそのものの進化は30年前後滞っていたが、周辺技術は絶えず刷新されていた。その蓄積はサナリイによって具現化され、競合企業の登場によってAEも姿勢の転換を余儀なくされた。ガンダムF90の存在とF91にまつわる情報はAEの技術陣を戦慄させた。彼らには一年戦争後のガンダムを造り続けてきたという自負もあっただろうが、上層部が感じたのは焦燥だった。ガンダムの継承をめぐる、両社の開発競争は熾烈を極めた。水面下では情報の強奪や盗用漏洩が相次ぎ、民間企業も巻き込んだ開発競争は、対立す

るはずの勢力同士の技術を均等化してしまっていた。サナリイとAE、さらにC・Vの技術は、連邦の介入によってさらに混交していくが、そのことがMSの性能向上を促進した側面も否定できない。サナリイがF91を完成させて間もなく、AEはRXF91をロールアウトし、C・Vはすでにビギナ系を投入していた。前後してC・Vのフロンティアサイド侵攻があり、ガンダ

ムF91は第二期MSのポテンシャルを遺憾なく発揮した。同様のコンセプトで建造されたこれらの機体の能力はほとんど互角だとされるが、AEはさらにRXF91をフィードバックしたRX-99ネオガンダムを完成させ、サナリイではF91をフィードバックしたガンダムF90Yがロールアウトしている。

第二期MSの進化は始まったばかりなのだ。



第1期第4世代MSのガンダムと第2期MSのガンダムF91

	13:00	連邦軍艦隊が「一年戦争」による中止以来、4年ぶりに举行される
	14:31	ガトー少佐、観艦式を襲撃。GP02 AのMk.82核弾頭を使用する。 グリーン・ワイアット大將戦死。参加艦艇の2/3が航行不能以上の損傷という大損害を被る
	15:05	GP01-FbとGP02 Aが交戦。両機ともに爆砕
	16:27	シーマ艦隊、移送中の2基のコロニージャックを敢行
	16:50	アルビオン、ラビアンローズに針路変更
	21:08	連邦軍哨戒機ストロベリー9がシーマ艦隊のコロニージャックを発見
	21:11	シーマ艦隊、コロニー2基のミラーの各一枚を爆破
	21:26	2基のコロニーが激突。内、1基が月に落下を開始(コロニーの月面着陸まで949分)
	21:35	連邦軍の残存艦艇、コンペイ島を緊急出撃。シーマ艦隊とコロニーの追撃を開始
11・11	04:14	デラーズ、フリート本隊、シーマ艦隊と合流。コロニー護衛陣形をとる
	05:35	ガトー艦隊アクシズ先遣隊と合流。アクシズ製MAノイエ、ジール供与
	05:57	アルビオン、ラビアンローズに接舷
	08:51	連邦艦隊の先鋒部隊とノイエ、ジールが交戦
	09:25	ガトー艦隊とアクシズ先遣隊、デラーズ、フリート本体と合流
	10:40	デラーズ、フリート、月面の軌道間輸送レーザー(通称:イグニッション、レーザー)を用いてコロニーの推進剤に点火。コロニーは地球落下軌道へコースを変更(地球着陸まで2274分)
	12:12	ルセッ、オデビー、死亡
	15:18	アルビオン、GP03と共に発進
11・12	10:06	先行したGP03、デラーズ、フリートと交戦開始(コロニー着陸まで868分、着陸阻止限界点まで568分)
	10:50	GP03とノイエ、ジール、戦闘開始
	13:51	月軌道上の連邦追撃艦隊、補給終了。デラーズ、フリート追撃を再開
	17:15	シーマ、ガラハ、グワデンのブリッジを占拠
	19:34	コロニー、着陸阻止限界点を突破(地球着陸まで300分)
	20:15	エギーユ、デラーズ中尉、戦死
	21:47	ソーラ、システム、照射(地球着陸まで166分47秒)
	22:41	シーマ、ガラハウ中佐、戦死
	23:11	ガトー少佐、コロニーの最終軌道調整を完了(地球着陸まで82分54秒)
11・13	00:00	ソーラ、システム、2回目の照射
	00:13	南米ジャブロー上空をコロニーが通過(現地時間11月12日20時13分)
	00:34	コロニー、北米大陸に着陸
	01:05	アクシズ先遣隊、転進
	01:19	アナベル、ガトー少佐、戦死
11・23		一連のデラーズ紛争に絡んだ軍事裁判開廷。エイバー、シナプス大佐に極刑。コウ、ウラキ少尉に懲役刑二年の即事判決が下る。
12・04		ジャミトフ・ハイマン提唱によりティターンズ結成。旧公園軍残党狩り活発化。AE社フォン、ブラウン支社のオサリバン常務、死亡
0084・03・10		コロニー落下の真相とガンダム開発計画、共に公式記録より抹消。コウ、ウラキ少尉への罪状は消滅
	06・17	連邦議会、地球圏の現状維持を発表
	07・08	ブッホ、コンツェルンの球形コロニー完成
	09・21	シャア、アズナブル、地球圏に帰還。非合法で連邦軍の軍籍を得る
0085・07・31		30パンチ事件。ティターンズがサイド1・30パンチに毒ガスを注入し住民を虐殺。反地球連邦運動(A・E・U・G)活発化
	09・08	グリプス2、サイド7に建設される
0086・02・06		アクシズ、地球圏に向けて発進
0087・03・02		エウゴ、グリプス1より試作MS3機を強襲
	04・29	連邦政府、木星エネルギー輸送船ジュビトリスの地球圏帰還をもって惑星開発計画の規模縮小を発表
	05・11	エウゴ、地球連邦軍のジャブロー基地を攻撃
	06・29	ティターンズ、ボンコン、シティを襲撃
	08・10	ティターンズ、アゴロ作戦発動。フォン、ブラウン市を襲撃
	08・17	エウゴの指導者、ブレックス、フォーラ准将暗殺
	10・12	アクシズ、地球圏に帰還
	11・16	エウゴ、ダカールの連邦議会を占拠。全世界にティターンズの実体を告発
	12・07	ティターンズ、グリプス2のコロニーレーザーでサイド2、18パンチを破壊
	12・14	ティターンズ、サイド2、21パンチに毒ガス攻撃。住民は全員死亡
0088・01・18		アクシズ、ゼタン門の旧ア、バオア、クーを破壊
	02・02	エウゴ、メーメルシュトローム作戦発動。艦隊戦によりグリプス2を占拠
	02・22	エウゴ、アクシズ、ティターンズによる艦隊戦。ティターンズ敗北。コロニーレーザー破壊。エウゴ、戦力の過半数を喪失。シャア、アズナブル行方不明
	02・24	惑星ベズンにおいて、ティターンズ教導部隊の一部青年将校が反乱「ニューディサイズ」を標榜
	02・29	ネオ、ジオン、各サイドに制圧部隊を派遣
	03・23	連邦軍、ニューディサイズ討伐隊前衛艦隊α任務部隊を編成
	03・28	ベズン、占領部隊の核爆弾により爆発。エイノー艦隊、ニューディサイズと合流
	03・29	エイノー艦隊、月裏面のエアーズ市に降下
	04・01	エアーズ市上空で攻防戦、FAZZ部隊全滅
	04・02	エアーズ市武装解除。ニューディサイズ、ジオン残党のトワニング隊と合流
	04・04	ニューディサイズ、低軌道中継ステーション、ペンタを制圧
	04・05	α任務部隊、任務終了「グリプス戦争(ティターンズの反乱)」終結
	06・06	ネオ、ジオン、先遣部隊を地球に降下させる
	08・01	ネオ、ジオンの本隊、地球侵襲
	08・29	ネオ、ジオン、ダカールを占拠。旧公園軍、ティターンズ残党等を配下に治める
	10・31	ネオ、ジオン、ダブリンにコロニーを落とす
	11・14	連邦政府、サイド3をネオ、ジオンに譲渡。ネオ、ジオンの戦力、地球より撤退
	12・25	ネオ、ジオン内でグレミー軍が謀反

年・月・日	事柄
0089-01-16	アクシズ、コア3に激突
01-17	エウゴ、ネオ・ジオンを制圧。ハマーン・カーン戦死。ミネバ・ザビ行方不明
03-15	「第1次ネオ・ジオン抗争（ハマーン戦争）」終結
05-01	木星エネルギー輸送再開。ジュビトリスII発進
08-25	連邦軍、大質量アステロイドの管理体系を再編成
0090-01~	連邦軍、スペースノイド寄りのコロニーに対し経済制裁等の引き締め強化
02	エグム、NSP等、反地球連邦組織の活動活発化
03	難民収容施設として、スウィート・ウォーターを改造
07-15	連邦軍、外郭新興部隊ロンド・ベル隊設立
10-15	NSPのカラード隊、サイド6、再建中のテキサスコロニーを襲撃
11-23	サイド2でアラハス隊、カラード隊と交戦
12-15	民間会社モノトーンのスタッフ、連邦軍のテストパイロットに拉擄
0091-02-06	NSP総艦隊、アラハスと合流。ネオ・ジオンの過激派偽装陽動部隊と交戦
02-27	NSP解散宣言
0092-08~	過激派偽装陽動部隊、木星へ
12-13	連邦軍、本部をチベットのラサへ移動
12-22	ネオ・ジオン、地球連邦軍に対し攻撃を示唆
12-25	シアを総帥とする艦隊、スウィート・ウォーターの占拠を宣言
0093-02-27	連邦軍、ロンド・ベル隊を増強
03-03	ネオ・ジオン総帥のシャア、インタビュ番組内で事実上の宣戦布告
03-04	ネオ・ジオン艦隊スウィートウォーターを発進
03-06	5thルナ、連邦軍本部所在地チベットのラサに激突
03-12	ネオ・ジオン軍と連邦軍、サイド6、ロンデニオンにおいて、極秘裡に和平交渉
09	ネオ・ジオン艦隊、投降を偽装しアクシズを奪回、地球へ降下させるも失敗
0100~	「第2次ネオ・ジオン抗争（アクシズ戦争、シャアの反乱）」終結
0102~	連邦軍内の諸問機であった戦略戦術研究所が海軍戦略研究所(S・N・R)として再編
0103~	連邦軍、ジオン共和国の自治権放棄をもって、戦乱の消滅を宣言
0104-02-28	サナリイ、連邦政府にMSの小型化を提言
0105-04-09	反地球連邦組織「マフティー」軌道上の監視用人工衛星を破壊
04-19	地球上の連邦軍増強。地球上のマン・ハンター組織や、不法居住者摘発を強化
04-20	ミノフスキー・クラブ搭載のMSペーネロペー月面からオーストラリアに移送
04-21	マフティーを標榜する活動家によるシャトルハウゲン乗っ取り未遂事件
04-26	マフティー、オーストラリアのホテルを襲撃。Ξ(クスイー)ガンダム地球へ
04-27	Ξガンダムとペーネロペー、インドネシアのハルマヘラ島沖で交戦
05-01	「マフティー」オーストラリアのアデレードで行なわれる連邦の中央関係会議紛砕を告知。連邦政府調査員の修正法案、破壊を要求し会議場を襲撃。会場周辺に設置されたバリアによってΞガンダム捕縛。一連の反地球連邦運動の首謀者、マフティー・ナビーユ・エリン逮捕。法案は可決
0105-06~	第十三独立部隊、アデレードに到着
11	反地球連邦組織のリーダー、マフティー処刑
0106~	連邦軍、反地球連邦組織に対する弾圧強化。第306特務部隊設立。反地球連邦運動、表面的には鎮静化
0108-07	AE社が連邦軍の依頼を受け小型MSの開発に着手
0109	新規のコロニー建設再開決定。ブッホ・コンツェルン内の職業訓練校及び周辺企業の選抜メンバーによる組織が編成される。極秘裡にC・V(クロスボーン・バンガード)設立
0110-04	ブッホ・エアロダイナミクス社製小型高性能MSデッサ・タイプ一号機ロールアウト
0111-09	RGM-109 ヘビーガン、ロールアウト
10	エンゲイスト・ロナ、コロニー公社副総裁に就任
12	サナリイによるF90の一号機ロールアウト及び各種オプションA、D、S、M、Hが本体に先行して完成
0112-02	連邦軍、次期主力MS開発を決定。サナリイのF(フォーミュラ)90シリーズがAE社のMSA-120を下し制式採用となる
06	フロンティアサイド(旧サイド4)再建開始
0113-04	F90運用試験用オプションI、V、P完成
0115-04	AE内で極秘裡にシルエット・フォーミュラ・プロジェクト始動
0116-05	ハウゼリー・ロナによる「地球保全法案、過当医療廃止法案」廃案となる
07	F71ロールアウト
0117	ラフレシア・プロジェクト構想始動。「地球保全法案」再提出
0118	F91ロールアウト
0119	ブッホコロニー、一般民間人にも解放
0120-10-25	ハウゼリー・ロナ暗殺
10-28	ラフレシア・プロジェクト発動
0121-02	ジュビトリス級輸送艦「コバヤシ丸」謎のMS部隊に襲撃される
03	サイド4空域でテスト飛行中のF90の試作一機が謎のMS部隊に強奪される
0122-08	F90及びF91運用テストのため連邦軍巡洋艦エイブラムズに搬入
11	F90二号機改修完了。平行してI、Lタイプオプション完成
12	AE製のRXF91ロールアウト
0123-02	ゼブラ・ゾーンにおいてシルエット・フォーミュラの試験開始
03-15	F91頭部コンピュータ換装のためフロンティアIに搬入
03-19	RXF91、ゼブラ・ゾーンで試験稼働中にC・Vのダーク・タイガー隊と接触
03-22	C・Vを名乗る謎のMS部隊がフロンティアサイドを襲撃。フロンティアIVの住民500以上が死亡。14万人が避難
03-24	C・V、フロンティアII、IIIを襲撃
03-26	C・V、フロンティアII、IIIを制圧
03-30	ザウザンズ・ジュビター地球圏に到着。C・Vによって拉致されるが、艦長は協力を確約
03-31	C・V、フロンティアIVにおいてコスモ・バビロニアを宣言
	C・Vの鉄仮面、独断でフロンティアIにおいてバグ及びラフレシアを稼働させ、コロニーシリンドラー内の住民を虐殺するが連邦軍のF91によって撃破。この戦闘でF91大破
	C・Vのドレル大隊、ザビーネ隊など、コスモ・バビロニアへ凱旋。暗礁海域において詳細不明のMSがC・Vの警備隊と交戦

機動戦士ガンダム

MSV

MS-X

機動戦士ガンダム0080～ポケットの中の戦争～

機動戦士ガンダム0083～スターダストメモリー～

MSジェネレーション

機動戦士Zガンダム

機動戦士ガンダムZZ

Z-MSV

ZZ-MSV

ガンダムセンチネル

ダブルフェイク

機動戦士ガンダム～逆襲のシャア～

CCA-MSV



機動戦士ガンダム 設定資料大図鑑



機動戦士ガンダムF90

機動戦士ガンダムF91

シルエットフォーミュラ

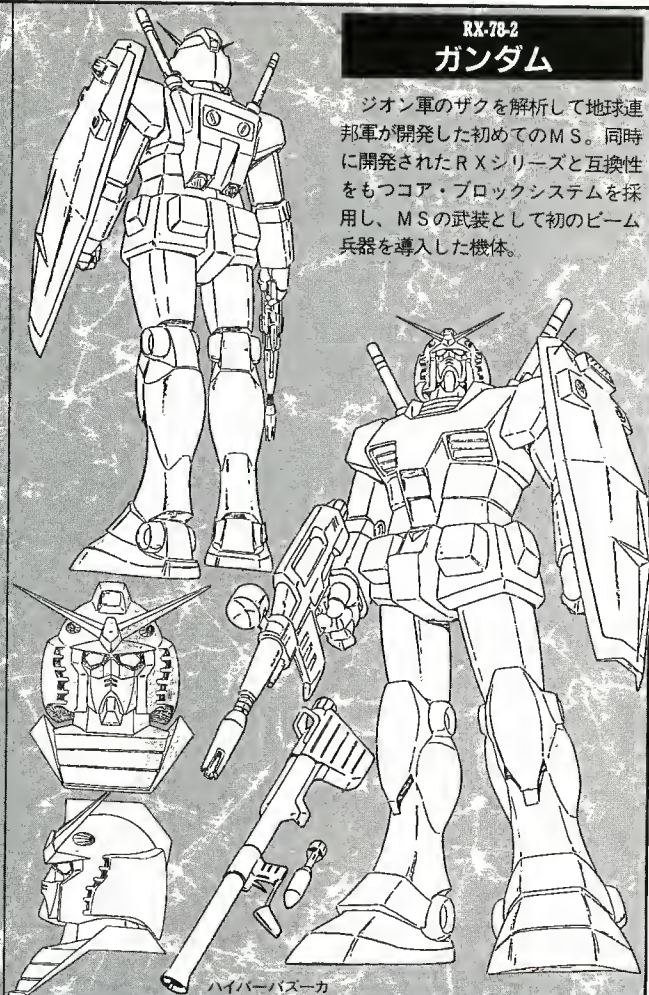


●ガンダム大図鑑

RX-78-2

ガンダム

ジオン軍のザクを解析して地球連邦軍が開発した初めてのMS。同時に開発されたRXシリーズと互換性をもつコア・ブロックシステムを採用し、MSの武装として初のビーム兵器を導入した機体。



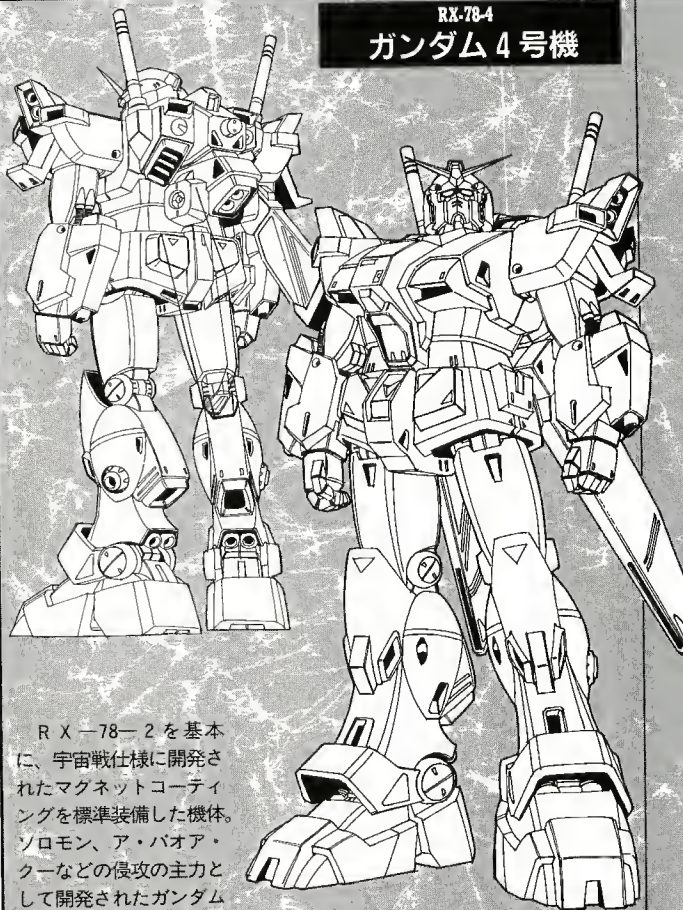
ハイパーバズーカ

RX-78 SPEC

全高 18.0m 全体重 43.4t 全備重量 60.0t エネルギー出力 1380kw スラスト
推力 55500kgf 全長 5700mm 装甲材質 アルミチタニウム 武装 ビームライフル、ビームサーベル、270mmバルカン、60mmバルカン砲×2、他

ガンダム

RX-78-4 ガンダム 4号機



RX-78-2を基本に、宇宙戦仕様に開発されたマグネットコーティングを標準装備した機体。ソロモン、ア・バオア・クーなどの侵攻の主力として開発されたガンダムタイプの4番目の機体。

RX-78-4 SPEC

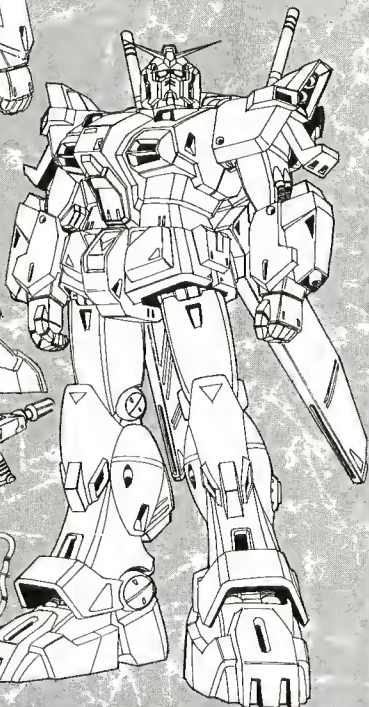
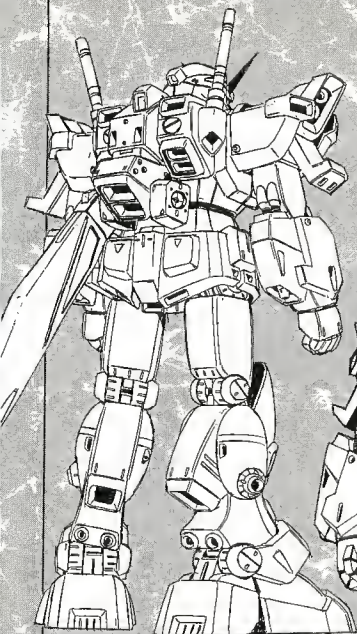
頭頂高／18.0m 本体重量／42.6t 全備重量 80.2t、86.5t(ビームランチャー装填時推定)
 エネレーター出力／1550kw スラスター推力 70500kg センサー有効半径 6190m 装甲材質
 ルナチタニウム 武装／60mmバルカン砲×2、ハントビームカシメ×2、ビームサーベル×2、ハイパーバズーカ、ハイパービームライフル、ビームランチャー(計画のみ)

●ガンダム大図鑑

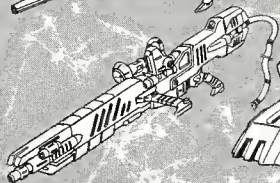
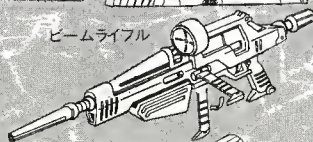
RX-78-S

ガンダム5号機

4号機と同じコンセプトで開発された機体。コア・ブロックシステムを除きそのスペースを冷却システムに転用。ジェネレーターの改良によって強力なビーム兵器の使用が可能となった。



ビームライフル



RX-78-5 SPEC

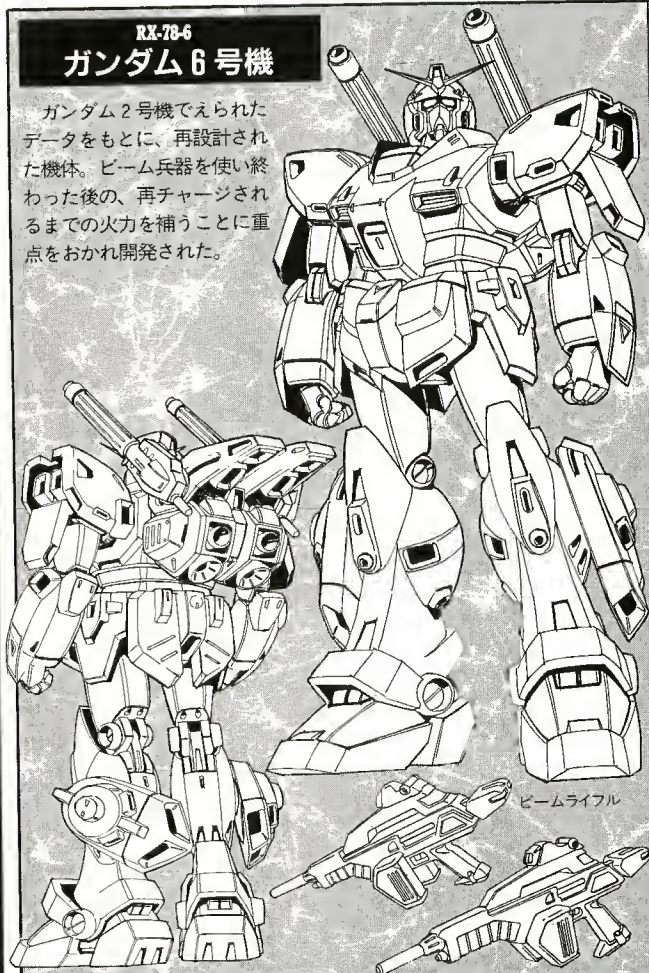
頭頂高/18.0m 本体重量/42.9t 全備重量/80.5t ジェネレーター出力/1480kw スラスター推力/70500kg スラスター有効半径/6190m 装甲材質/ルナチタニウム 武装/60mmバルカン砲×2、ハントビームカン×2、ビームサーベル×2、ハイパーバズーカ、ハイパービームライフル

ガンダム5号機

RX-78-6

ガンダム 6 号機

ガンダム 2 号機でえられたデータをもとに、再設計された機体。ビーム兵器を使い終わった後の、再チャージされるまでの火力を補うことに重点をおかれ開発された。



RX-78-6 SPEC

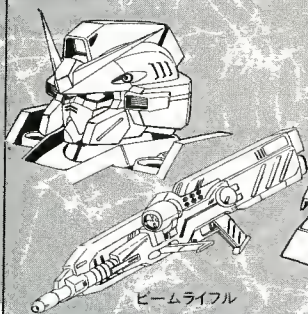
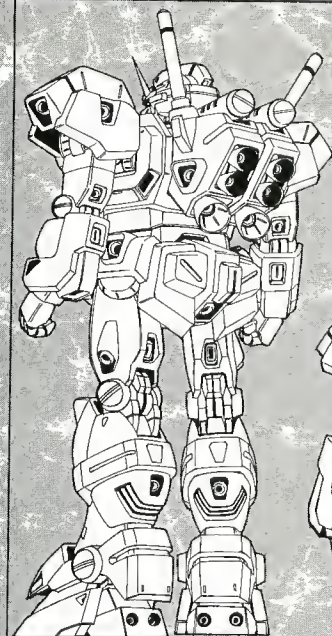
頭頂高/18.0m 本体重量/47.3 全備重量/84.4m ジェネレーター出力/1480kw スラスト
 一推力/70500kg センサー有効半径/5900m 装甲材質/ルナチタニウム 武装/300mmキャ
 ノン砲×2、60mmバルカン砲×2、クレネイドランチャー×2、ビームサーベル×2、ビームライ
 フル、ハイパーバズーカ、ハイパーハンマー

●ガンダム大図鑑

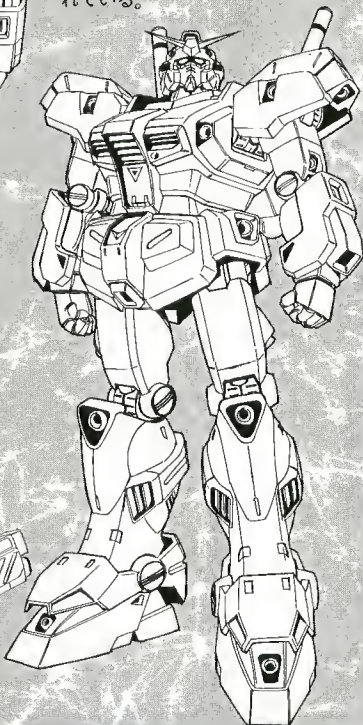
RX-78-7

ガンダム7号機

この機体は設計段階で終戦を迎え、基本フレーム以外は製作されることがなかった。当初からF Aなどのオプションシステムを想定して設計され、各所にマウントラッチが設置されている。



ビームライフル



ガンダム7号機

RX-78-7 SPEC

頭頂高／18.3m 本体重量／39.2t 全備重量／78.7t ジェネレーター出力／1670kw スラスト
一推力／70800kg センサー有効半径／6130m 装甲材質／ルナチタニウム 武装／ビームライフル、60mmバルカン砲×2、ビームサーベル×2、グレネードランチャー

RAG-79-G1 水中型ガンダム

アクアGMを再設計しエースパイロット用に特にチューンされた機体。基本設計はアクアGMとほとんど変わらないが、頭部形状をガンダムに似せているため、通称がガンダムとなった。

水中型ガンダム



ビームライフル&カバー

RAG-79-G1 SPEC

頭頂高／18.3m 本体重量／47.7t 全備重量／58.5t ジェネレーター出力／1330kw ハイトロ
 ジェット推力／9670kg センサー有効半径／4600m 装甲材質／チタン・セラミック複合材 武装
 魚雷×2、ビームピク×2、炸裂式ハーブガン、水中用偏向ビームライフル

単独で大気圏突入能力をもつMS。ウェーブライダー形態への変形により大気圏内の飛行も可能となる。アナハイム社で開発中であったMSZ-006Xに可変機能をもたせたもので、カミーユ・ビダンのアイデアとティターンズから奪ったRX-178の設計が部分的に組込まれている。

MSZ-006

Zガンダム

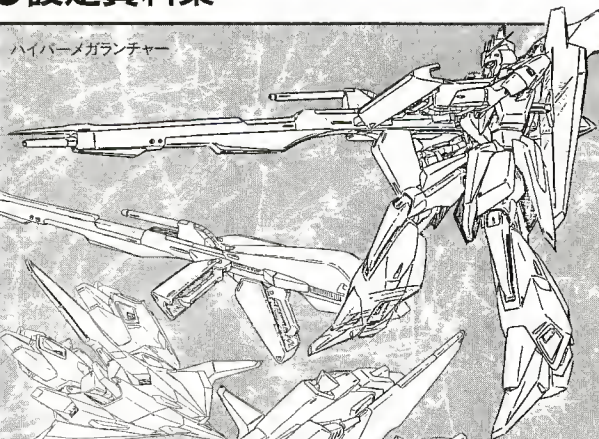


Zガンダム

MSZ-006 SPEC

頭頂高／19.8m 本体重量／28.7t 全備重量／62.3t ジェネレーター出力／2020kw スラスター推力／112600kg センサー有効半径／14000m 装甲材質／ガンダリウム合金 武装／60mm バルカン砲×2、グレネイドランチャー×6、他

ハイパーメガランチャー



ウェイブライダー



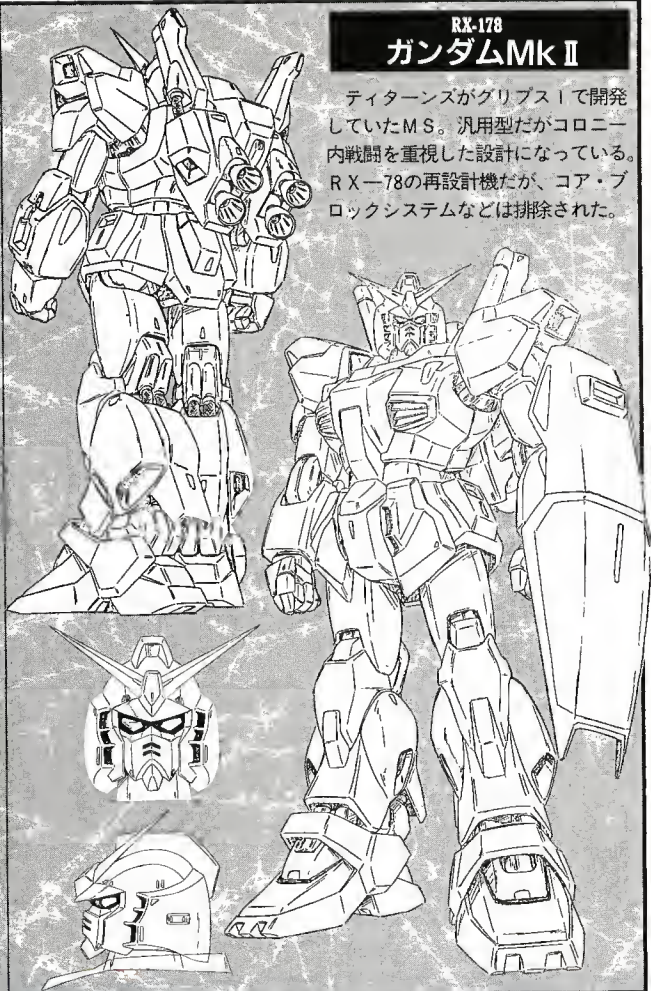
変形パターン



RX-178

ガンダムMk II

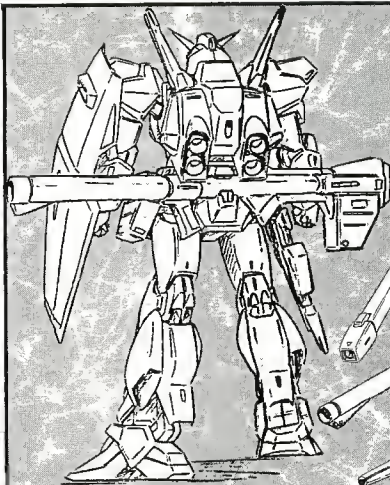
ティターンズがグリプスIで開発していたMS。汎用型だがコロニー内戦闘を重視した設計になっている。RX-78の再設計機だが、コア・ブロックシステムなどは排除された。



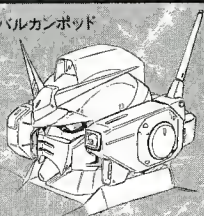
ガンダムMk II

RX-178 SPEC

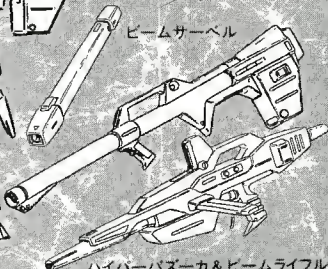
全高 18.5m 本体重量 33.4t 全備重量 54.1kg ジェネレーター出力 1930kw スラスター推力 81200kg センサー有効半径 11300m 装甲材質 ルナチタニウム・セラミック複合材
武装 60mmバルカン・ホット、ビームサーベル×2、他



バルカンポッド

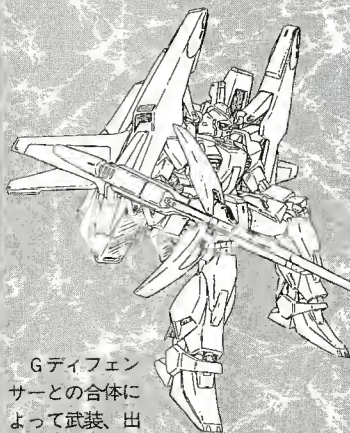


ビームサーベル

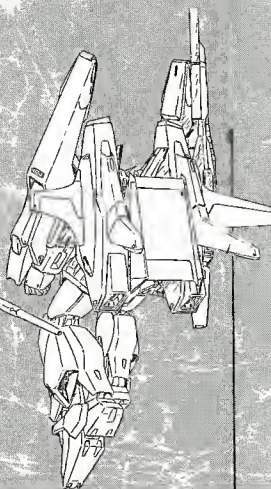


ハイパーバズーカ&ビームライフル

スーパーガンダム



Gディフェンサーとの合体によって武装、出力を強化したガンダムMK II。

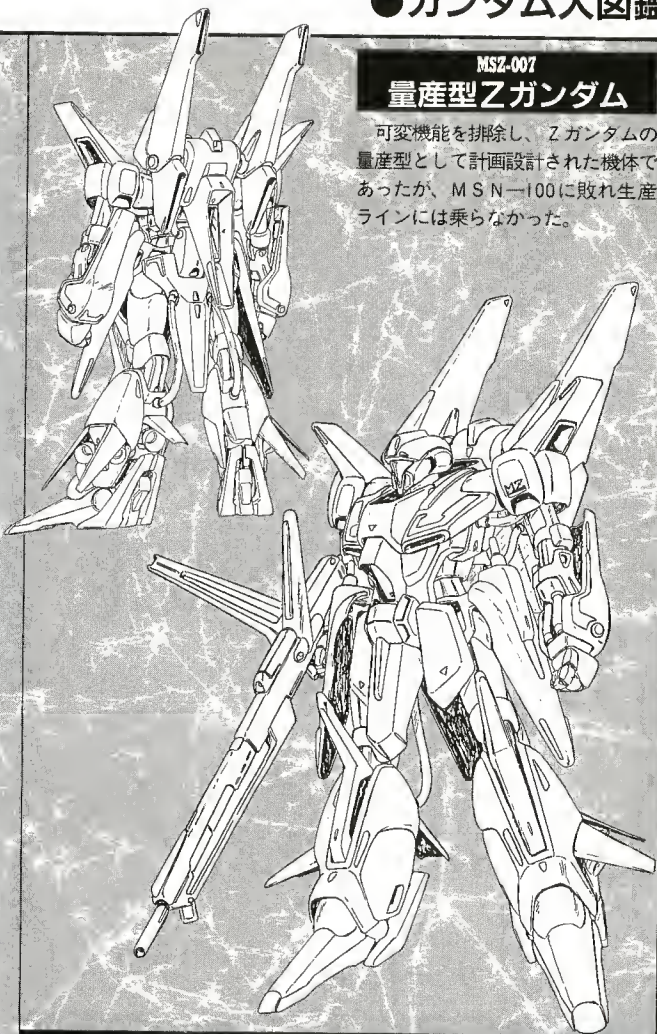


●ガンダム大図鑑

MSZ-007

量産型Zガンダム

可変機能を排除し、Zガンダムの量産型として計画設計された機体であったが、MSN-100に敗れ生産ラインには乗らなかった。



MSZ-007 SPEC

全高/20.4m 本体重量/30.9t 全備重量/48.3t ジェネレーター出力/1830kw スラスター推力/73700kg センサー有効半径/11900m 装甲材質/ルナチタニウム・セラミック複合材
武装/メガビームライフル、ビームライフル×2

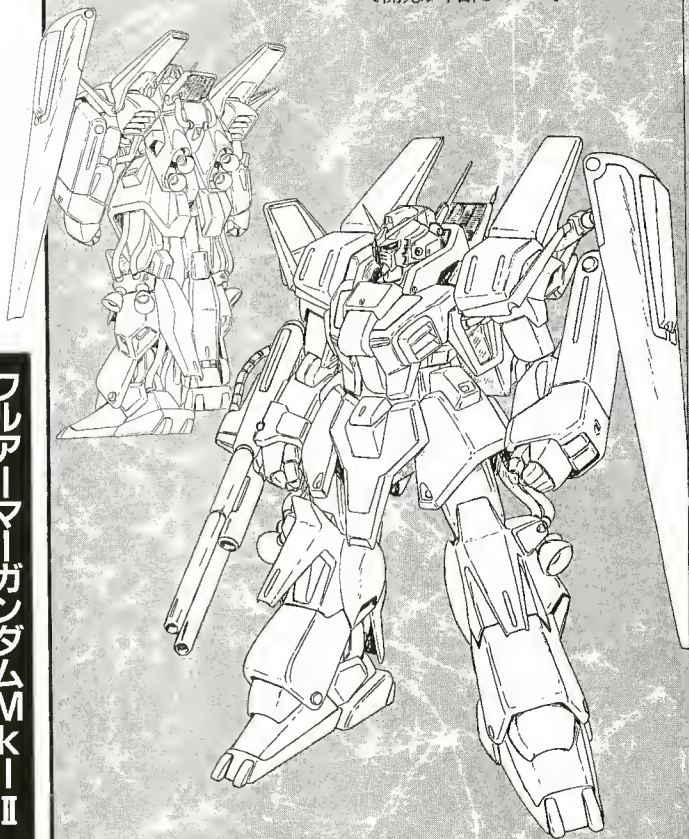
量産型Zガンダム

FA-178

フルアーマーガンダムMkⅡ

RX-178の装甲を強化するために、ガンダリウム合金製の増加装甲を装備した機体。しかし、試作段階で開発が中断している。

フルアーマーガンダムMkⅡ



FA-178 SPEC

頭頂高／18.5m 本体重量／53.2t 全備重量／74.3t ジェネレーター出力／1930kw スラスト一推力／124500kg センサー有効半径／11300m 装甲材質／ルナチタニウム・セラミック複合材
武装／2連装ビームガン、60mmバルカン砲×2、グレネイドランチャー×2

MSZ-006x1, x2, x3

プロトZガンダム

Zガンダムの試作機。アナハイム社にRX-178が届いた時点にロールアウトしていた。フレーム、アビオニクスなどをこの機体から流用しZガンダムを短期間で完成させた。



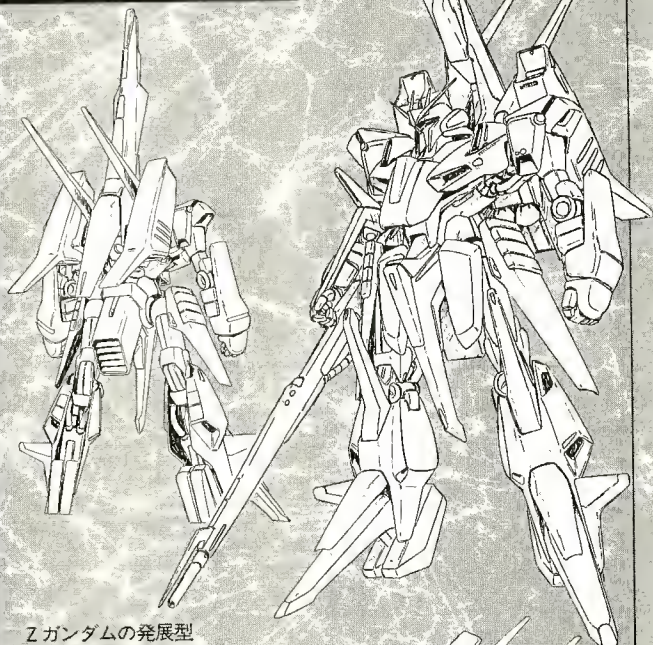
MSZ-006x1 SPEC

頭頂高 / 19.6m 本体重量 / 29.9t 全備重量 / 52.1t ジェネレーター出力 / 1790kw スラスター推力 / 99000kg センサー有効半径 / 14000m 装甲材質 / ガンダリウム合金 武装 / ビームライフル、ビームサーベル×2

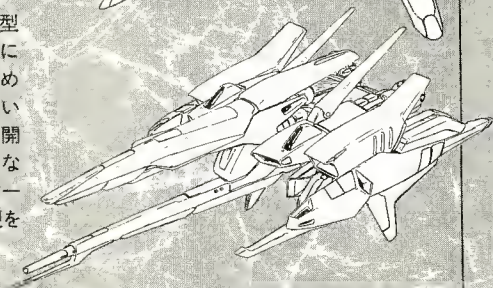
プロトタイプZガンダム

MSZ-008

Z II



Zガンダムの発展型機。変形機構を単純に生産性と操縦性を高めた。性能上申し分ないが、MSN-100の開発が優先され廃案となった。モビルアーマー形態は宇宙戦闘機型をしている。



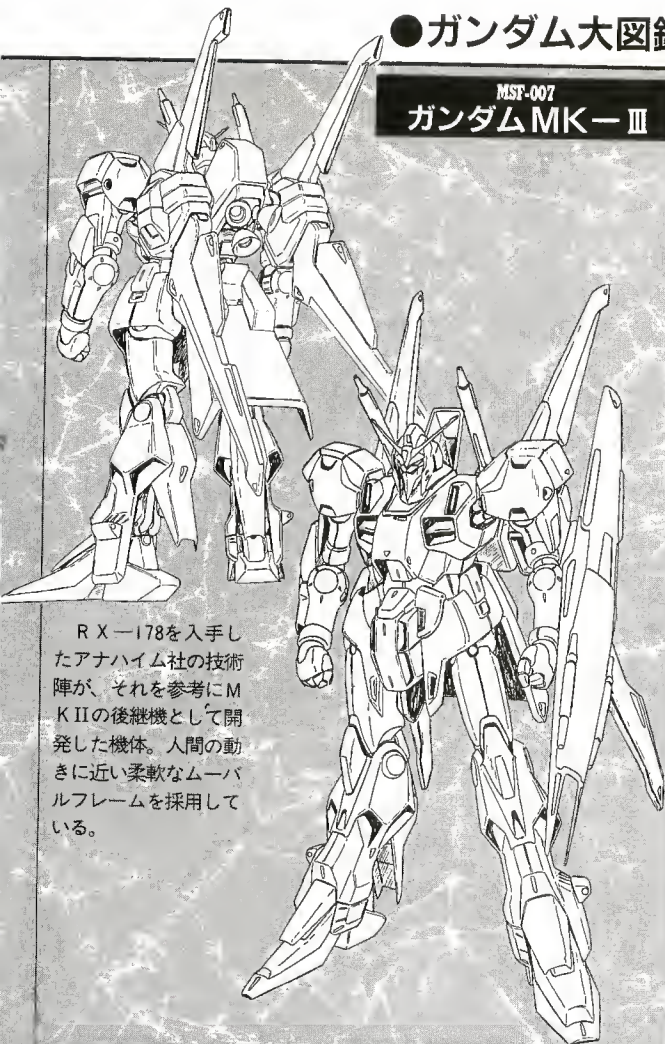
MSZ-008 SPEC

頭頂高／18.3m 本体重量／31.1t 全備重量／69.7t ジェネレーター出力／2130kw スラスター推力／114300kg センサー有効半径／14000m 装甲材質／ガンダリウム合金 武装／メガビームライフル、ビームライフル×2

●ガンダム大図鑑

MSF-007

ガンダムMK-III



RX-178を入手したアナハイム社の技術陣が、それを参考にMK IIの後継機として開発した機体。人間の動きに近い柔軟なムーバルフレームを採用している。

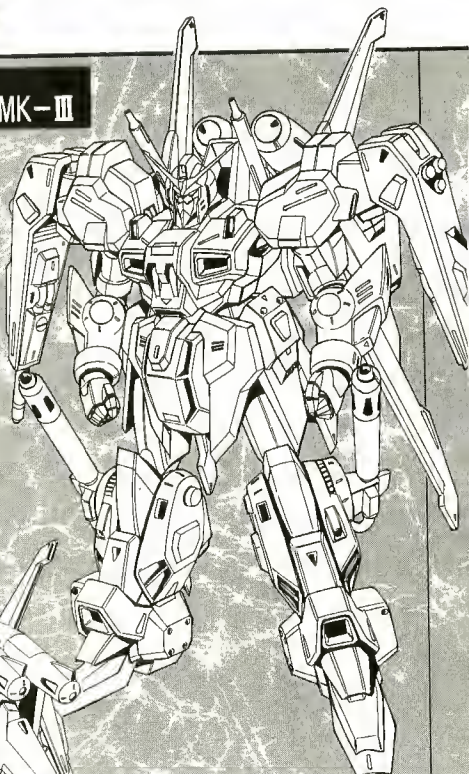
ガンダムMK-III

MSF-007 SPEC

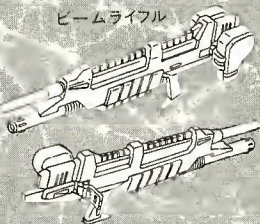
頭頂高/19.5m 本体重量/32.1t 全備重量/48.2t ジェネレーター出力/2022kw スラスタ
ー推力 107500kg センサー有効半径/11500m 装甲材質/ガンダリウム合金 武装/2連装
ビームキャノン、ビームサーベル×2、ビームライフル

FA-007GⅢ フルアーマーガンダムMK-Ⅲ

ガンダムMK-Ⅲの特性を殺さずに火力、推力を飛躍的に増加させる増加装甲システムを搭載した機体。



ビームライフル



フルアーマーガンダムMK-Ⅲ

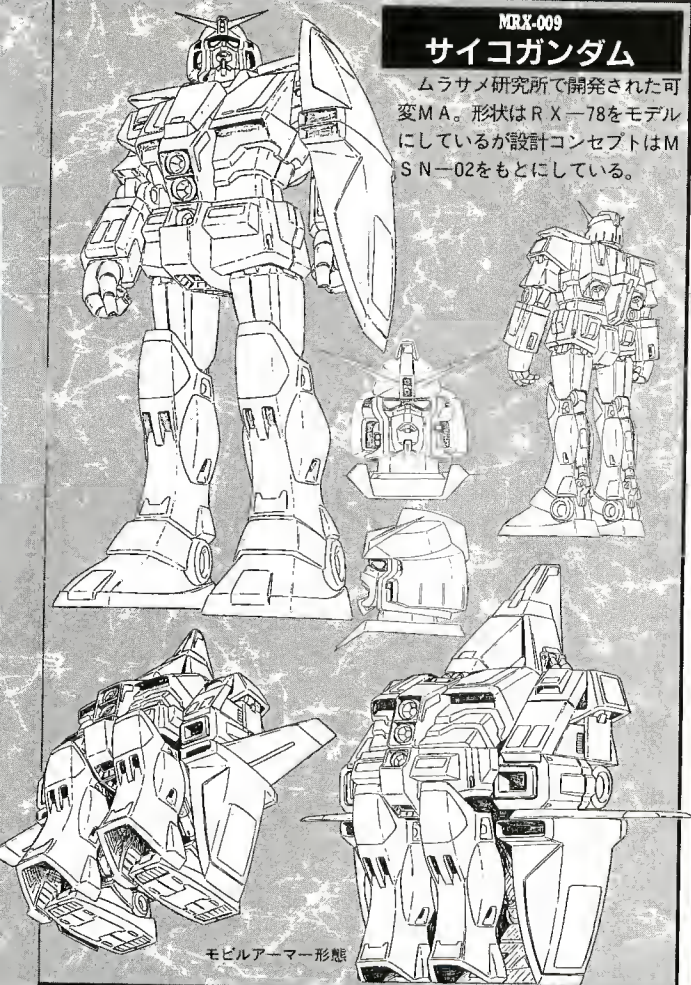
FA-007GⅢ SPEC

頭頂高／19.5m 本体重量／47.2t 全備重量／62.1t ジェネレーター出力／3040kw スラスター推力／141200kg センサー有効半径／11500m 装甲材質／ガンタリウム合金 武装／ハイパービームキャノン×2、ビームキャノン×2、シールドキャノン×2、グレネイドランチャー×2、ビームサーベル×2、ビームライフル

MRX-009

サイコガンダム

ムラサメ研究所で開発された可変MA。形状はRX-78をモデルにしているが設計コンセプトはMSN-02をもとにしている。



モビルアーマー形態

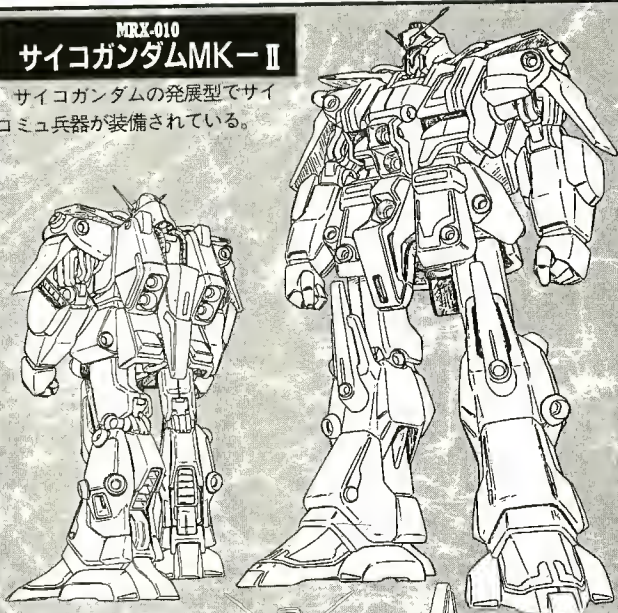
MRX-009 SPEC

頭頂高 40.0m 全機重量 214.1t 全備重量 388.6t ジェネレーター出力/33600kw スラスター推力 84000kg センサー有効半径 10200m 装甲材質/ガンダリウム合金 武装/拡散メカ粒子砲×3、ヒーム砲×10、小型メカヒーム砲

MRX-010

サイコガンダムMK-II

サイコガンダムの発展型でサイコミュ兵器が装備されている。



モビルアーマー形態

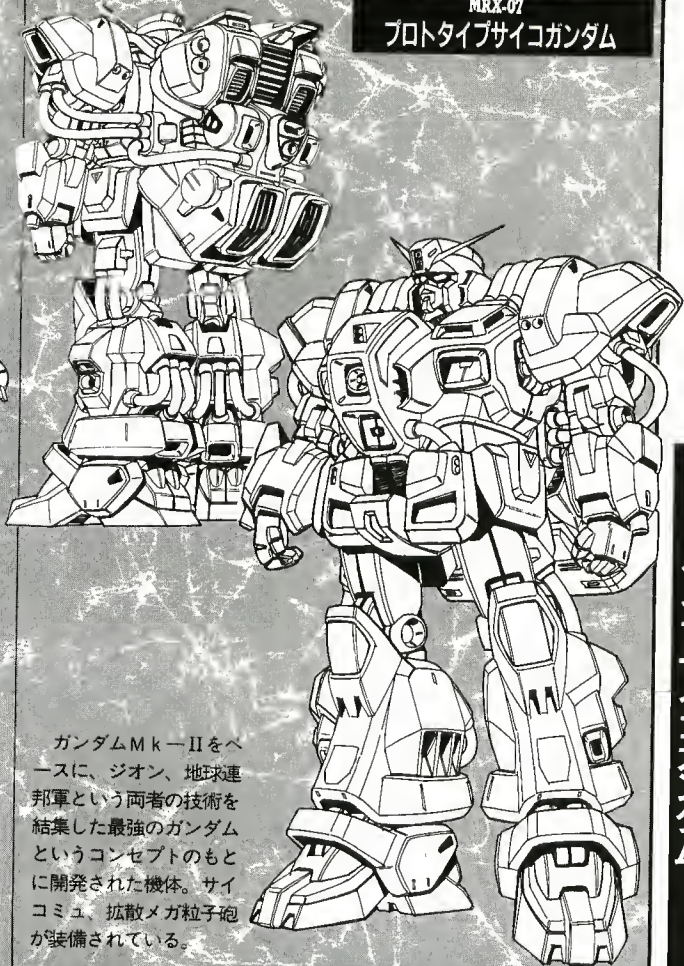


MRX-010 SPEC

頭頂高/39.98m 本体重量/187.8t 全備重量/283.9t ジェネレーター出力/19760kw スラスター推力/244240kg センサー有効半径/16230m 装甲材質/ガンダリウム合金 武装 サイコミュビームソード×2、レフレクタービット×20、他

MRX-07

プロトタイプサイコガンダム



ガンダムMk-IIをベースに、ジオン、地球連邦軍という両者の技術を結集した最強のガンダムというコンセプトのもとに開発された機体。サイコミュ、拡散メガ粒子砲が装備されている。

プロトタイプサイコガンダム

MRX-07 SPEC

全高 19.3m 全幅 7.4m 全備重量 110.9t エンジン 出力 3700kw スラスター 出力 84100kg センサー 有効半径 11300m 装甲材質 サタン合金セラミック複合材 武装 拡散メガ粒子砲、ローム砲×2（有線サイコミュシステム搭載）

MRX-011 量産型サイコガンダム

ティターンズのエースパイロット用に開発されたサイコガンダムの量産機。エウゴとの短期決戦用にサイコガンダムMK IIを小型化した機体に、多くの武装が詰込まれている。

量産型サイコガンダム



MRX-011 SPEC

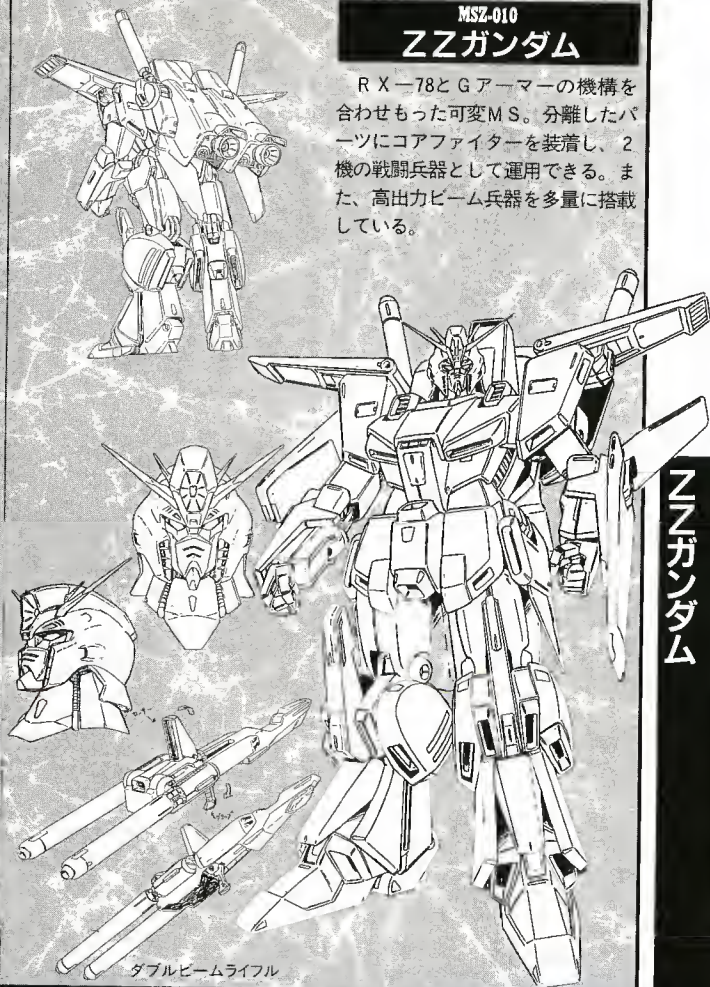
頭頂高/27.2m 本体重量/83.0t 全備重量/136.4t ジェネレーター出力/15280kw スラスター推力/91100kg センサー有効半径/10300m 装甲材質/ガンダリウム合金 武装/収納式ハイメガバスター、拡散メガ粒子砲×3、有線ビーム砲×2、インコムユニット×2、クレネイトランチャー×2、ハイパービームサーベル(ビームキャノン兼用)×2

●ガンダム大図鑑

MSZ-010

ZZガンダム

RX-78とGアーマーの機構を
合わせもった可変MS。分離したパ
ーツにコアファイターを装着し、2
機の戦闘兵器として運用できる。ま
た、高出力ビーム兵器を多量に搭載
している。



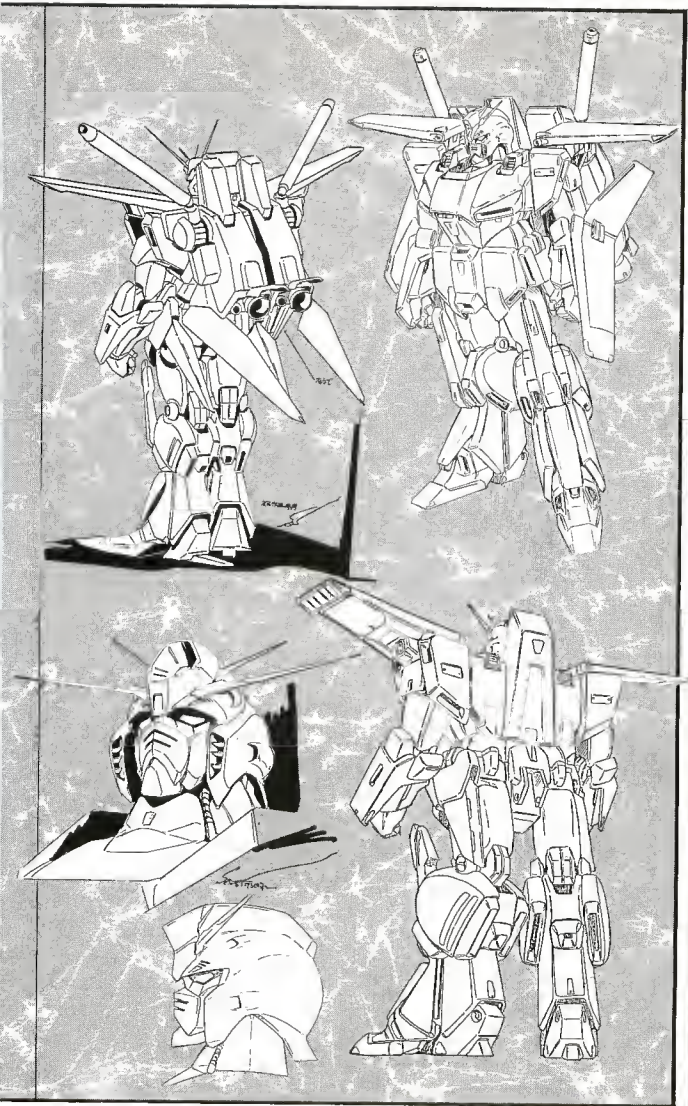
ZZガンダム

ダブルビームライフル

MSZ-010 SPEC

頭頂高/19.86m 本体重量/32.7t 全備重量/68.4t ジェネレーター出力/7340kw スラスタ
ー推力/101000kg センサー有効半径/16200m 装甲材質/ガンダリウム合金 武装/ハイメ
カキャノン、ダブルキャノン×2、ダブルバルカン、他





ΖΖガンダム

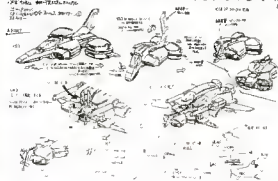
G フォートレス

コアトップ

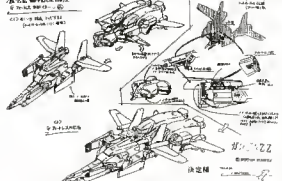
コアベース

合体パターン

“ZZガンダム” 合体・変形・システム (1) ZZ11
“G フォートレス” 合体 パターン (2) (MS 10)



“ZZガンダム” 合体・変形・システム (2) ZZ11
“G フォートレス” 合体 パターン (2) (MS 10)



MSZ-010S

ZZガンダム強化型



ネオ・ジオン軍の
NZ-000に対抗する
ため、ランドセルの
大型化やジェネレー
ターの高出力化など
が行なわれた機体。
細部にわたってZZ
ガンダムを改修して
いる。

強化型ZZガンダム

FA-010S

フルアーマーZZガンダム

強化型の改修を行なったうえで、変形機構によって発生したMS形態での各関節部の脆さを解消するために追加装甲を施した機体。装甲の強化のみならず多量の火器も組込まれている。

フルアーマーZZガンダム

スプレーミサイル
ランチャー

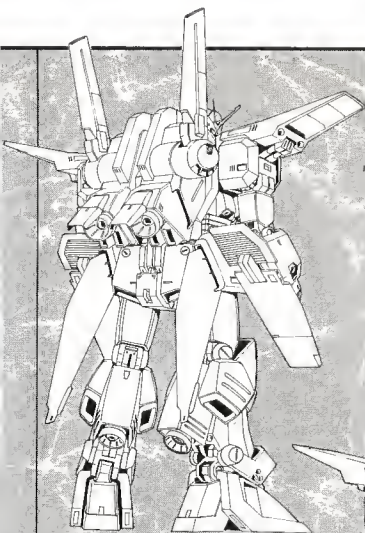
ミサイルポッド

●ガンダム大図鑑

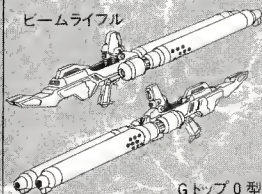
MSZ-009

プロトタイプZガンダム

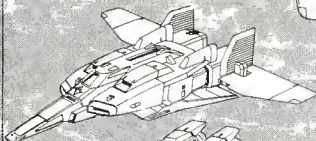
可変MSとしてのZガンダムの特性を受け継ぎながら開発された、Zガンダムの試作機。



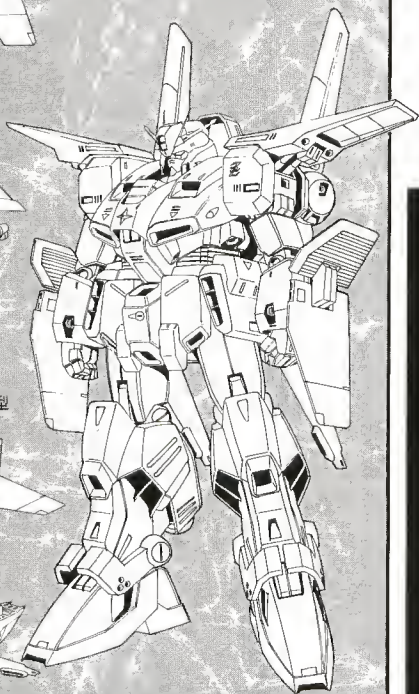
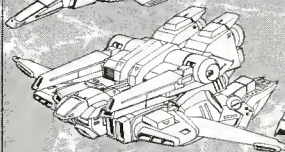
ビームライフル



Gトップ0型



Gベース0型



プロトタイプZガンダム

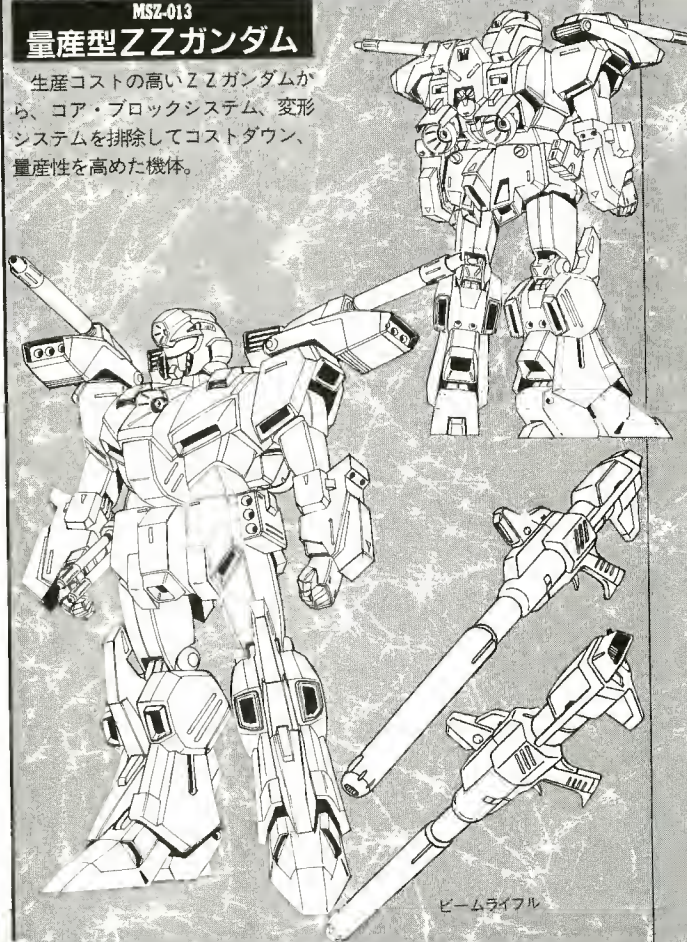
MSZ-009 SPEC

頭頂高/19.02m 本体重量 29.5t(2型31.7t) 全備重量/60.3t(63.0t) ジェネレーター出力/3140kw(2型7200kw) スラスター推力/100300kg センサー有効半径/15480m 装甲材質/カンタリウム合金 武装 2型のみハイメカキャノン、タフルビームライフル、タフルキャノン(ハイパービームサーベル×2)

MSZ-013

量産型Zガンダム

生産コストの高いZガンダムから、コア・ブロックシステム、変形システムを排除してコストダウン、量産性を高めた機体。



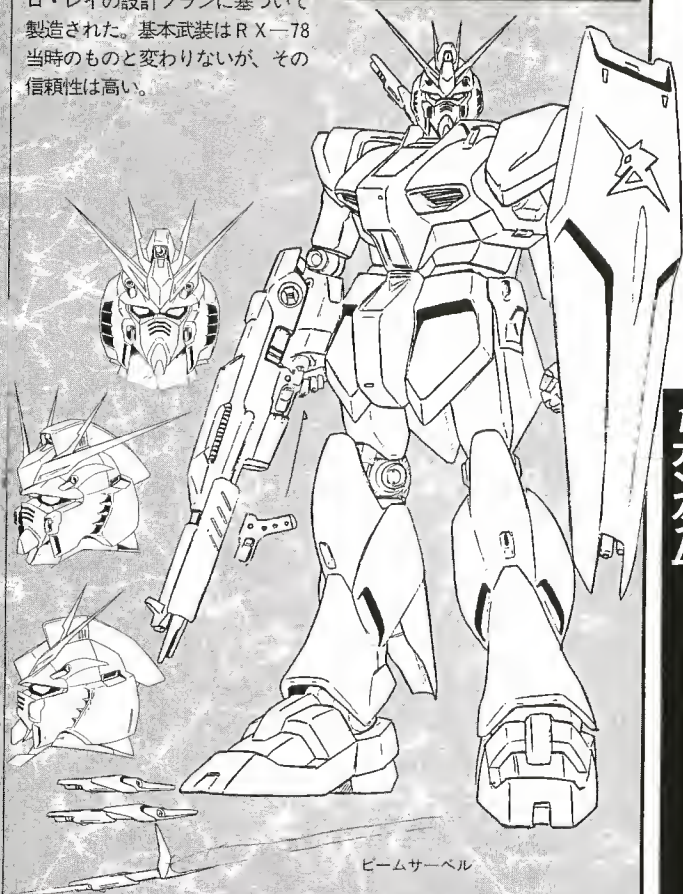
ビームライフル

MSZ-013 SPEC

頭頂高/18.5m 本体重量/29.2t 全備重量/53.5t シェネレーター出力/2210kw スラスター推力/97500kg センサー有効半径/11300m 装甲材質/ガンダリウム合金 武装/50mmバルカン砲×2、簡易ハイメカキャノン、拡散メカ粒子砲、マイクロミサイル、ミサイルホット×2、ビームサーベル×2、ハントクレネイト×2、ビームライフル、オプションウェポンホット×2(マイクロミサイルトビームキャノン)

第2次ネオ・ジオン抗争時に開発された最新型のガンダム。アムロ・レイの設計プランに基づいて製造された。基本武装はRX-78当時のものと変わらないが、その信頼性は高い。

RX-93 レガンダム

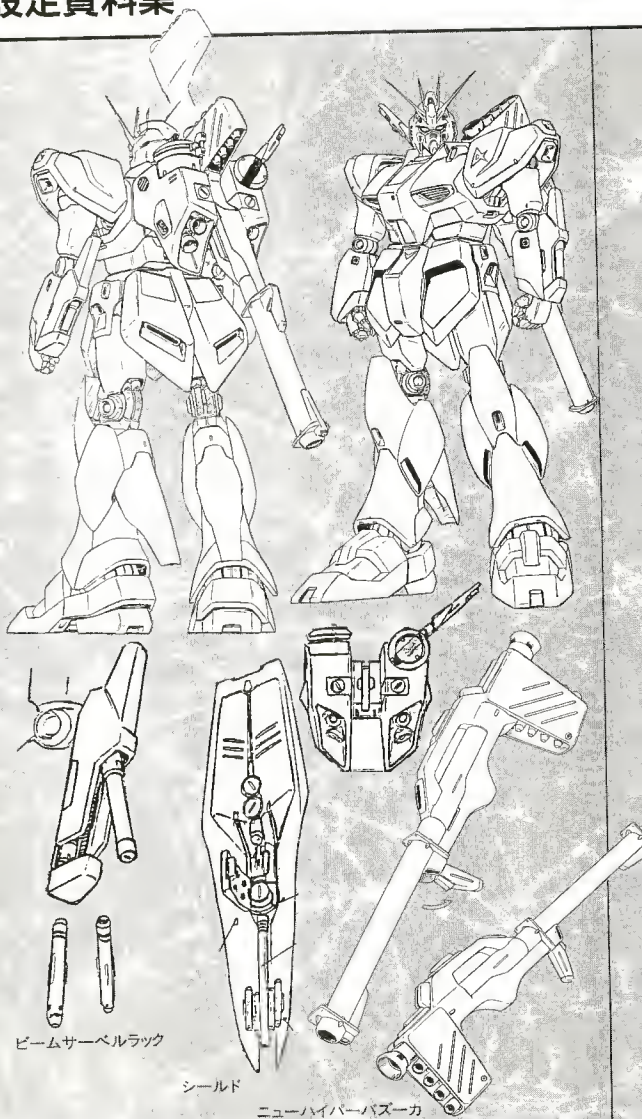


ビームサーベル

RX-93 SPEC

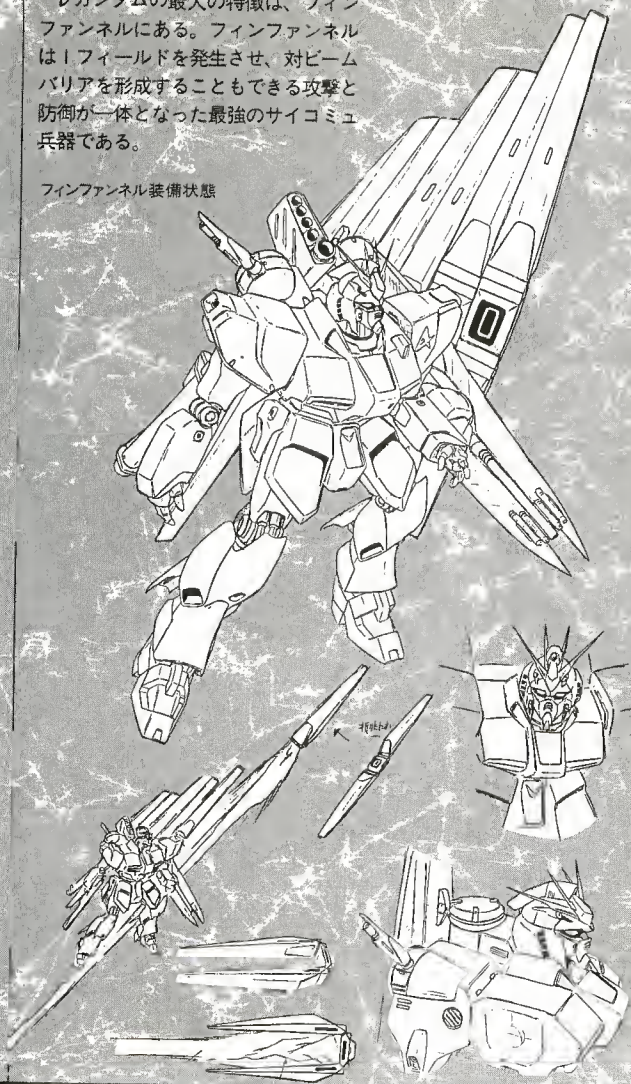
頭頂高／22.0m 本体重量／27.9t 全備重量／63.0t ジェネレーター出力／2980kw スラスター推力／97800kg センサー有効半径／21300m 装甲材質／ガンダリウム合金 武装／ビームサーベル×2、ハイパーバズーカ、ビームキャノン、バルカン砲×2、ミサイル×4、フィンファンネル×6

レガンダム



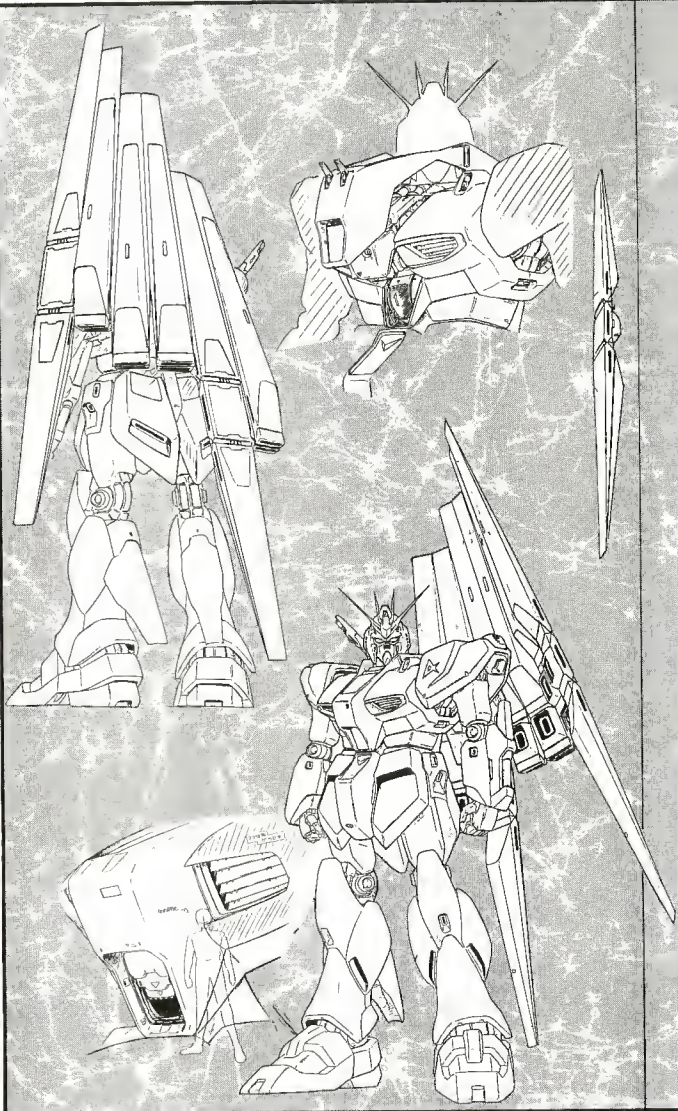
レガンダムの最大の特徴は、フィンファンネルにある。フィンファンネルは1フィールドを発生させ、対ビームバリアを形成することもできる攻撃と防御が一体となった最強のサイコミュ兵器である。

フィンファンネル装備状態



レガンダム(フィンファンネル装備型)

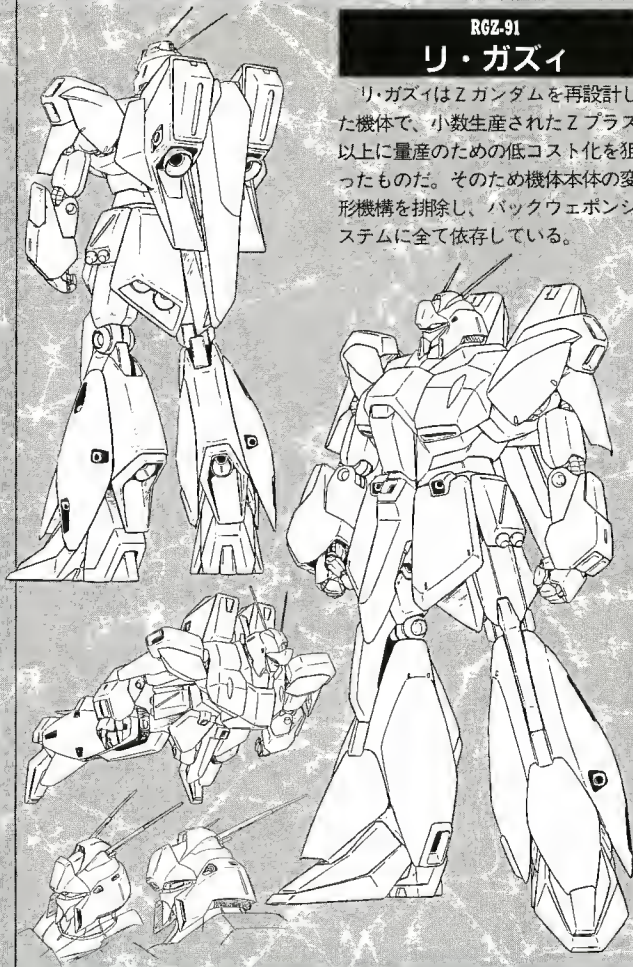
レガンダム(フィンファンネル装備型)



RGZ-91

リ・ガズィ

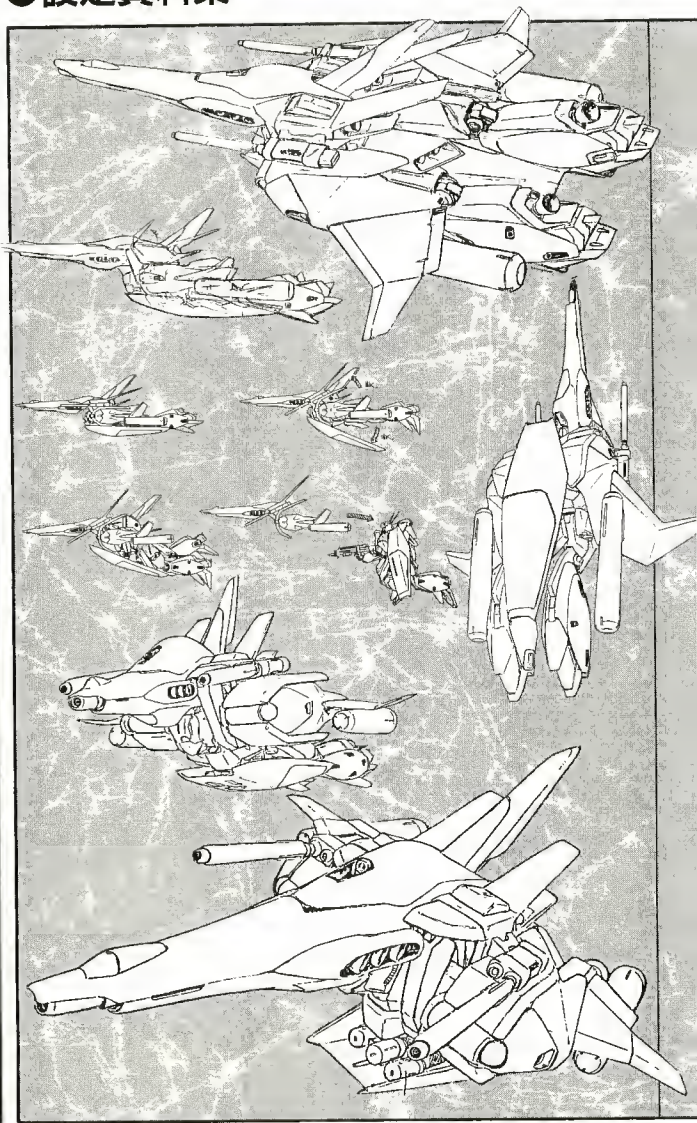
リ・ガズィはZガンダムを再設計した機体で、小量生産されたZプラス以上に量産のための低コスト化を狙ったものだ。そのため機体本体の変形機構を排除し、バックウェポンシステムに全て依存している。



RGZ-91 SPEC

頭頂高／20.5m 本体重量／24.7t 全備重量／55.2t ジェネレーター出力／2550kw スラスタ
ー推力／67600kg センサー有効半径／4200m 装甲材質／カンタリウム合金 武装／ビームラ
イフル、ビームサーベル×2、クレネイドランチャー×4 ハルカン砲×2、バックウェポンシステム

リ・ガズィ



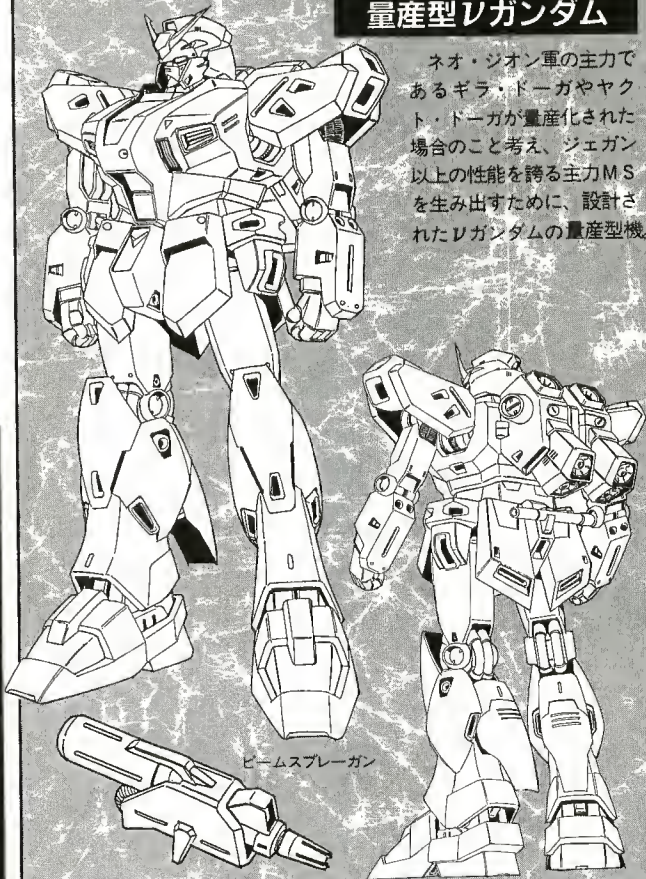


リ・ガズイ

RX-94 量産型レガンダム

ネオ・ジオン軍の主力であるギラ・ドーガやヤクト・ドーガが量産化された場合のこと考え、ジェガン以上の性能を誇る主力MSを生み出すために、設計されたレガンダムの量産型機。

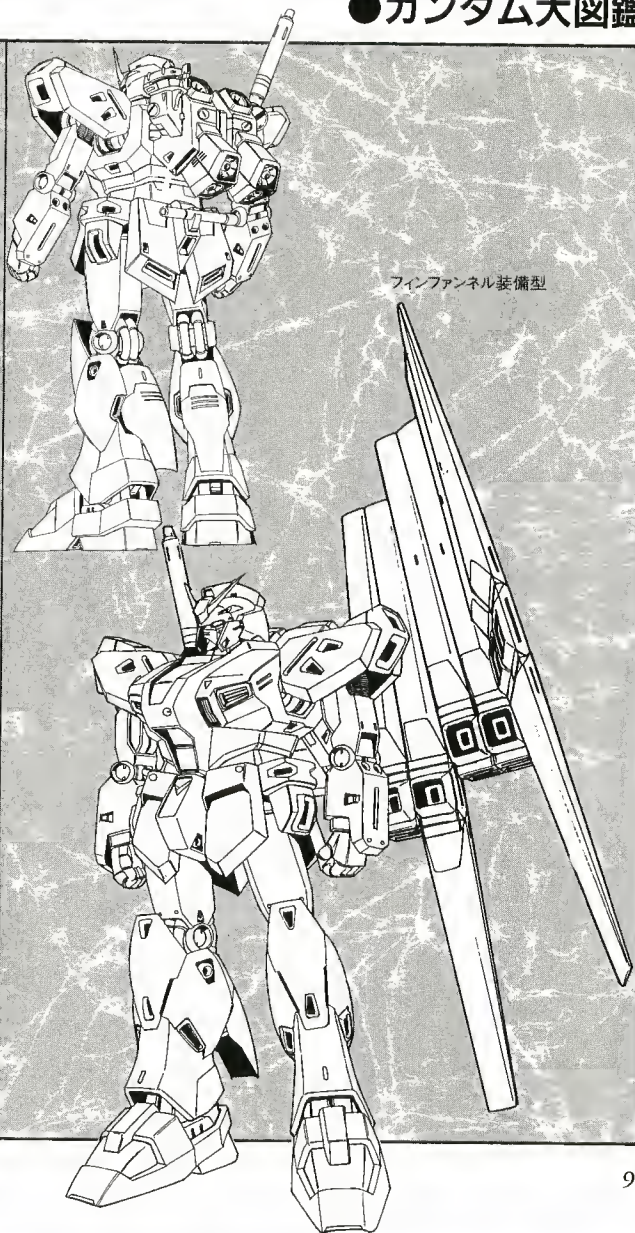
量産型レガンダム



RX-94 SPEC

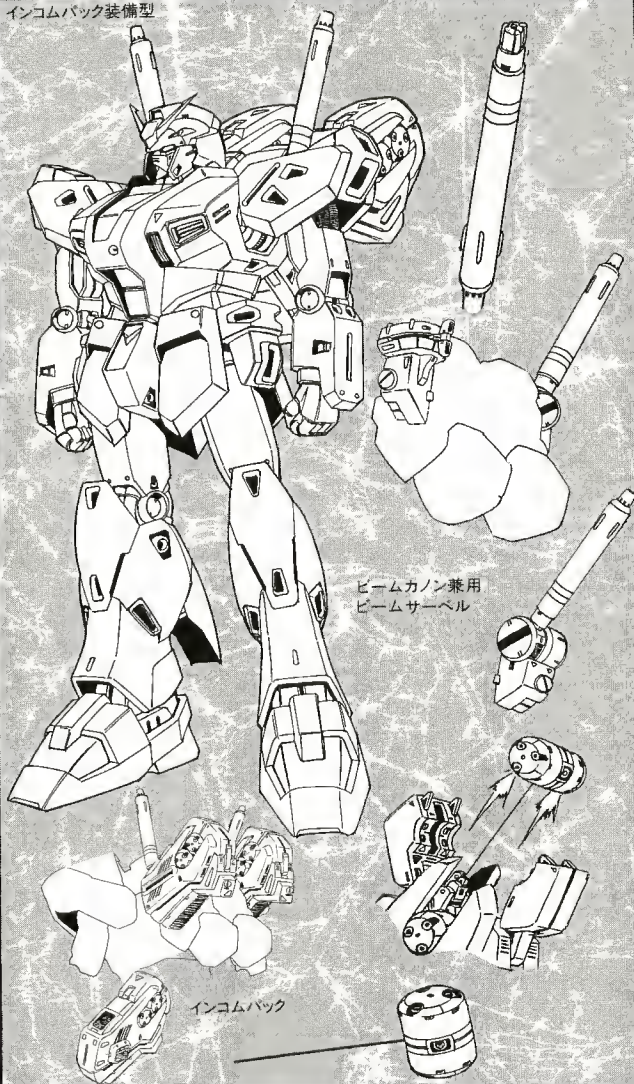
頭頂高/21.2m 本体重量/25.6t 全備重量/64.5t(フィンファンネル装備時推定)、58t(インコムバック装備時推定) シェネレーター出力/2500kw スラスター推力/91000kg センサー有効半径/19400m 装甲材質/ガンタリウム合金 武装/ビームサイフル(RX-98と同形)、ビームスプレーガン、ビームサーベル、インコムユニット(オプションバック)、フィンファンネル(オプションバック)、ビームサーベルバック、ハイパーバスター、ビームキャノン、ミサイル×4

フィンファンネル装備型



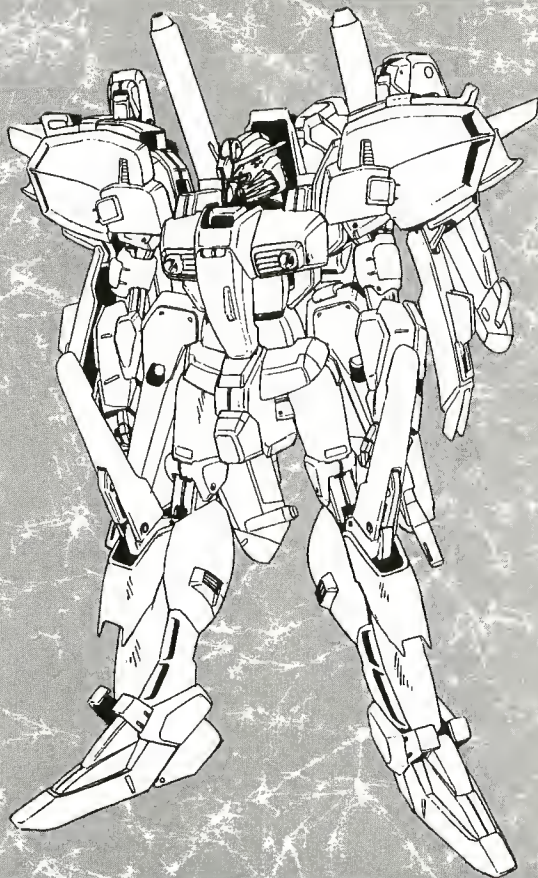
レガンダム(フィンファンネル装備型)

インコムバック装備型



MSA-0011

S-ガンダム



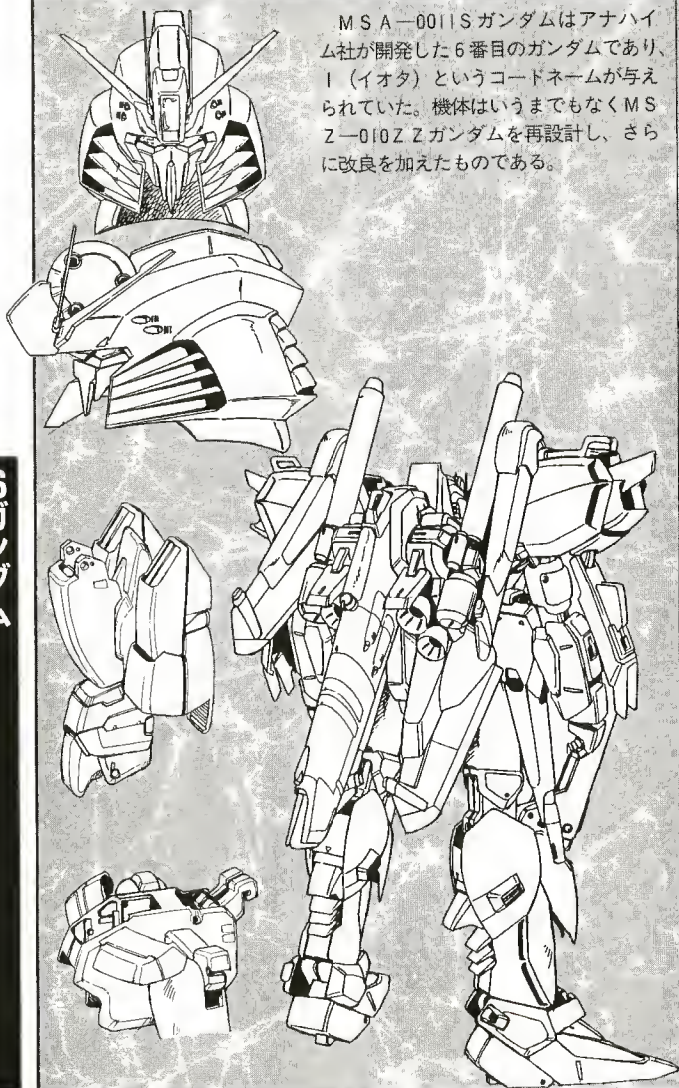
S
ガンダム

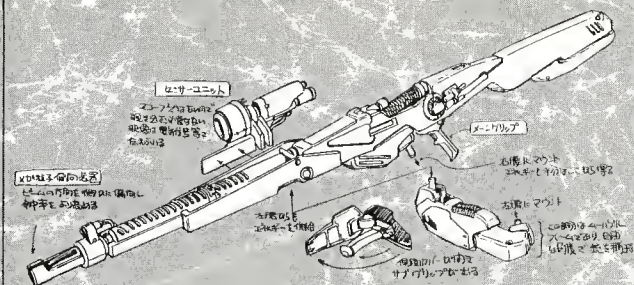
MSA-0011 SPEC

頭頂高 21.7m 空機重量 38.4t 全備重量 73.0t エンジン出力 7180kw スラスタ
ー推力 143600kg センサー有効半径 18800m 装甲材質 カンタリウム合金 武装 ノバルカ
ン×8、大腿部ヒームカノン×2、首部ヒームカノン×2、インコム、ヒームサーベル×2、ヒームス
マートカン

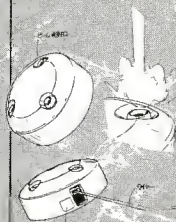
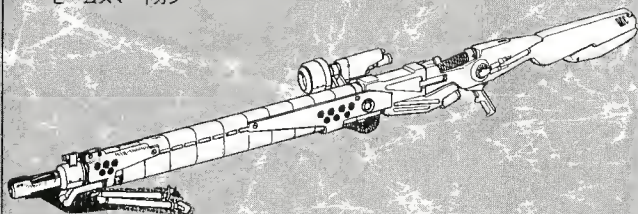
MSA-0011Sガンダムはアナハイム社が開発した6番目のガンダムであり、I（イオタ）というコードネームが与えられていた。機体はいうまでもなくMSZ-010Z Zガンダムを再設計し、さらに改良を加えたものである。

S
ガンダム





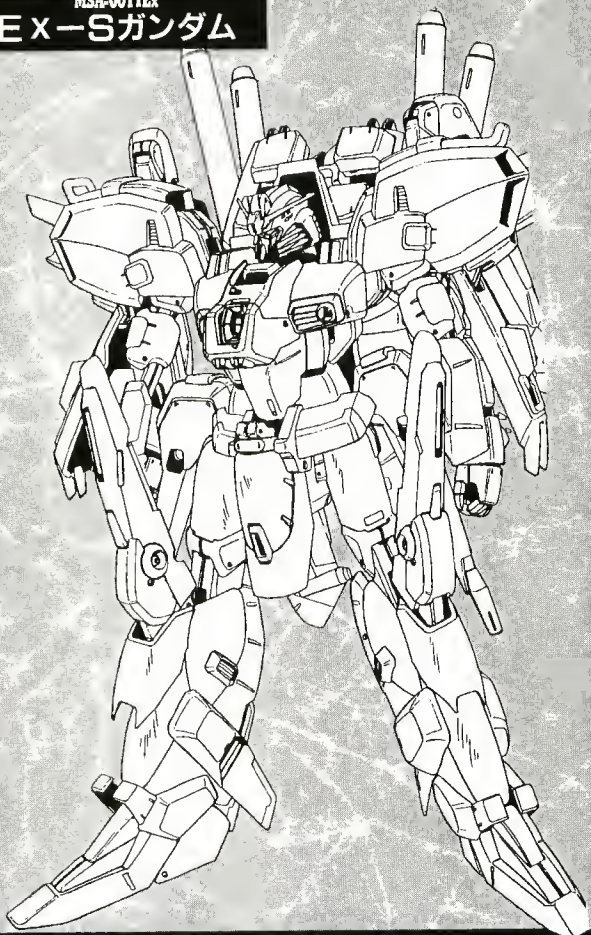
ビームスマートガン



インコム

MSA-0011Ex
E X-Sガンダム

E X-Sガンダム

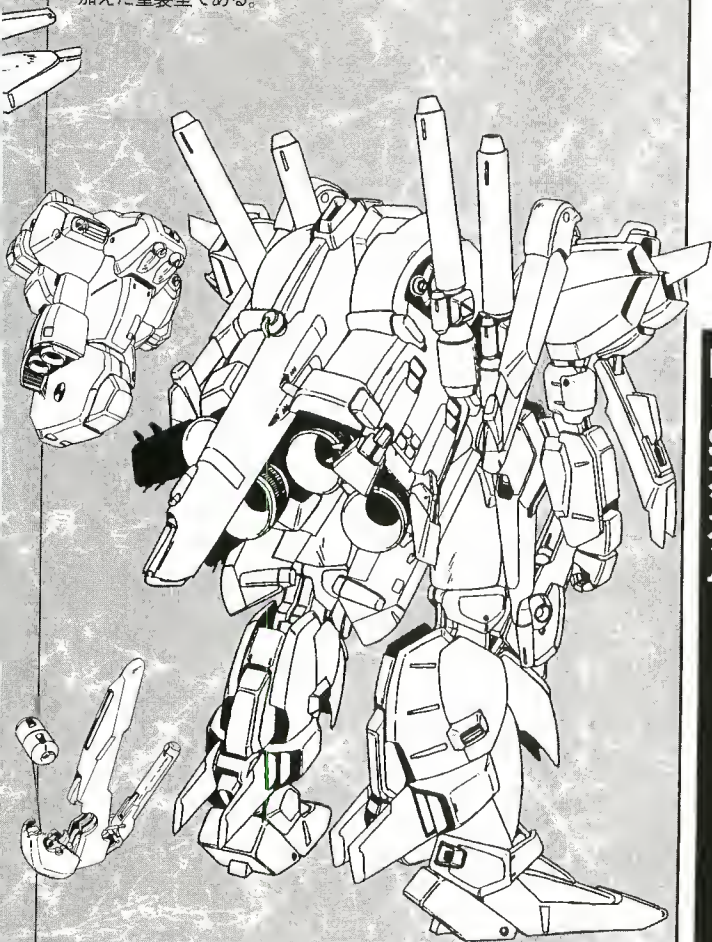


MSA-0011Ex SPEC

頭頂高／21.7m 本体重量／69.2t 全備重量／162.5t シェネレーター出力／7180kw スラスター推力／1182000kg センサー有効半径／18800m 装甲材質／ガンタリウム合金 武装／バルカン×8、大腿部ビームカノン×2、背部ビームカノン×2、インコム、ビームサーベル×2、ビームスマートカン、リフレクターインコム、ビーム偏向器、背部ビームカノン×2（合計4）

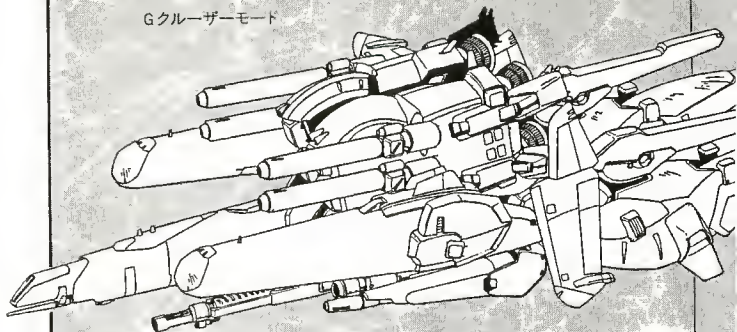
●ガンダム大図鑑

Sガンダムは増加装甲やブースター、重火器などのオプションを最初から機体設計に組込んでいる。そのため、追加装備した場合でもそのバランスが崩れることはない。Ex-Sはノーマルな機体に1フィールド発生器、リフレクターインコム、強化型ブースターパックなどを加えた重装型である。



EX-Sガンダム

Gクルーザーモード



MSA-0011Bst

Bst-Sガンダム

E x - S用の強化型バックパックを4基も装備させた突撃戦仕様。全備重量でも10Gという旧公国軍のMA級の加速性能有するが、戦闘時間は短い。

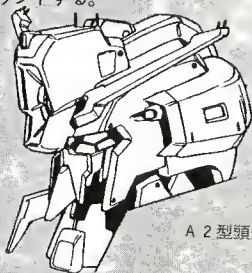


MSA-0011Bst SPEC

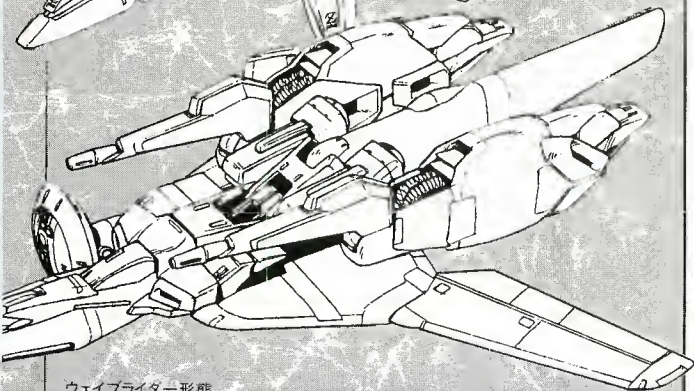
頭頂高/15.7m 本体重量/82.2t 全備重量/220 t ジェネレーター出力/12250kw スラスタ推力/2140000kg センサー有効半径/18800m 装甲材質/カンタリウム合金 武装/バルカン×8、背部ビームカノン×4、ビームスマートガン、インコム
イント数/11 ウェポンラック数/1 武装/内装バルカン砲×2、ビームサーベル×2、その他、用途別、各運用仕様によりフォーマット化

MSZ-006C1 Zプラス

試作型であったZガンダムを量産機として再設計した機体。まず、大気圏内専用機としてA1型が造られ、ついで宇宙用のC1型が再々設計された。C1型でも大気圏再突入が可能である。ウェイブライダー形態ではビームスマートガンを機体下部にマウントする。



A2型頭部



ウェイブライダー形態

MSZ-006C1 SPEC

頭頂高/19.9m 本体重量/36.2t 全備重量/77.0t ジェネレーター出力/2070kw スラスタ推力/124200kg センサー有効半径/21000m 装甲材質/カンタリウム合金 武装/バルカン×2、大腿部ビームカノン、ビームサーベル×2、ビームスマートガン

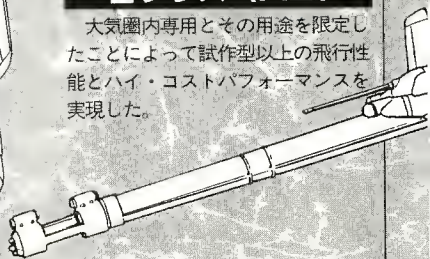
標準型サブ・ユニット



MSZ-006A1

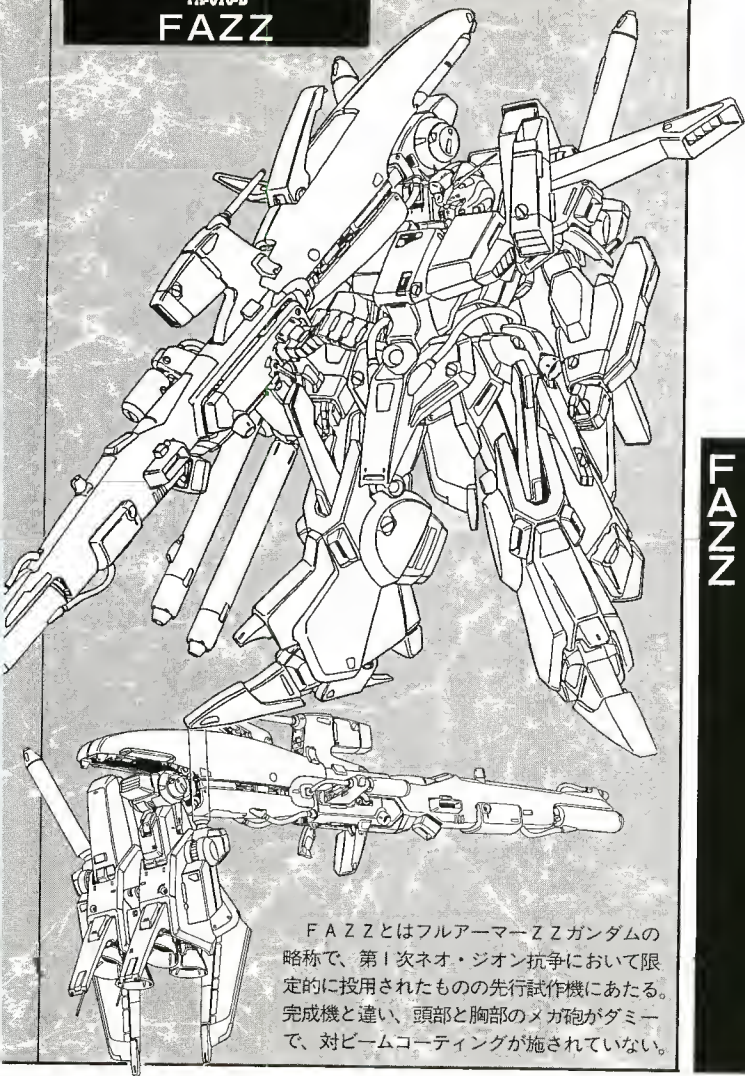
Ζプラス (A型)

大気圏内専用とその用途を限定したことによって試作型以上の飛行性能とハイ・コストパフォーマンスを実現した。



FA-010-B

FAZZ



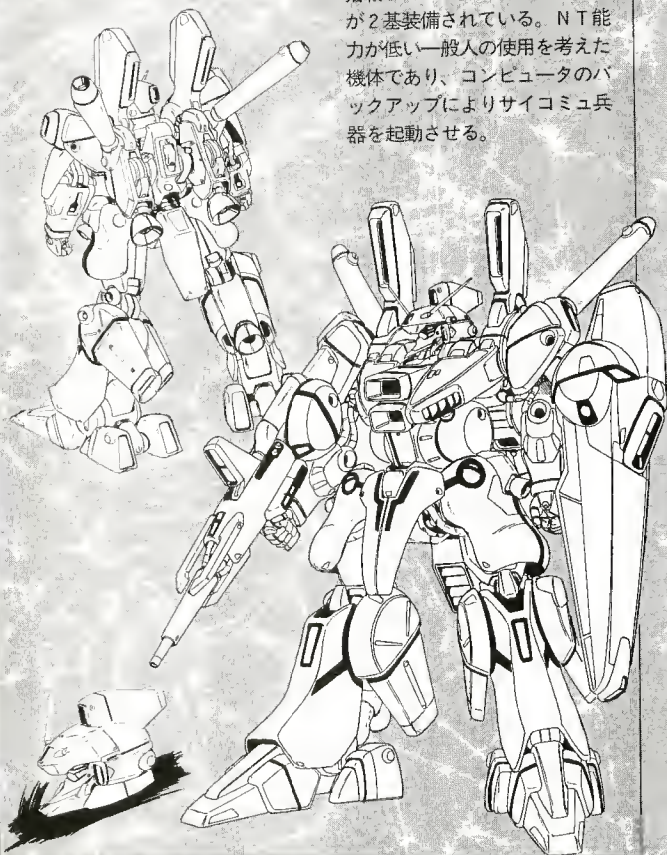
FAZZ

FAZZとはフルアーマーZZガンダムの略称で、第1次ネオ・ジオン抗争において限定的に投用されたものの先行試作機にあたる。完成機と違い、頭部と胸部のメガ砲がダミーで、対ビームコーティングが施されていない。

ORX-013

ガンダムMK-Ⅴ

オーガスタのニュータイプ研究所がMRX-009の小型版として開発した、準サイコミュを搭載したMS。両肩にインコムが2基装備されている。NT能力が低い一般人の使用を考えた機体であり、コンピュータのバックアップによりサイコミュ兵器を起動させる。



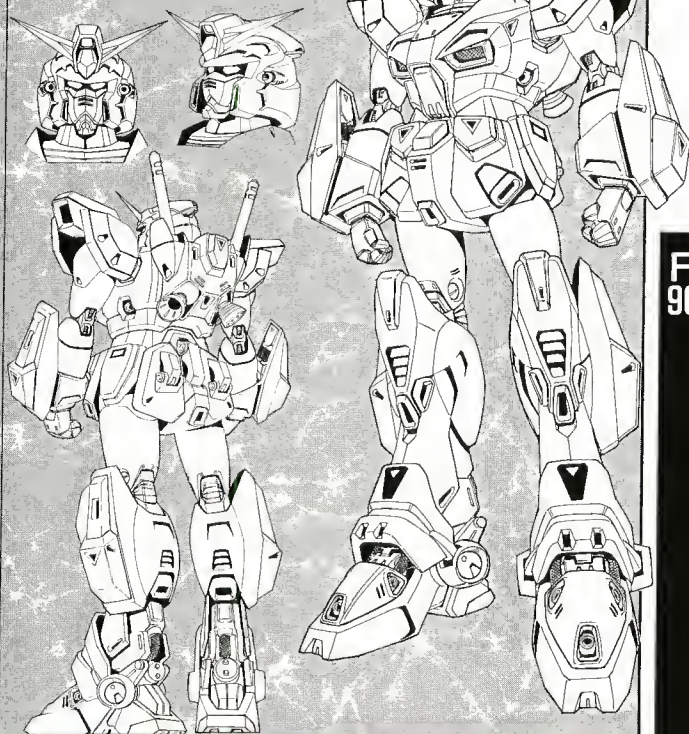
ORX-013 SPEC

頭頂高／22.8m 本体重量／39.8t 全備重量／85.3t ジェネレーター出力／5320kw スラスター推力／111200kg センサー有効半径／12000m 装甲材質／ガンダリウム合金 武装／ビームライフル、ビームサーベル×2、インコム×2、ビームカノン×2、ミサイルポッド×4

ガンダムMK-Ⅴ

ガンダムF90

F90は極めて機動性に富む「格闘戦仕様」のMSとして開発され、標準装備としてビームライフル、ビームサーベル等を装備している。また、ミッションパック換装によるシステム兵器でもあり、同一機体が性能の異なる別種のMSになるという特色をもっている。



F
90

F90 SPEC

頭頂高／14.8m 本体重量／7.5t 全備重量／17.8t ジェネレーター出力／3160kw スラスタ
 推力／74750kg アホシモーター数 51 装甲材質／カンタリウム合金セラミック複合材 ハードホ
 イント数／11 ウェホンラック数／1 武装／用達別、各運用仕様によりフォーマット化

ガンダムF90A

敵陣深く侵攻し、重要拠点にピンポイント攻撃を加えるタイプ。両肩にミノフスキークラフト方式の機動ユニットと大量の推進剤を装備し、飛行を可能にしている。



F
90
A

F90A SPEC

頭頂高／14.8m 本体重量／9.8t 全備重量／80.3t ジェネレーター出力／3160kw スラスター推力／102270kg アホジモーター数／61 装甲材質／ガンタリウム合金セラミック複合材 武装／バルカン砲×2、ビームサーベル×2、マシンキャノン×2、ビームキャノン×2、メカビームバズーカ

●ガンダム大図鑑

ガンダムF90D

敵主力に対する面制圧を目的とするタイプ。グレネード、MSクラッカーロケット弾、重機関砲などの近距離兵器を持つ。

F90D

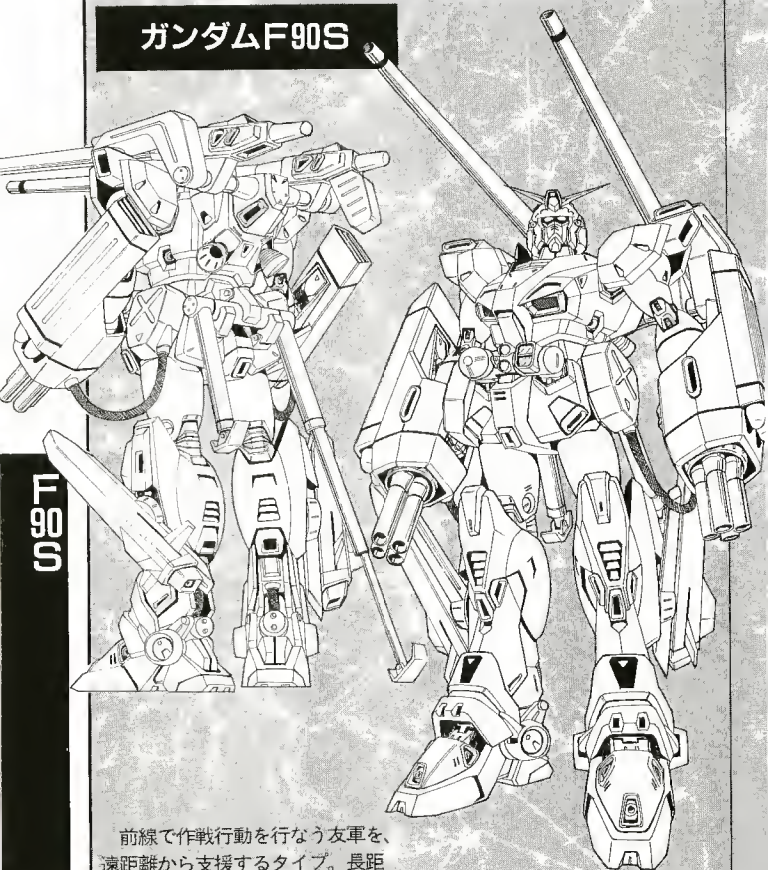
ビームライフル

シールド

F90D SPEC

頭頂高/14.8 本体重量/8.9t 全備重量/21.3t ジェネレーター出力/3160kw スラスタ
推力/91270kg アホシモーター数/67 装甲材質/ガンタリウム合金セラミック複合材 武装/
バルカン砲×2、ビームサーベル×2、ビームライフル、4連グレネイドラック×2、5連ロケット弾
バック×2、メガカトリングガン、MSクラッカー×2

ガンダムF90S



前線で作戦行動を行なう友軍を、遠距離から支援するタイプ。長距離メガビーム砲、レールキャノンなどの長距離兵器と長距離用複合照準器を持っている。

F90S SPEC

頭頂高／14.8m 本体重量／11.3t 全備重量／25.2t ジェネレーター出力／3160kw スラスター推力／74760kg アホシモーター数／62 装甲材質／ガンダリウム合金セラミック複合材 武装／バルカン砲×2、メガビームキャノン×2、2連ミサイルポッド×2、4連ビームキャノン×2、クルージングミサイル×2

ガンダムF90H

かつての局地戦用MSの傑作機、MS-09シリーズの特性を取り入れたタイプ。ホバー走行による高速移動で迫撃し、攻撃を加えた後に離脱する一撃離脱の攻撃方法をとる。



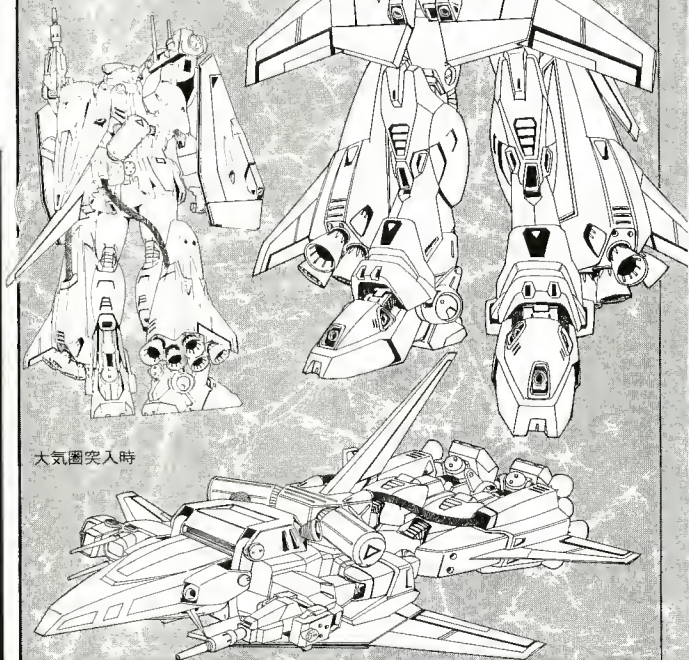
F90H

F90H SPEC

頭頂高／14.8m 本体重量／8.6t 全備重量／21.1t ジェネレーター出力／3160kw スラスター
 推力／190800kg アホシモーター数／53 装甲材質／ガンタリウム合金セラミック複合材 武装／
 ハルカン砲×2、ビームヒストル×1、4連ミサイルポッド×2

ガンダムF90P

宇宙用のMSの最大の課題である大気圏突入機能。その問題解決を実現するべく開発されたタイプ。増装を展開しリフティング・ボディを形成する。大気圏突入時の高熱に耐えうるウイング部分は、シールドとしても活用する。



大気圏突入時

F90P SPEC

頭頂高/14.8m 本体重量/10.7t 全備重量/32.5t ジェネレーター出力/3160kw スラスター推力/122470kg アホジモーター数/71 装甲材質/ガンダリウム合金セラミック複合材 武装/ハルカン砲×2、ビームキャノン

ガンダムF90M

F
90
M

アクアG M以来の水陸両用MSの開発計画によって生まれたタイプ。背部の大型ハイドロ・ジェットで水中を高速移動。各種魚雷と水中銃を装備、接近戦用にはコンバット・ナイフも装備している。

F90M SPEC

頭頂高／14.8m 本体重量／9.5t 全備重量／22.5t ジェネレーター出力／3160kw スラスター推力／141300kg アホジモーター数／65 装甲材質／ガンダリウム合金セラミック複合材 武装／バルカン砲×2、3連マリンロケットハック×2、ホーミングヒド×4、6連アローシューター、コンバットナイフ

ガンダムF90V

新たなる連邦軍の主力MS
のテストベースとして開発さ
れたタイプ。肩と脚部の安定
翼が独特なフォルムを形成し、
ビームシールドやヴェスパー
などの装備は、後のF91の開
発に活かされている。

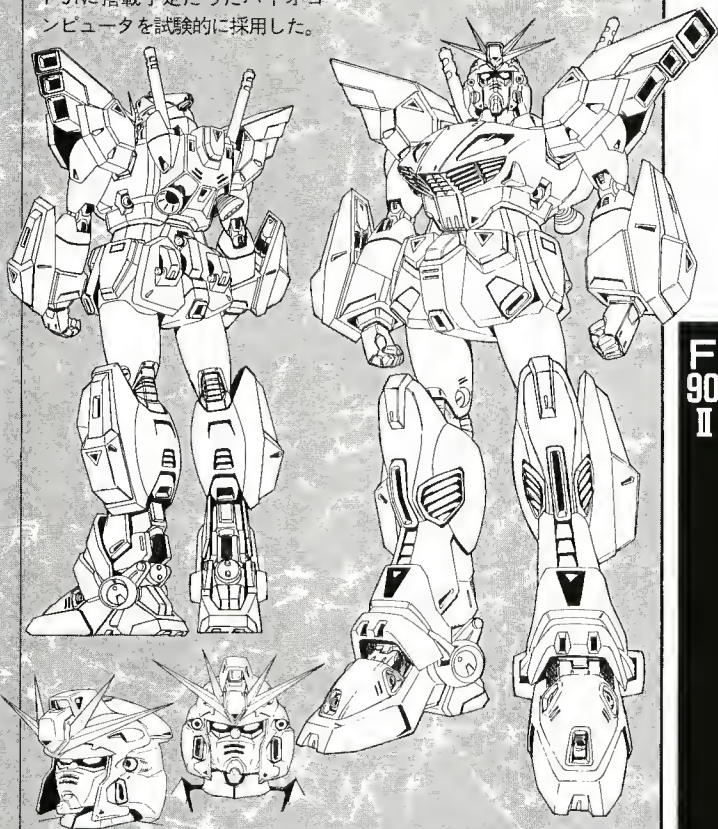


F90V SPEC

頭頂高/14.8m 本体重量/8.7t 全備重量/21.5t ジェネレーター出力/4420kw スラスター
 推力/758500kg アホシモーター数/66 装甲材質/ガンダリウム合金セラミック複合材 武装/
 バルカン砲×2、ヴェスパー×2、メガカリングガン、ビームサーベル×2、ビームライフル

奪取されたF902号機を回収、再生した機体。両脚部の刷新、新型のジェネレーターを搭載し、メインコンピュータは次期試作MS F91に搭載予定だったバイオコンピュータを試験的に採用した。

ガンダムF90Ⅱ



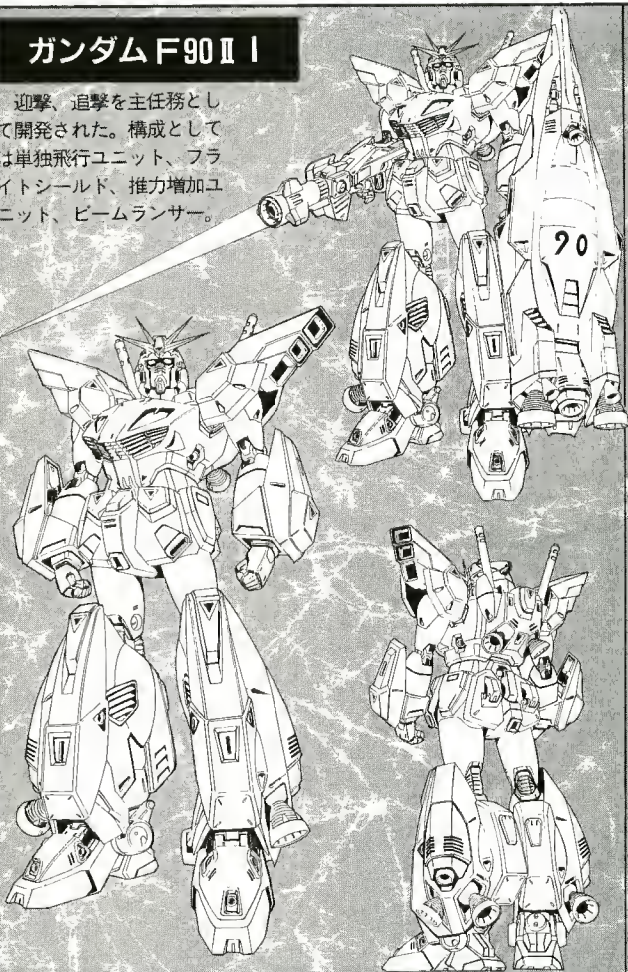
F90Ⅱ

F90Ⅱ SPEC

頭頂高／15.1m 本体重量／7.7t 全備重量／18.4t ジェネレーター出力／3880kw スラスター
 推力／79960kg アホジモーター数／60 装甲材質／ガンダリウム合金セラミック複合材 ハードボ
 イント数／11 ウェポンラック数／1 武装／内装バルカン砲×2、ビームサーベル×2

ガンダムF90Ⅱ I

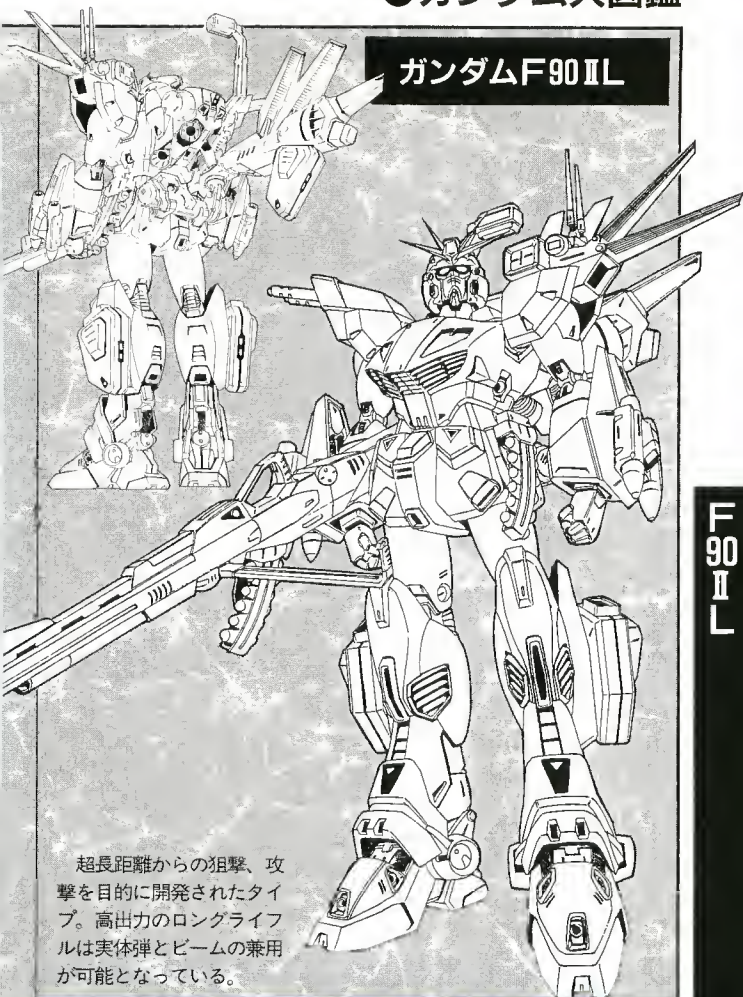
迎撃、追撃を主任務として開発された。構成としては単独飛行ユニット、フライトシールド、推力増加ユニット、ビームランサー。



F90Ⅱ SPEC

頭頂高 15.1m 本体重量 9.7t 全備重量 29.6t シンレター 出力 4150kw スラスター 推力 188080kg アホシキター数 63 装甲材質 カンタリウム合金セラミック複合材 武装 ハルカン砲×2、ビームサーベル×2、ビームランサー、マシンキャノン×2

ガンダムF90ⅡL



F90ⅡL

超長距離からの狙撃、攻撃を目的に開発されたタイプ。高出力のロングライフルは実体弾とビームの兼用が可能となっている。

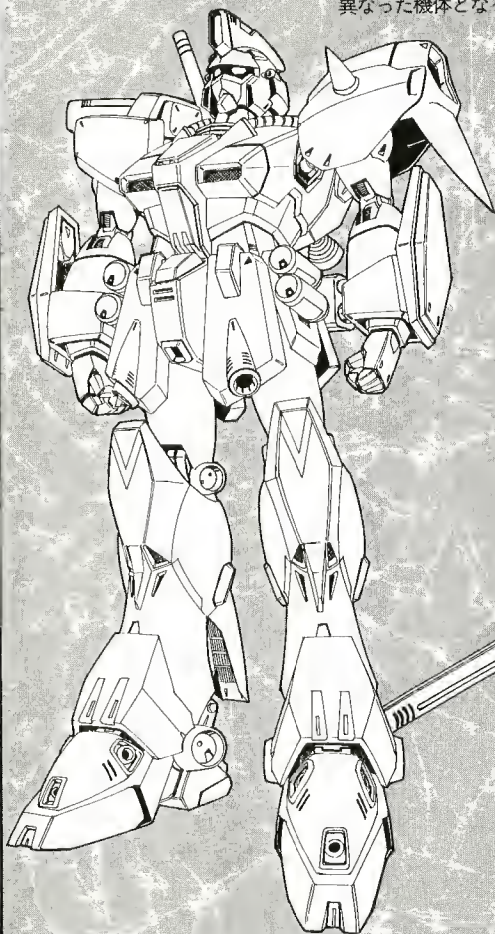
F90ⅡL SPEC

頭頂高／15.1m 本体重量／11.5t 全備重量／27.2t ジェネレーター出力／4290kw スラスタ
ー推力／109980kg アホジモーター数／58 装甲材質／カンダリウム合金セラミック複合材 武
装／バルカン砲×2、ビームサーベル×2、ロングライフル、連装ミサイルランチャー×2

OMS-90R 火星独立ジオン軍仕様

ガンダムF90

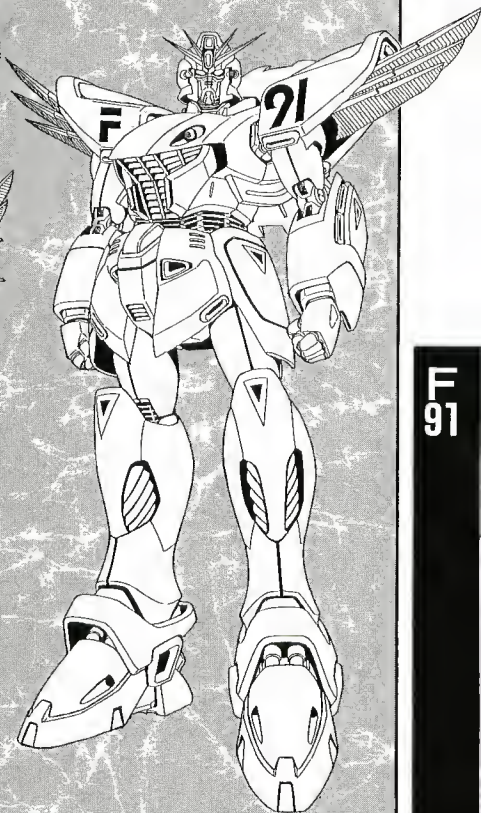
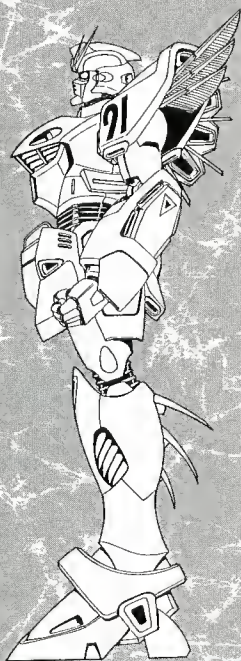
火星独立ジオン軍、通称オールズモビルが、奪取したF90を独自に改造を施した機体。外装のほとんどを変えられたため、まったく異なった機体となっている。



F90 / F90 火星独立ジオン軍仕様

ガンダムF91

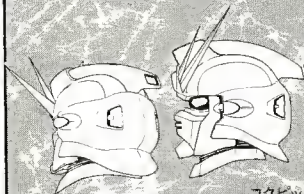
MSの小型化計画としてサナリィが開発したF90シリーズ、そのデータをもとにMS小型化技術の集大成として「現時点でのMSの限界性能の達成」を目標に生み出されたのがこのF91である。



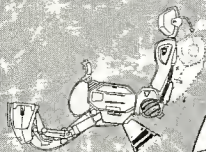
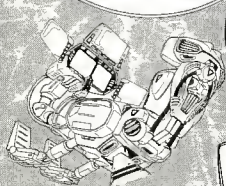
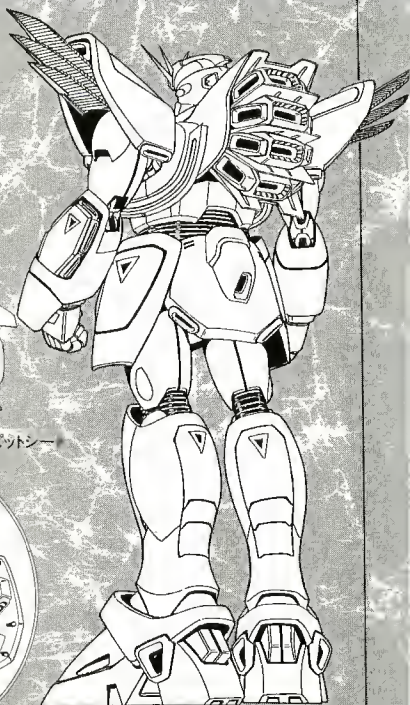
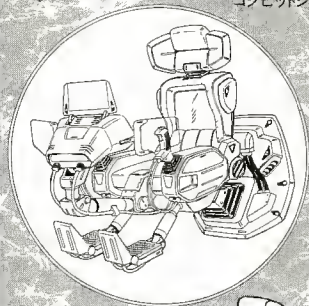
F91

F91 SPEC

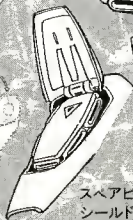
全高 15.2m 本体重量 7.8t 全備重量 19.9t シネレーター出力 4250kw スラスター推力 88400kg パンチ ター数 59 装甲材質 カンタリウム合金 武装 ハルガン砲×2、メガマインキャノン×2、ビームサーベル×2、ウェスパー×2、ビームシールド、ビームライフル



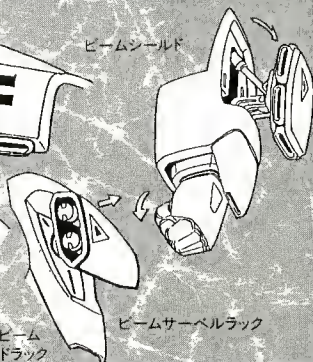
コクピットシー



ビームシールド

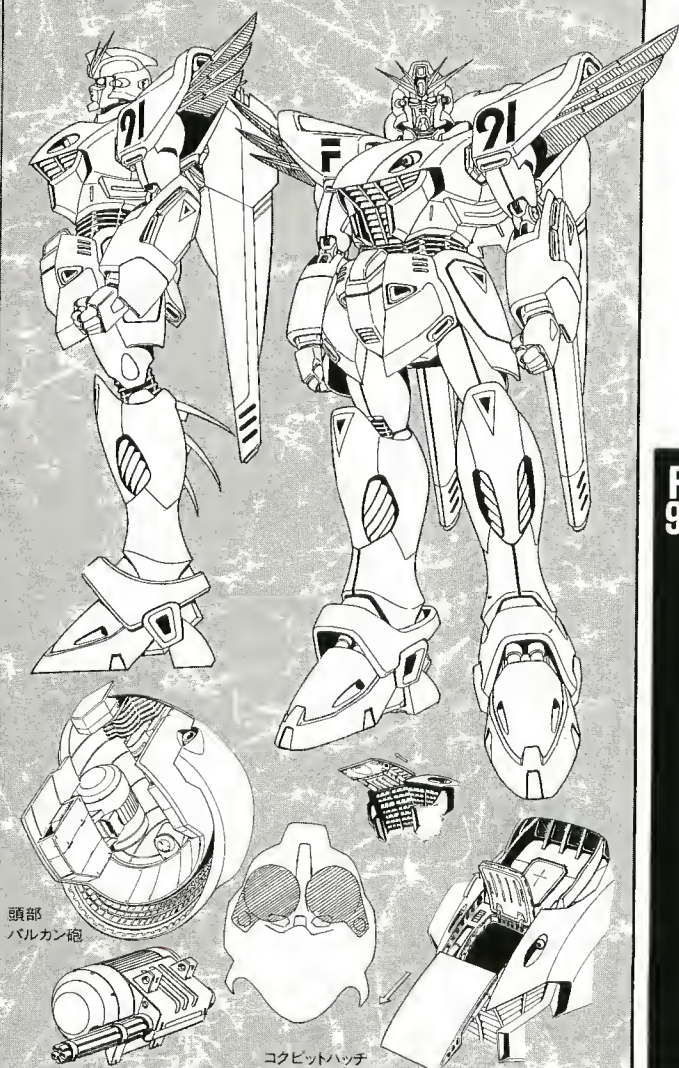


スぺアビーム
シールドラック

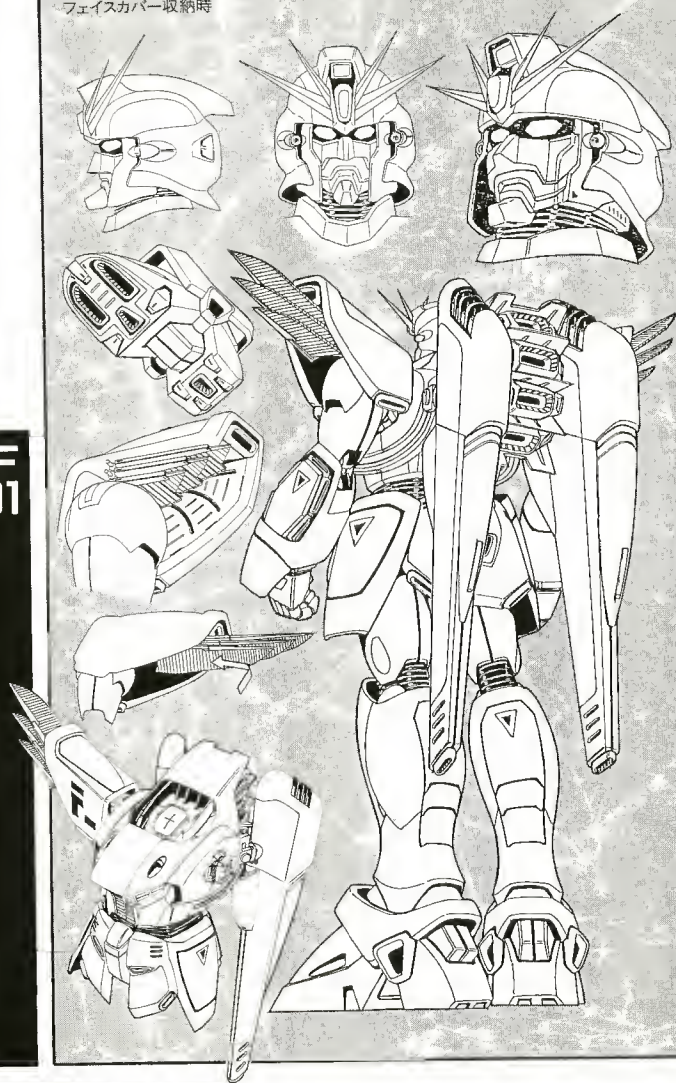


ビームサーベルラック

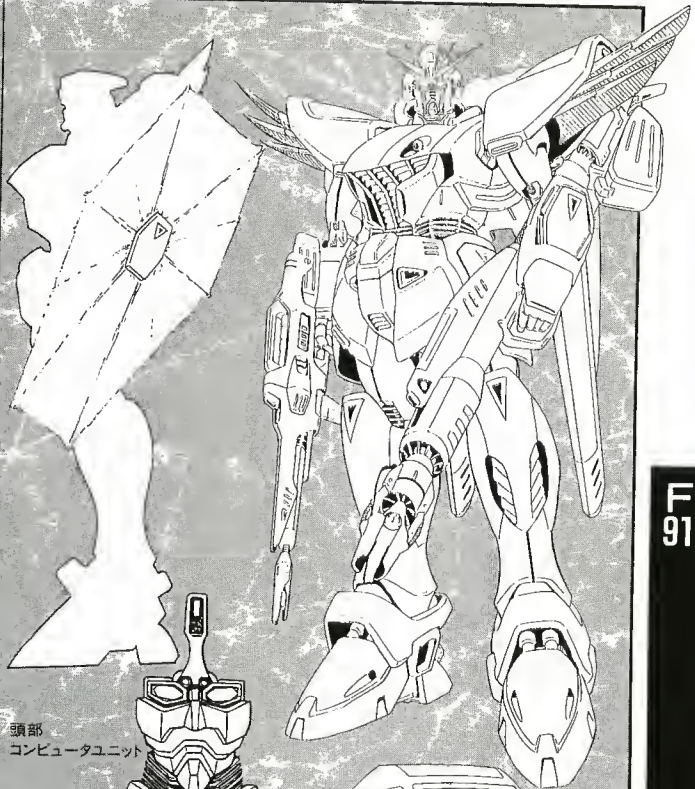
F
91



フェイスカバー収納時



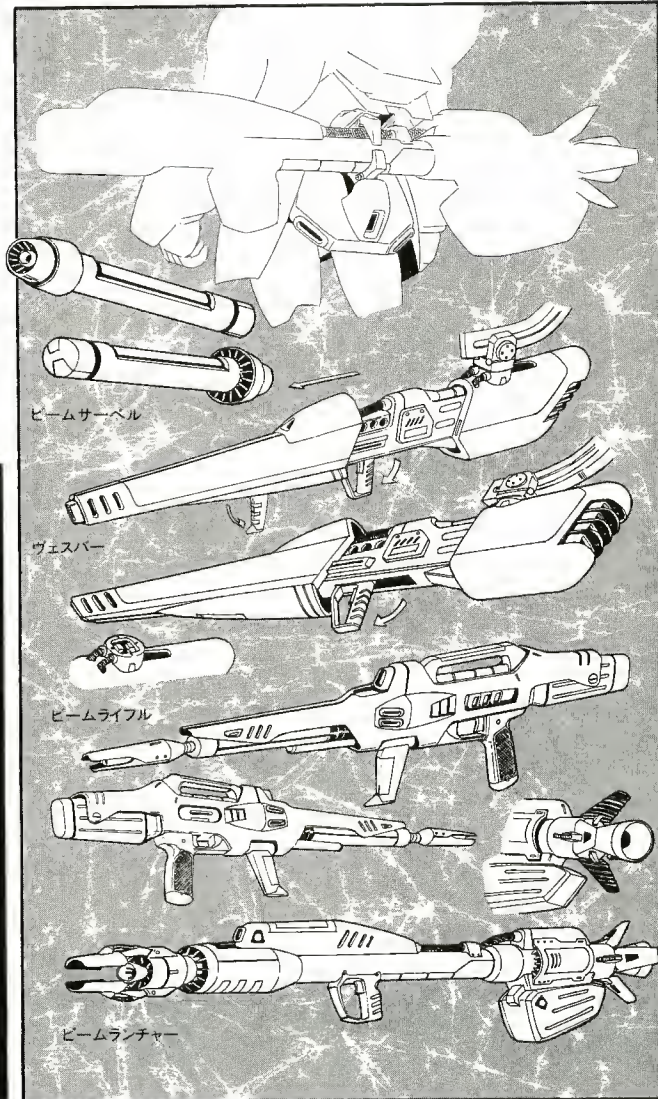
F
91



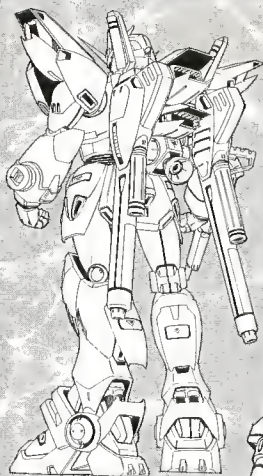
頭部
コンピュータユニット

コクピットコンソール

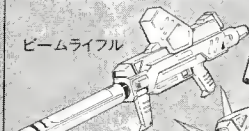
F
91



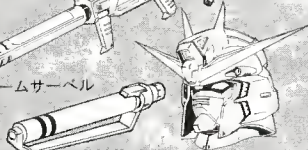
RXF-91 シルエットガンダム



ビームライフル



ビームサーベル



小型MS開発競争においてサナリィに破れたアナハイム社が、非合法に入手したサナリィの資料をもとに開発した機体。しかし、設計の基本データを盗用しているため、機体バランスなどはF91にかなり近い。

RXF-91 SPEC

頭頂高/15.4m 本体重量/8.5t 全備重量/21.7t ジェネレーター出力/4570kw スラスター推力/92080kg アホジモーター数/56 装甲材質/カンタリウム合金セラミック複合材 武装/バルカン砲×2、メガマシンガン×2、ヘビーマシンガン×2、ビームサーベル×2、ウェスバー×2、ビームシールド、ビームライフル、ビームスフレガン

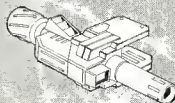
シルエットガンダム

RXF-91A シルエットガンダム改



ビームライフル

ゼブラゾーンでの戦闘において大破したRXF-91を改修した機体。損傷箇所の修復のほかに、ジェネレーター出力の向上や新型ウェスパーの換装などの改修を行なわれ、総合的に前性能を上回る能力をもっている。

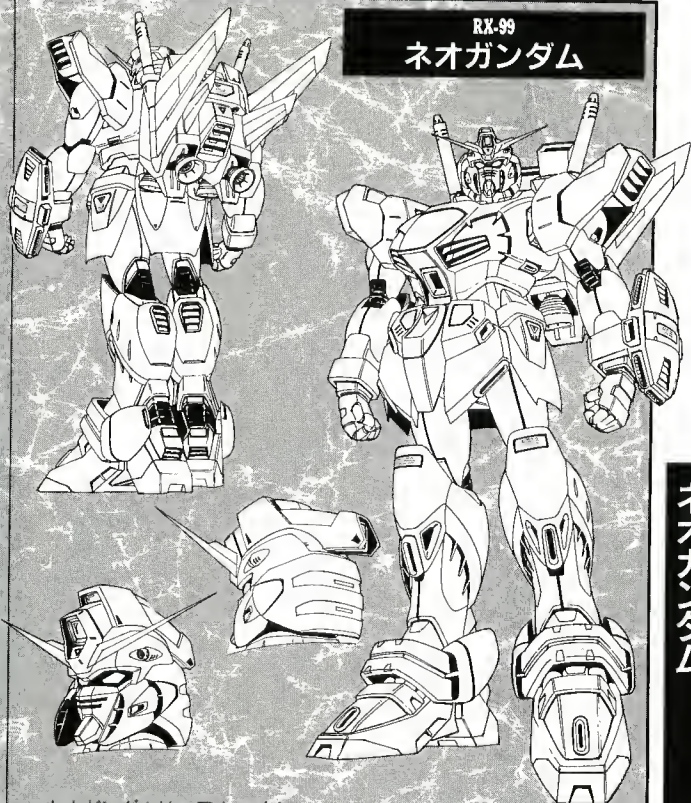


ウェスパー

RXF-91 SPEC

頭頂高／15.4m 本体重量／9.2t 全備重量／21.4t ジェネレーター出力／4890kw スラスタ／91480kg アホジモーター数／56 装甲材質／ガンタリウム合金セラミック複合材 武装／バルカン砲×2、メガマシンガン×2、ヘビーマシンガン×2、ビームサーベル×2、ウェスパー／ビームキャノン×2、ビームシールド、ビームライフル、グレネードランチャー

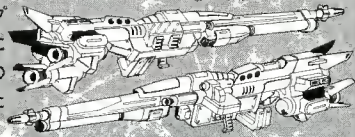
RX-99 ネオガンダム



ネオガンダム

ネオガンダムは、アナハイム社がシルエットフォーミュラプロジェクトで得た技術をもとに、今までのガンダムタイプMSのコンセプトを導入して製作した機体である。

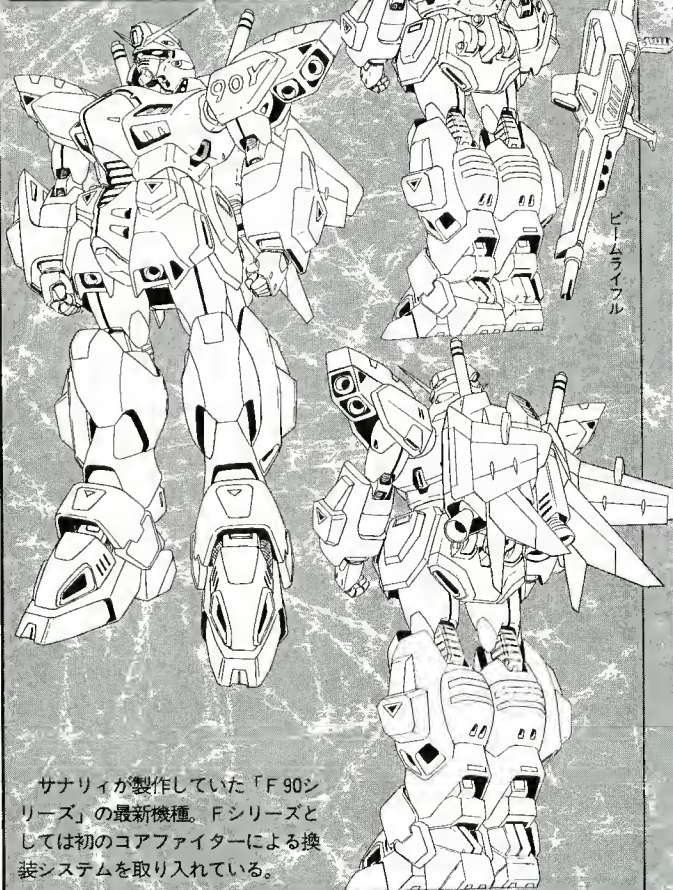
Gバード



RX-99 SPEC

頭高 15.1m 本体重量 7.9t 全備重量 20.7t エンジン出力 4710kw スラスター力 99200kg プラズマ・タコ 54 装甲材質 ガンダリウム合金セメント複合材 武装 バルカ 剣×2、Gバード(G-R, R, D)、ヒムリヘル(ヒムカン)×2、ヒムバルカン×2、ヒムリルト

F90ⅢY クラスターガンダム



ビームライフル

サナリィが製作していた「F90シリーズ」の最新機種。Fシリーズとしては初のコアファイターによる換装システムを取り入れている。

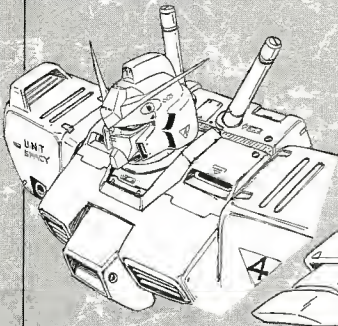
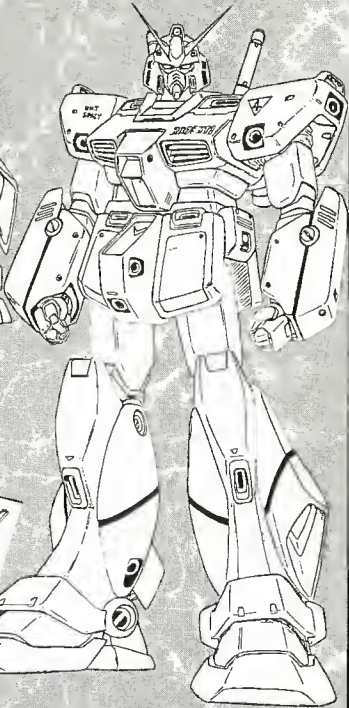
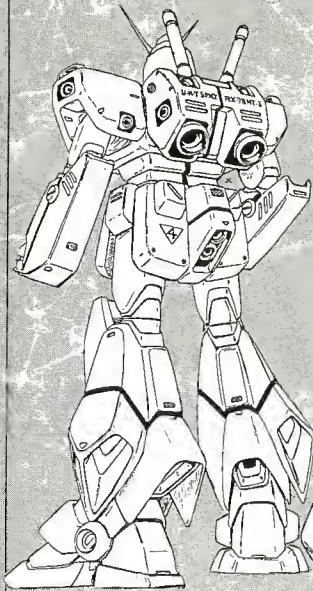
F90ⅢY SPEC

頭頂高 15.0m 全機重量 9.7t 全機重量 26.5t エンジン 出力 4550kw スラスター 推力 120760kg アホニオ 数 46 装甲材質 カタリウム合金セメント複合材 武装 ハルカン砲×2、トーマハルカン×2、トーマサーベル×2、トーマン ルト、ビームライフル、メガビームバズーカ×2

RX-78NT1

ガンダムアレックス

RX-78NT1は、1年戦争時に地球連邦軍が開発した4番目のガンダムである。NT1の特徴は、第1に機体の追従性が高いことで、最新のマグネットコーティング技術などが採用されている。



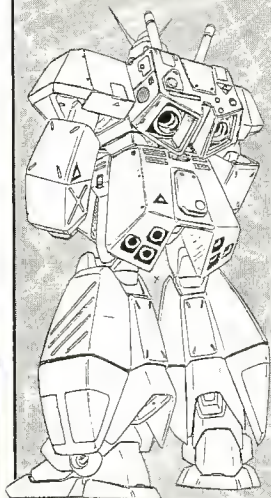
RX-78NT1 SPEC

頭頂高／18.0m 本体重量／40.0t 全備重量／72.5t ジェネレーター出力／1420kw スラスター推力／132000kg アホンモーター数／19 装甲材質／ルナチタニウム 武装／60mmバルカン砲、ヒームサーベル×2、90mmカトリングガン×2、ヒームライフル、シールド

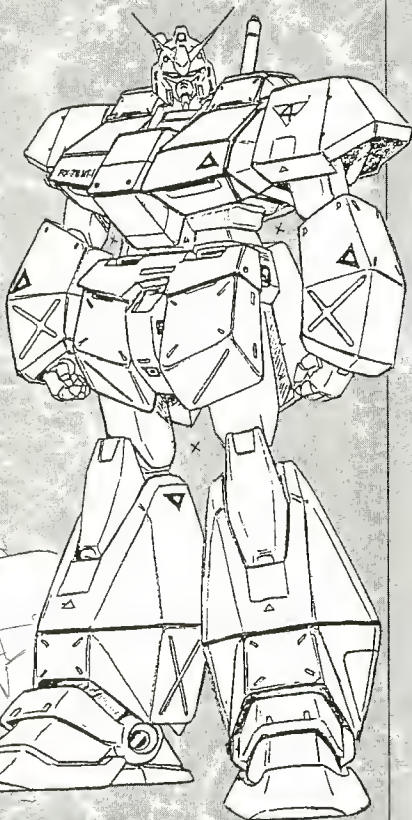
ガンダムアレックス

RX-78NT1-FA フルアーマーガンダムアレックス

NT1はかねてより進められていたフルアーマー・オペレーションにより、チョバムアーマー（複合装甲＝ハイブリッドアーマーと一般的に呼ばれている）製の増加装甲が試作された。



コクピット・ハッチ



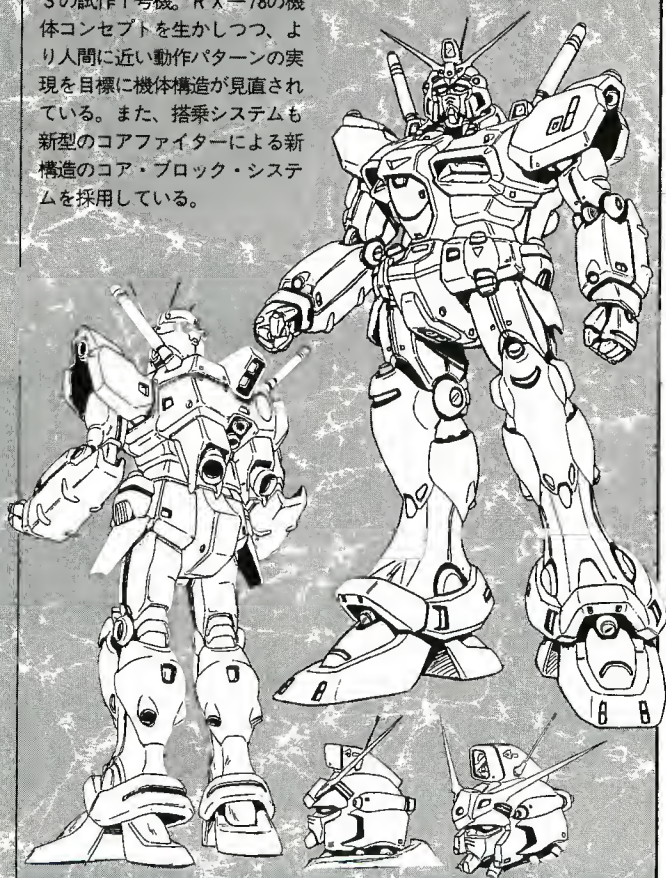
RX-78NT1-FA SPEC

頭頂高／18.0m 本体重量／50.0t 全備重量／95.0t ジェネレーター出力／1420kw スラスト一推力／14000kg アボジモーター数／13 装甲材質／ルナチタニウム

RX-78GP01

ガンダム試作1号機

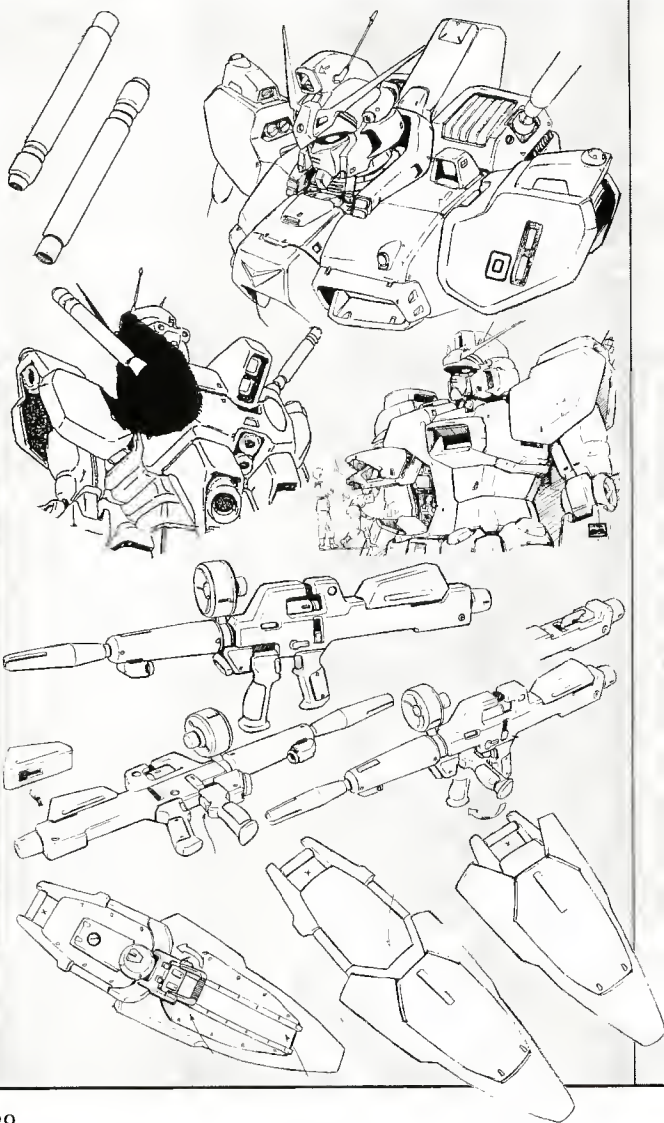
アナハイム・エレクトロニクス社が中心となって開発した多目的汎用型ガンダム・タイプMSの試作1号機。RX-78の機体コンセプトを生かしつつ、より人間に近い動作パターンの実現を目標に機体構造が見直されている。また、搭乗システムも新型のコアファイターによる新構造のコア・ブロック・システムを採用している。



RX-78GP01 SPEC

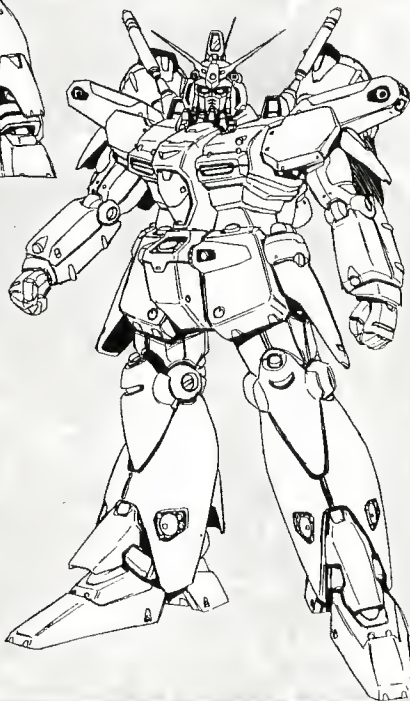
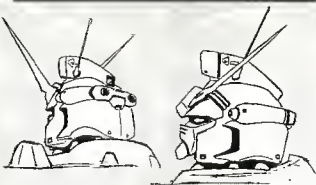
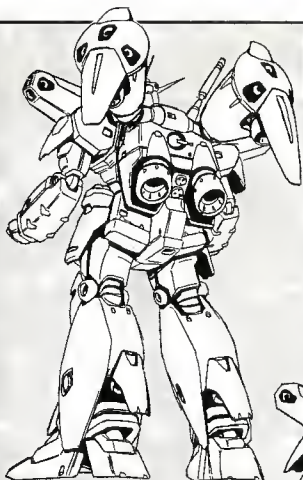
全高 18.0m 全機重量 39.7t 全備重量 65.0t 180 姿勢制御 0.9sec シェネル・ターボ出力 1790kw スラスター 推力 108000kg 主武器 60mmハルカン×2、ビームサベル×2、ビームナイフ

ガンダム試作1号機



●ガンダム大図鑑

RX-78GP01-Fb ガンダム試作1号機フルバーニアン



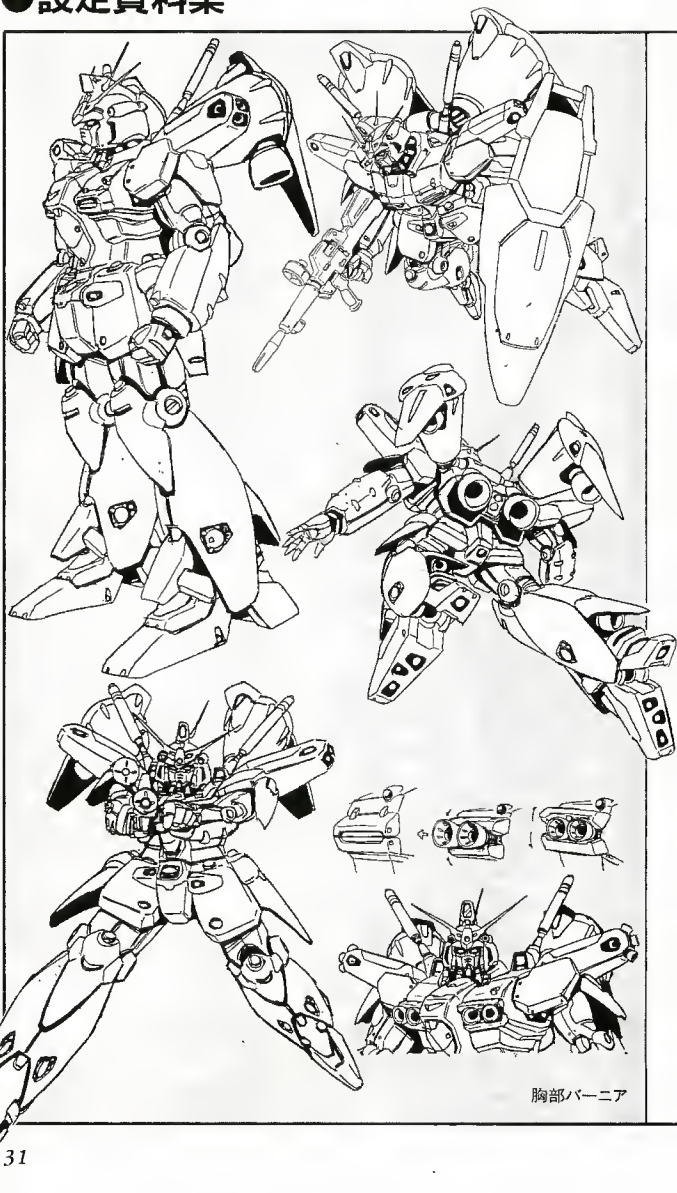
月面のアナハイム工場で、重力下仕様から宇宙仕様に換装されたガンダム試作1号機。もともとコアファイターや機体各所の換装によって、宇宙空間での稼動も計画に入れて開発されたため、機体の基本フレームは大きく変化していない。増設された各所のスラスターによって機動、運動性とも飛躍的に向上している。

RX-78GP01-Fb SPEC

頭頂高／18.5m 本体重量／43.2t 全備重量／74.0t 180°姿勢変換／0.8sec ジェネレーター出力／2045kw スラスター推力／72000kg 武装／60mmバルカン×2、ビームガン×2、ビームサーベル×2、ビームライフル×2

ガンダム試作1号機（宇宙仕様）

ガンダム試作1号機
(宇宙仕様)

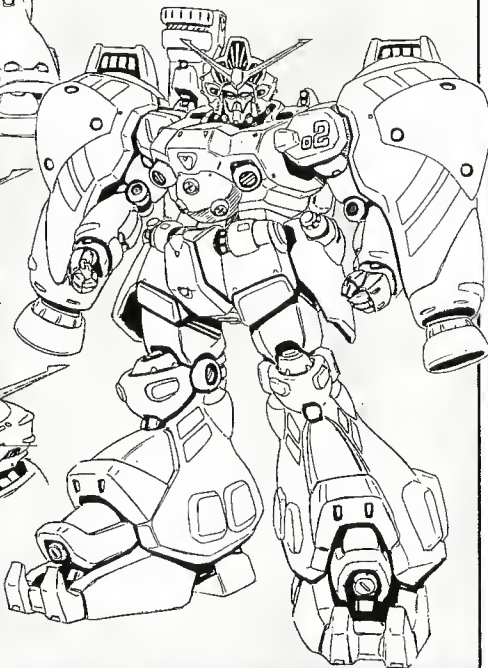
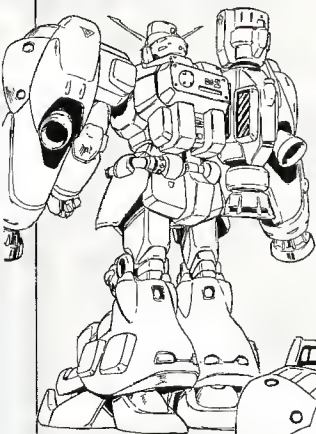


●ガンダム大図鑑

RX-78GP02A

ガンダム試作2号機

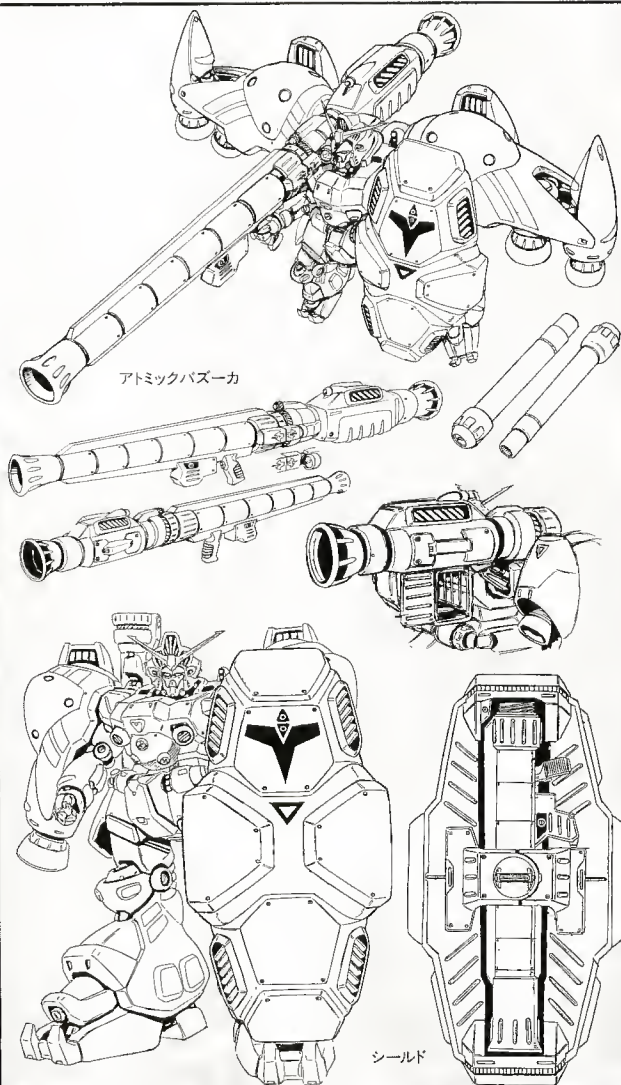
1号機同様アナハイム社が開発したガンダムタイプのMS。戦略核の使用を目的に開発された機体で、背部のバズーカ砲に核弾頭を装備することが可能である。また、機体各部の装甲は核使用時を想定され耐熱、対衝撃処理をほどこされている。



ガンダム試作2号機

RX-78GP02A SPEC

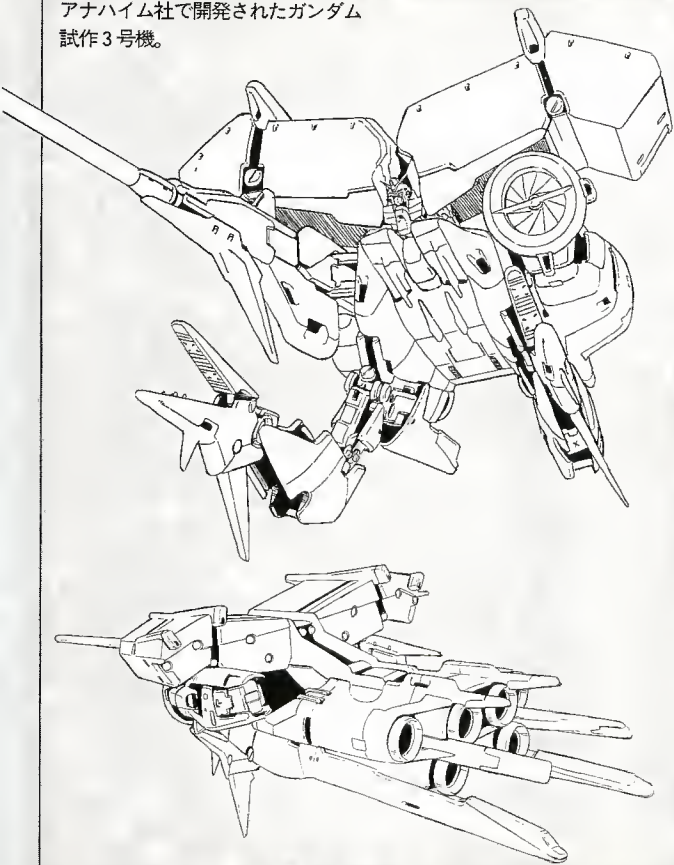
頭頂高/18.5m 本体重量/54.5t 全備重量/83.0t ジェネレーター出力/1860kw スラスター推力/155200kg 姿勢変換/1.1sec 武装/60mmバルカン砲×2、ビームサーベル×2、専用バズーカ



RX-78GP03

ガンダム試作3号機

汎用性の高いMSの利点と、攻撃力の高いMAの利点を兼ね備えた機動兵器というコンセプトのもとに、アナハイム社で開発されたガンダム試作3号機。

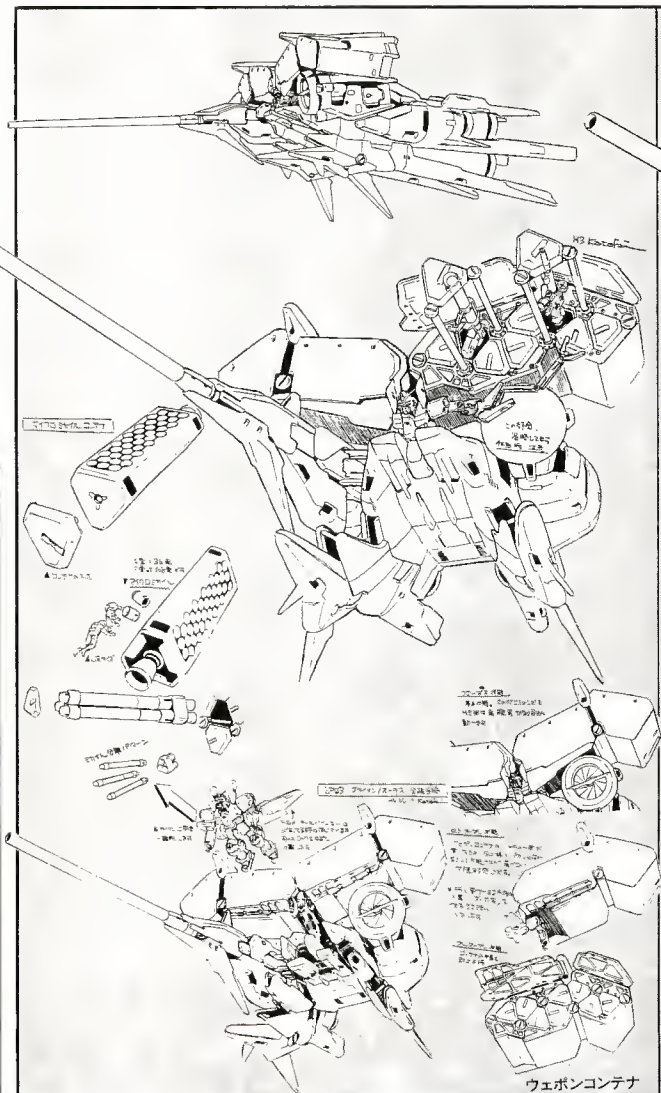


ガンダム試作3号機

RX-78GP03 SPEC

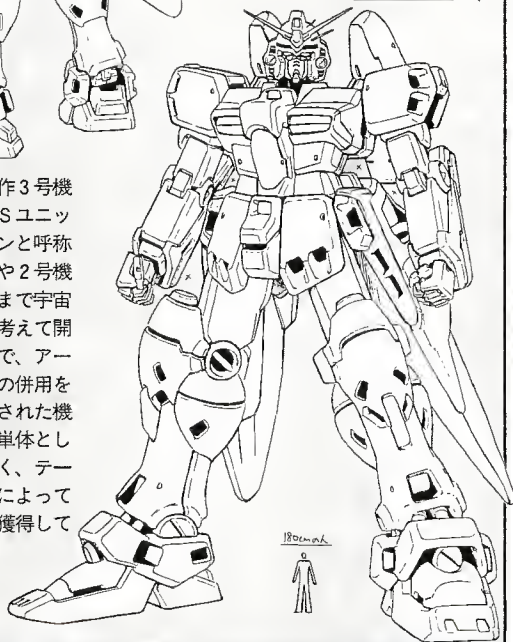
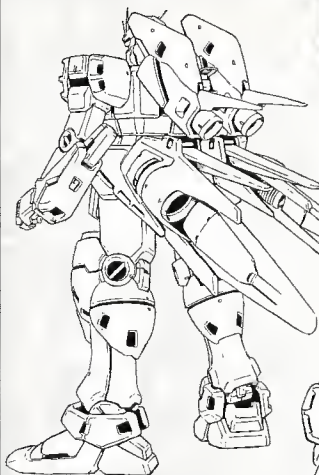
全長/140.0m(砲含まず/73.0m) 全高/38.5m 全幅/62.0m 自重/226.4t 総重量/453.1t ジェネレーター出力/38900kw スラスター推力/306500kg 武装/ロングライフル×1、大型ビームサーベル×2、1フィールド・バリア、ビームライフル、バズーカ、誘導索、ミサイルポッド、その他

ガンダム試作3号機



RX-78GP03S

ガンダム試作3号機ステイメン

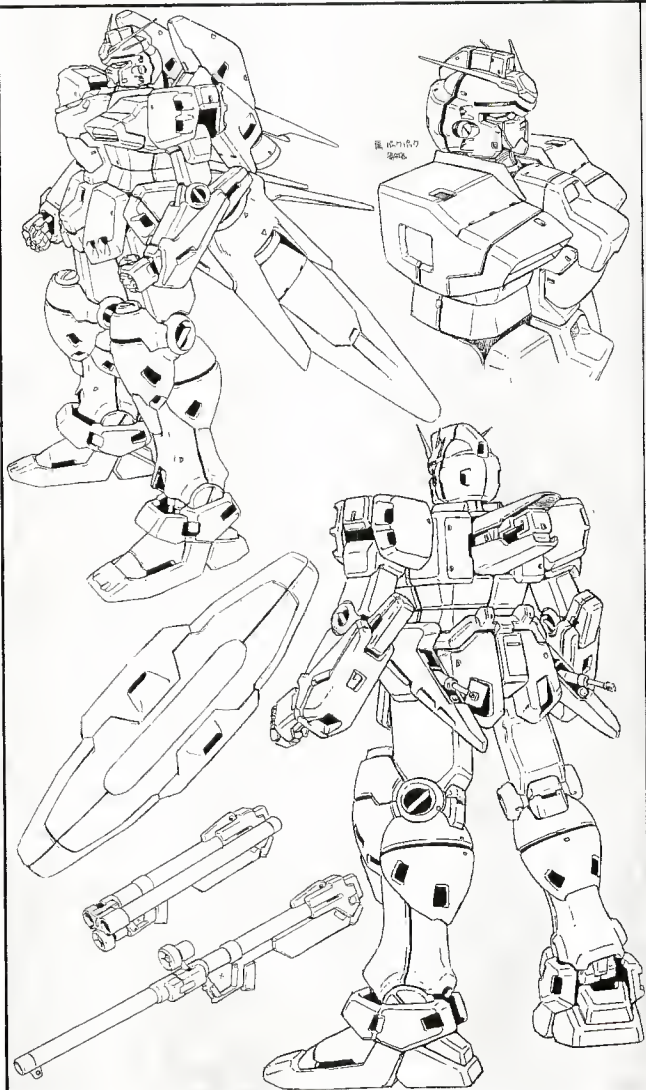


ガンダム試作3号機を構成するMSユニットをステイメンと呼称する。1号機や2号機と違い、あくまで宇宙戦闘を中心に考えて開発された機体で、アームドベースとの併用を想定して開発された機体ながらMS単体としての性能も高く、テールバインダーによって高い機動性を獲得している。

RX-78GP03S SPEC

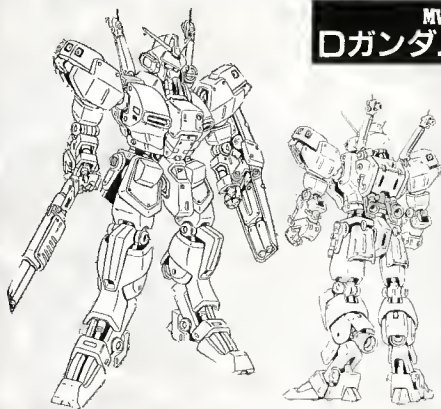
頭頂高/18.0m 本体重量/41.6t 全備重量/70.0t 180°姿勢変換/0.8sec ジェネレーター出力/2000kw スラスター推力/104000kg 武装/ビームサーベル×2、ビームライフル×2、バズーカ、その他

ガンダム試作3号機ステイメン



ガンダム試作3号機ステイメン

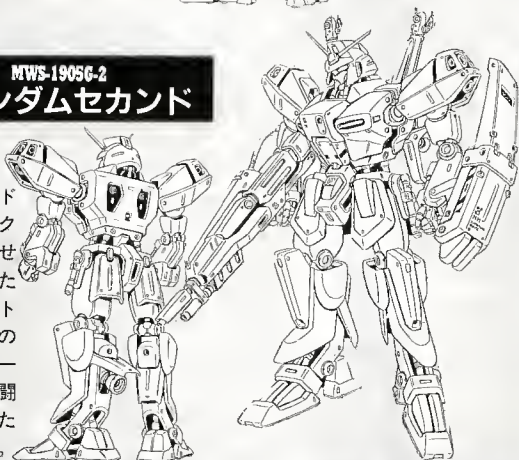
MWS-19051G Dガンダムファースト



Dファーストはダリエル・ガンズ（ダリー・ニエル・ガンズ）がモノトーン・マウス社のバックアップを受け、多種のMSジャンクパーツを集めて作った作業用MSである。

MWS-1905G-2 Dガンダムセカンド

Dセカンドは、ジャンクパーツの寄せ集めであったDファーストをアラハスのファクトリーチームが戦闘用に改造した機体である。



MWS-19051G SPEC

頭頂高／18.9m 本体重量／53.4t 全備重量／53.4t ジェネレーター出力／1820kw スラスター推力／52050～98350kg 装甲材質／チタニウムセラミック複合材 武装／リベットガン、大型トリモチ弾、マグネットアンカー、ドリルガン、ダミー（MS・岩）、各種有線式爆弾

MWS-1905G-2 SPEC

頭頂高／18.9m 本体重量／42.2t 全備重量／52.8t ジェネレーター出力／2002kw スラスター推力／53580～99510kg 装甲材質／チタニウムセラミック複合材 武装／コードコネクテッドライフル、ビームサーベル×2

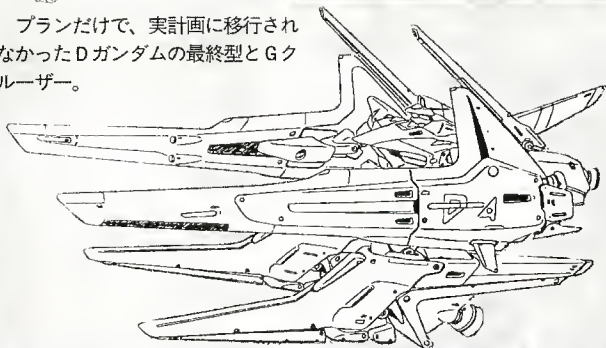
Dファースト／Dセカンド

RGX-D3 Dガンダムサード



RGX-D4 Dガンダムフォース&Dクルーザー

プランだけで、実計画に移行されなかったDガンダムの最終型とGクルーザー。



RGX-D3 SPEC

頭頂高/19.5m 本体重量/41.5t 全備重量/55.5t ジェネレーター出力/2528kw スラスター推力/64296~119497kg センサー有効半径/14200m 装甲材質/ガンダリウム合金 武装/ビームライフル、ビームサーベル、Gプラストナックル

RGX-D4 SPEC

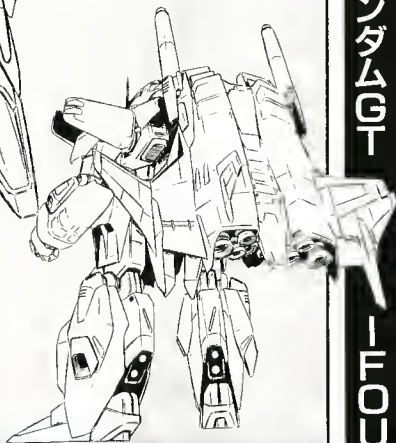
頭頂高/19.1m 本体重量/41.2t 全備重量/96.8t ジェネレーター出力/2763kw スラスター推力/72658~137251kg センサー有効半径/14200m 装甲材質/ガンダリウム合金 武装/ビームライフル、ビームサーベル、Dクルーザーユニット(メガキャノン×2、ビーム砲×2)

RX-78E

ガンダムGT-FOUR



RX-78G-3を母体とした次期構想機の開発計画によって生まれた機体が、このGT-FOURである。MSの地球上での行動半径拡大を目指して造られたこの機体は、航空機とMSの性能を変形によって合わせもつ特異なMSである。



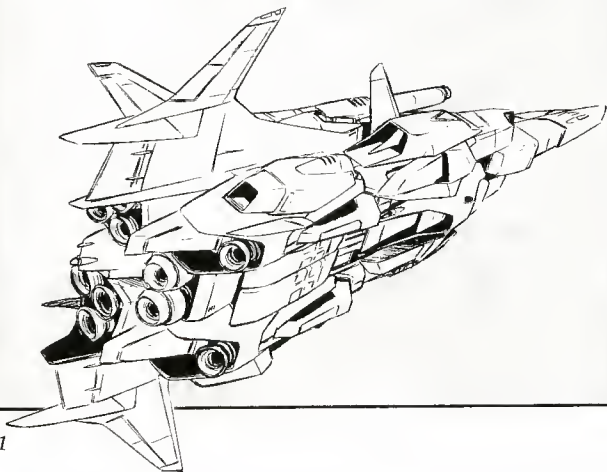
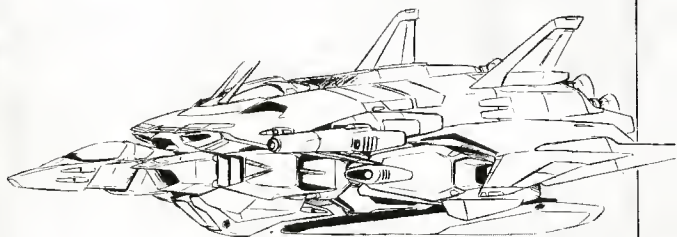
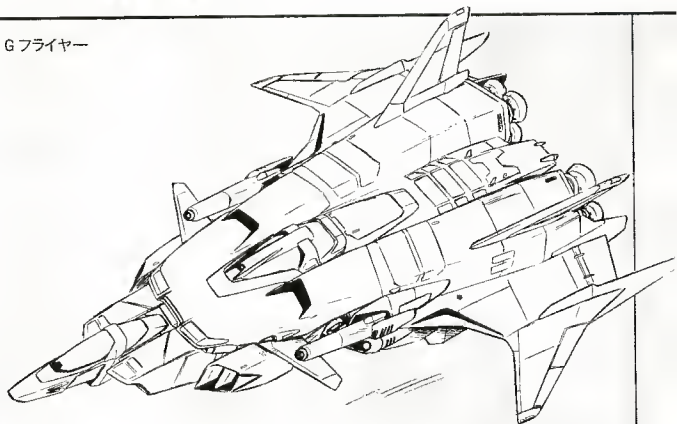
RX-78E SPEC

頭頂高／19.8m 本体重量／69.2t 全備重量／98.5t ジェネレーター出力／1990kw スラスタ一推力／83200kg センサー有効半径／6030m 装甲材質／ルナチタニウム 武装／ビームキャノン×2、バルカン砲×2（コアファイター機首に機銃×4）、備考／コアブースター形態時、巡航速度／1030km/h、最高速度／mach1.2、航続距離／900nm

ガンダムGT

FOUR

G フライヤー



RGZ-91B	リ・ガズィカスタム	24,
RX-78-1	プロトタイプガンダム	12,
RX-78-2	ガンダム	2, 3, 12, 56,
RX-78-3	G-3ガンダム	12,
RX-78-4	ガンダム4号機	12, 57,
RX-78-5	ガンダム5号機	13, 58,
RX-78-6	ガンダム6号機	13, 59,
RX-78-7	ガンダム7号機	13, 60,
RX-78E	ガンダムGT-FOUR	32, 140, 141,
RX-78GP01	ガンダム試作1号機	4, 5, 30, 128, 129,
RX-78GP01-Fb	ガンダム試作I号機フルバーニアン	4, 5, 30, 130, 131,
RX-78GP02A	ガンダム試作2号機	30, 132, 133,
RX-78GP03	ガンダム試作3号機	4, 5, 31, 134, 135,
RX-78GP03S	ガンダム試作3号機ステイメン	30, 136, 137,
RX-78NT1	ガンダムアレックス	4, 5, 29, 126,
RX-78NT1-FA	フルアーマーガンダムアレックス	29, 127,
RX-178	ガンダムMK-II	6, 7, 16, 64, 65,
RX-93	νガンダム	8, 9, 23, 84, 85, 86, 87,
RX-93	νガンダムDFF装備型	24,
RX-94	量産型νガンダム	24, 91, 92, 93,
RX-99	ネオガンダム	10, 11, 29, 124,
RXF-91	シルエットガンダム	10, 11, 28, 122,
RXF-91A	シルエットガンダム改	10, 11, 28, 123,
MRX-009	サイコガンダム	18, 72,
MRX-010	サイコガンダムMK-II	18, 73,
MRX-07	プロトタイプサイコガンダム	19, 74,
MRX-011	量産型サイコガンダム	19, 75,
MSA-0011	S-ガンダム	21, 94, 95, 96,
MSA-0011Ex	Ex-Sガンダム	97, 98, 99,
MSA-0011Bst	Bst-Sガンダム	99,
MSF-007	ガンダムMK-III	19, 70,
MSZ-006	Zガンダム	6, 7, 16, 62, 63,
MSZ-006x1, x2, x3	プロトZガンダム	17, 68,
MSZ-006C1	Zプラス	22, 100, 101,
MSZ-007	量産型Zガンダム	17, 66,
MSZ-008	ZII	17, 69,
MSZ-009	プロトタイプZZガンダム	21, 82,
MSZ-010	ZZガンダム	6, 7, 20, 96, 77, 78, 79,
MSZ-010S	ZZガンダム強化型	80,
MSZ-013	量産型ZZガンダム	21, 83,
MWS-19051G	Dガンダムファースト	31, 138,
MWS-1905G-2	Dガンダムセカンド	31, 138,

MS大図鑑PART.8「ガンダム大鑑」

索引 INDEX

●ここでは、本紙に掲載した機動戦士ガンダムのTVシリーズ、劇場版、コミック等に登場したすべての「ガンダム」と名のつくMSを、型式番号のアルファベット順にまとめました。見出しの単語を選び、記されているページ数を見てください。そのMSの解説やスペックなどがわかるようになっています。

ガンダム F90	8, 9, 25, 104,
ガンダム F90A	25, 105,
ガンダム F90D	25, 106,
ガンダム F90S	25, 107,
ガンダム F90H	26, 108,
ガンダム F90P	26, 109,
ガンダム F90M	26, 110,
ガンダム F90V	27, 111,
ガンダム F90II	27, 112,
ガンダム F90II I	27, 113,
ガンダム F90II L	27, 114,
F90III Y クラスターガンダム	29, 125,
ガンダム F91	8, 9, 28, 116, 117, 118, 119, 120, 121,
FA-78-1 フルアーマーガンダム	13,
FA-78-2 ヘビーガンダム	15,
FA-78-3 フルアーマーガンダム7号機	14,
FA-178 フルアーマーガンダムMK-II	17, 67,
FA-007G フルアーマーガンダムMK-III	19, 71,
FA-010S フルアーマーZ Zガンダム	20, 81,
FA-010-B FAZZ	102,
FA-93HWS ヲガンダムHWS装備型	24,
FHA-78-3 重装フルアーマーガンダム	15,
ORX-013 ガンダムMK-V	22, 103,
OMS-90R ガンダムF90火星独立ジオン軍仕様	27, 115,
PF-78-1 パーフェクトガンダム	15,
RAG-79-G1 水中型ガンダム	14, 61,
RGX-D3 Dガンダムサード	32, 139,
RGX-D4 Dガンダムフォース&Dクルーザー	32, 139,
RGZ-91 リ・ガズィ	23, 88, 89, 90,

ENTERTAINMENT BIBLE.52
機動戦士ガンダムMS大図鑑 PART.8 SPECIALガンダム大鑑

目次

「ガンダム大鑑」

ガンダム戦史	<i>GUNDAM War History</i>	2
オールガンダム名鑑	<i>All GUNDAM Catalogue</i>	12
ガンダム開発史	<i>GUNDAM Developement History</i>	33
ガンダム性能比較	<i>Aniabiliy Symmery of GUNDAM</i>	43
ガンダム・オフィシャル・レポート	<i>GUNDAM Official Report</i> ...	47
設定資料集	<i>Design Collection</i>	55
MS用語事典	<i>MS Giossany</i>	42, 46
索引	<i>Index</i>	142
Vガンダム設定資料	巻頭付録



■発行日 1993年2月28日 初刷
■発行人 山科 誠
■編集人 加藤 智
■発行 株式会社バンダイ
〒111 東京都台東区駒形2-5-5
(営業TEL) 03-5828-3070

■印刷・製本 共同印刷株式会社
■編集・構成 仲重舎 井上 徹・渡辺利浩
■デザイン シイバミツヲ & ケンヂ
■協力 サンライズ・井上幸一

ISBN4-89189-206-4

©創通エージェンシー・サンライズ